

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第559集

とちゅう
戸仲遺跡第3次発掘調査報告書

一般国道106号築川道路起点部改良工事関連遺跡発掘調査

2009

岩手県盛岡地方振興局土木部
築川ダム建設事務所

(財) 岩手県文化振興事業団

戸仲遺跡第3次発掘調査報告書

一般国道106号築川道路起点部改良工事関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一般国道106号簗川道路起点部改良工事に関連して平成20年度に発掘調査された盛岡市戸仲遺跡第3次調査の成果をまとめたものです。本遺跡は縄文時代後期の配石遺構が存在することで知られておりましたが、今回の調査では縄文時代中期後葉から末葉の竪穴住居群が確認されました。これは、本遺跡のみならず、簗川流域における縄文期の集落様相や変遷を考える上で貴重な資料となるものであります。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県盛岡地方振興局土木部簗川ダム建設事務所、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成21年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田牧雄

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県盛岡市川日第4地割51-3ほかに所在する戸仲遺跡第3次調査の発掘調査結果を取録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、一般国道106号篠川道路起点部改良工事に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県盛岡地方振興局土木部篠川ダム建設事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、岩手県盛岡地方振興局土木部篠川ダム建設事務所の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号は「LE28-0232」、遺跡略号は「YTT-08-03」である。
- 4 調査に関わる期間、面積、担当者は次のとおりである。

野外調査

期間：平成20年4月11日～6月17日／面積：1,500m²／担当者：丸山浩治、菅野紀子
室内整理

期間：平成20年5月27日～8月1日・9月16日～22日・10月1日～20日・11月4日～14日
担当者：不在（作業員2名のみ）

平成20年11月17日～平成21年2月13日／担当者：菅野紀子

- 5 報告書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県盛岡地方振興局土木部篠川ダム建設事務所、Ⅱ～VI章の一部を丸山が行い、それ以外は編集・構成を含め菅野が担当した。
- 6 石器石材鑑定は、花崗岩研究会に委託した。
- 7 調査および報告書作成にあたり、次の方々及び機関から御指導・御助言をいただいた（順不同、敬称略）。
八木勝枝（岩手県立博物館）、菅野智則（東北大学）、盛岡市教育委員会
- 8 発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 9 調査成果は当センターホームページ、調査概報等に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。

凡　　例

1 造構実測図の用例は下記のとおりである。

- (1) 造構実測図の縮尺は基本的に次のとおりである。ただし一部異なるものもあるため各図にスケールおよび縮尺を付した。

竪穴住居・土坑・陥し穴状造構→1/50

焼土造構・配石造構・集石造構・埋設土器造構・柱穴状土坑→1/30

溝→1/100(平面)・1/50(断面)

- (2) 推定線は破線で示した。

- (3) 層位の表記には、基本層序にローマ数字、各造構埋土に算用数字を使用した。

- (4) 土層色調の観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。混入物量(%)の目安もこれを参考にした。

- (5) 図面中の土器は「p」、石器および礫は「s」の略号で表記した。

- (6) 挿図中で使用した網掛けおよびスクリーントーンの主な用例は凡例図のとおりである。これ以外の使用箇所については各図に用例を表記した。

2 遺物実測図の用例は下記のとおりである。

- (1) 各遺物の縮尺は基本的に次のとおりである。ただし一部異なるものもあるため各図にスケールおよび縮尺を付した。

縄文土器→1/3、土製品→1/2

剥片石器→2/3、礫石器・石製品→1/3

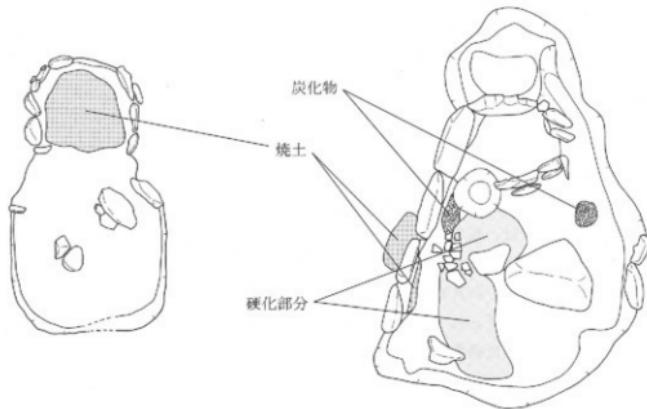
須恵器・陶器・鉄製品→1/1

- (2) 遺物の計測位置およびスクリーントーンの用例は凡例図のとおりである。計測値は、残存値の場合()で表記した。

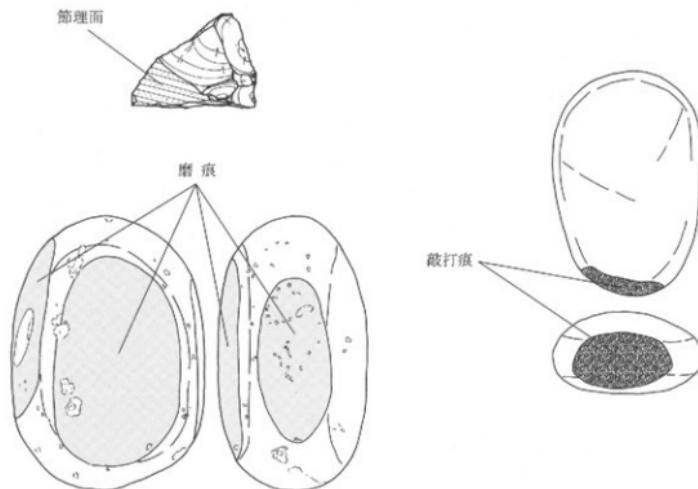
3 国土地理院発行の地形図を転載したものは、図中に図幅名と縮尺を付した。

4 引用・参考文献は巻末にまとめて記した。

遺構図



遺物図



凡例図

目 次

| | |
|---------------------------|-----|
| I 調査に至る経過 | 1 |
| II 遺跡の立地と環境 | 1 |
| 1 遺跡の位置 | 1 |
| 2 地形と地質 | 1 |
| 3 基本層序 | 3 |
| 4 周辺の遺跡 | 5 |
| III 調査と整理の方法 | 8 |
| 1 野外調査 | 8 |
| 2 室内整理 | 10 |
| IV 検出遺構 | 13 |
| 1 積穴住居 | 13 |
| 2 土坑・陥し穴状遺構 | 18 |
| 3 焼土遺構 | 27 |
| 4 配石・集石遺構 | 28 |
| 5 埋設土器遺構 | 29 |
| 6 柱穴状土坑 | 30 |
| 7 溝 | 30 |
| V 出土遺物 | 49 |
| 1 概要 | 49 |
| 2 繩文土器 | 49 |
| 3 土製品 | 52 |
| 4 石器 | 53 |
| 5 石製品 | 54 |
| 6 須恵器・陶器・錢貨・植物遺存体 | 54 |
| VI 総括 | 85 |
| 1 遺構 | 85 |
| 2 遺物 | 86 |
| 3 選地について—今後の課題も含めて— | 88 |
| 報告書抄録 | 141 |

図版目次

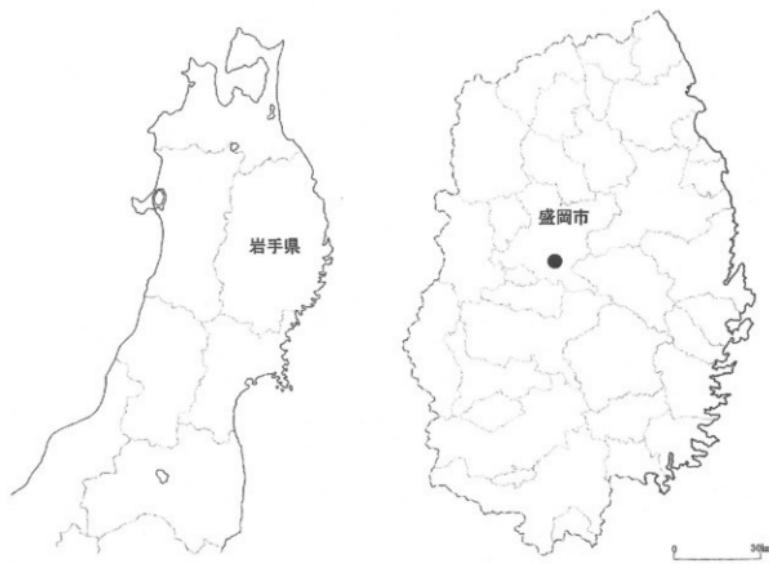
| | | | |
|--|----|--------------------------------|----|
| 第1図 遺跡の位置 | 1 | 第23図 R G 001構 | 48 |
| 第2図 周辺の地形 | 2 | 第24図 遺構内出土土器（1） | 55 |
| 第3図 基本層序 | 4 | 第25図 遺構内出土土器（2） | 56 |
| 第4図 周辺の遺跡 | 6 | 第26図 遺構内出土土器（3） | 57 |
| 第5図 戸仲遺跡第3次調査遺構配置図 | 12 | 第27図 遺構内出土土器（4） | 58 |
| 第6図 R A 001堅穴住居 | 31 | 第28図 遺構内出土土器（5） | 59 |
| 第7図 R A 002堅穴住居 | 32 | 第29図 遺構内出土土器（6） | 60 |
| 第8図 R A 003堅穴住居（1） | 33 | 第30図 遺構内出土土器（7） | 61 |
| 第9図 R A 003堅穴住居（2） | 34 | 第31図 遺構内出土土器（8） | 62 |
| 第10図 R A 004堅穴住居（1） | 35 | 第32図 遺構内出土土器（9） | 63 |
| 第11図 R A 004堅穴住居（2） | 36 | 第33図 遺構内出土土器（10） | 64 |
| 第12図 R A 005・006堅穴住居 | 37 | 第34図 遺構外出土土器 | 65 |
| 第13図 R A 007堅穴住居 | 38 | 第35図 土製品 | 66 |
| 第14図 R A 008堅穴住居 | 39 | 第36図 遺構内出土石器（1） | 67 |
| 第15図 R D 013～016土坑 | 40 | 第37図 遺構内出土石器（2） | 68 |
| 第16図 R D 018～024陥し穴状遺構 | 41 | 第38図 遺構内出土石器（3） | 69 |
| 第17図 R D 017土坑、R D 025～027・ 031陥し穴状遺構、R F 012焼土遺構 | 42 | 第39図 遺構内出土石器（4） | 70 |
| 第18図 R D 028～030・032・033陥し穴状遺構、 柱穴状土坑（P 7） | 43 | 第40図 遺構内出土石器（5） | 71 |
| 第19図 R D 034～036陥し穴状遺構、 R D 037土坑 | 44 | 第41図 遺構内出土石器（6） | 72 |
| 第20図 R F 009～011基上遺構、 R H 011配石遺構 | 45 | 第42図 遺構内出土石器（7） | 73 |
| 第21図 R H 012配石遺構、R H 013集石遺構、 R P 002埋設土器遺構 | 46 | 第43図 遺構内出土石器（8）、 遺構外出土石器（1） | 74 |
| 第22図 柱穴状土坑（P 1～P 6） | 47 | 第44図 遺構内出土石器（2） | 75 |

表 目 次

| | | | |
|----------------------|----|------------|----|
| 第1表 周辺の遺跡一覧表 | 7 | 第6表 土製品観察表 | 84 |
| 第2表 第1～3次調査遺構番号表 | 9 | 第7表 石製品観察表 | 84 |
| 第3表 第3次調査における新旧遺構対照表 | 10 | 第8表 須恵器観察表 | 84 |
| 第4表 繩文土器観察表 | 79 | 第9表 陶器観察表 | 84 |
| 第5表 石器観察表 | 82 | 第10表 錢貨観察表 | 84 |

写真図版目次

| | | | | | |
|--------|---|-----|--------|-----------------------|-----|
| 写真図版1 | 航空写真 | 95 | 写真図版23 | 遺構内出土上器（2） | 117 |
| 写真図版2 | 調査前風景、試掘風景、基本層序 | 96 | 写真図版24 | 遺構内出土土器（3） | 118 |
| 写真図版3 | R A 001竪穴住居 | 97 | 写真図版25 | 遺構内出土土器（4） | 119 |
| 写真図版4 | R A 002竪穴住居 | 98 | 写真図版26 | 遺構内出土土器（5） | 120 |
| 写真図版5 | R A 003竪穴住居（1） | 99 | 写真図版27 | 遺構内出土土器（6） | 121 |
| 写真図版6 | R A 003竪穴住居（2） | 100 | 写真図版28 | 遺構内出土土器（7） | 122 |
| 写真図版7 | R A 004竪穴住居（1） | 101 | 写真図版29 | 遺構内出土上器（8） | 123 |
| 写真図版8 | R A 004竪穴住居（2） | 102 | 写真図版30 | 遺構内出土土器（9） | 124 |
| 写真図版9 | R A 005竪穴住居 | 103 | 写真図版31 | 遺構内出土土器 | 125 |
| 写真図版10 | R A 006竪穴住居 | 104 | 写真図版32 | 土製品 | 126 |
| 写真図版11 | R A 007竪穴住居 | 105 | 写真図版33 | 遺構内出土石器（1） | 127 |
| 写真図版12 | R A 008竪穴住居 | 106 | 写真図版34 | 遺構内出土石器（2） | 128 |
| 写真図版13 | R D 013～016土坑 | 107 | 写真図版35 | 遺構内出土石器（3） | 129 |
| 写真図版14 | R D 017土坑、 R D 018～021・025陥し穴状遺構 | 108 | 写真図版36 | 遺構内出土石器（4） | 130 |
| 写真図版15 | R D 022～024・026陥し穴状遺構 | 109 | 写真図版37 | 遺構内出土石器（5） | 131 |
| 写真図版16 | R D 027～030陥し穴状遺構 | 110 | 写真図版38 | 遺構内出土石器（6） | 132 |
| 写真図版17 | R D 031～035陥し穴状遺構 | 111 | 写真図版39 | 遺構内出土石器（7） | 133 |
| 写真図版18 | R D 035・036陥し穴状遺構、 R D 037土坑、R F 009焼土遺構 | 112 | 写真図版40 | 遺構内出土石器（8） | 134 |
| 写真図版19 | R F 010～012焼土遺構 | 113 | 写真図版41 | 遺構内出土石器（9） | 135 |
| 写真図版20 | R H 011・012配石遺構、 R H 013集石遺構 | 114 | 写真図版42 | 遺構内出土石器（10） | 136 |
| 写真図版21 | R P 002埋設土器遺構、R G 001溝、 現地公開風景 | 115 | 写真図版43 | 遺構内出土石器（1） | 137 |
| 写真図版22 | 遺構内出土土器（1） | 116 | 写真図版44 | 遺構外出土石器（2）、 石製品（1） | 138 |
| | | | 写真図版45 | 石製品（2） | 139 |
| | | | 写真図版46 | 須恵器、陶器、錢貨、植物遺存体 | 140 |



第1図 遺跡の位置

I 調査に至る経過

戸仲遺跡（第3次調査区）は、「道路改良事業築川道路」の道路改良工事に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道106号は、宮古市を起点とし、盛岡市へ至る主要幹線道路であり、東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道の高規格幹線道路と一体となって全国的な広域交通ネットワークを形成する地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」に指定されている。

築川道路は、築川ダム建設に伴う付替国道としての位置付けのほか、現道の急カーブ・幅員狭小などの隘路を解消し、主要幹線道路としての機能確保のために平成7年度に整備区间に指定され事業着手したものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、盛岡地方振興局土木部築川ダム建設事務所から平成19年2月1日付盛地土策第105号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成19年2月8日に試掘調査を実施し、工事着手するには戸仲遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成19年2月13日付教生第1510号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により当事務所へ回答をしてきた。

その結果を踏まえて当事務所は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成20年4月2日付けで財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することになった。

（岩手県盛岡地方振興局土木部築川ダム建設事務所）

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置（第1図）

戸仲遺跡が所在する盛岡市は岩手県のはば中央に位置する。近世初期に盛岡藩が設置されて以来、その城下町として栄え、発展してきた街であり、岩手県の県庁所在地である。平成18年には北に隣接する玉山村と合併し、総面積888.47km²、人口は30万人を越え、平成20年4月1日に中核市の指定を受けている。

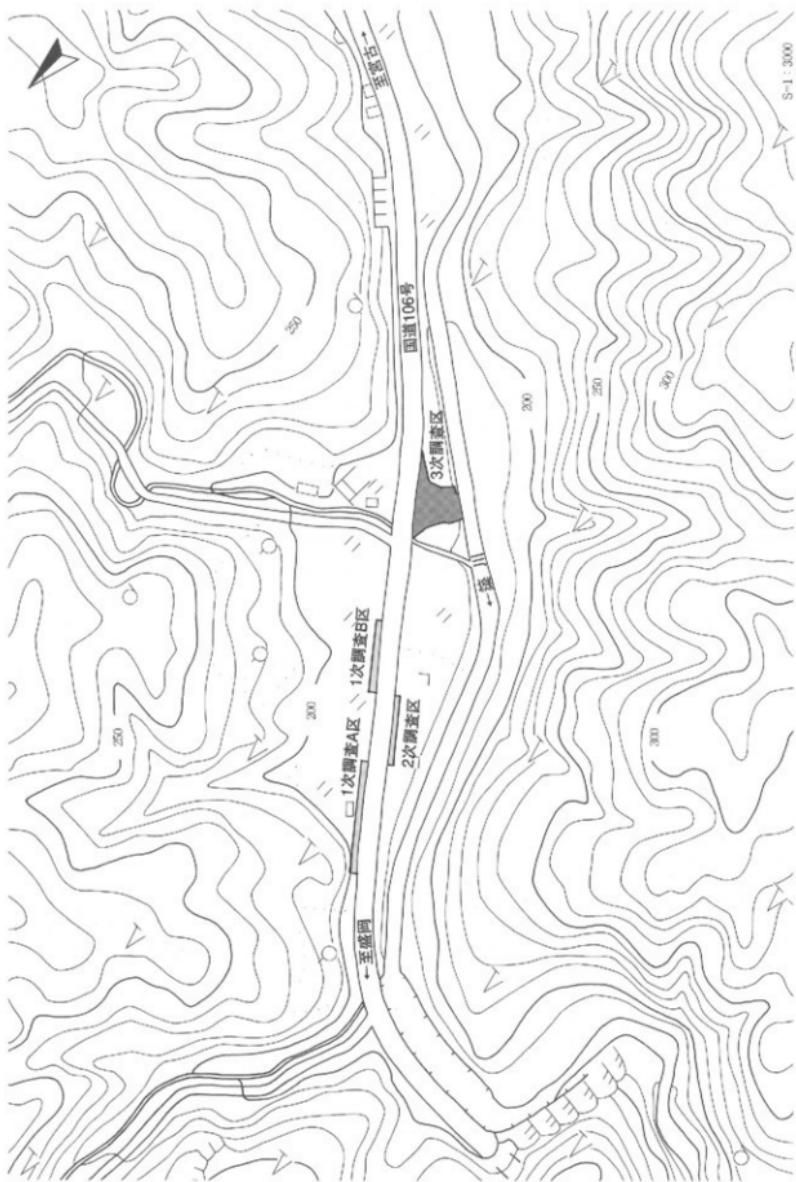
遺跡は、盛岡市川目第4地割51-3ほかに所在し、JR東北本線盛岡駅の南東約8.7kmに位置する。川目地区は市の東部にあたり、北上山地の北西部に位置する。地形図上では、国土地理院発行の2万5千分の一地形図「盛岡」（N J - 54-13-14-2）の図幅に含まれ、北緯39度40分25秒、東経141度13分45秒に位置している。

2 地形と地質（第2図）

（1）地形

戸仲遺跡のある盛岡市東部は、地質構造上、北上山地の主要な境界となる早池峰構造体の西縁部にあたる。盛岡市東部の早池峰構造体に属する山地は、高森山（標高626m）を中心とする高森山山地と、

1 遺跡の位置



第2図 周辺の地形

朝島山（標高607m）を中心とする朝島山山地の中起伏山地、さらに西に続く大日向山山地、岩山（標高341m）や大森山（標高381m）を含む建石山山地などの小起伏山地、および四十四田丘陵で構成される。これらの山地縁辺には、中津川・築川・乙部川などの北上川支流の河川や、山間部から流れるその支流や沢などにより浸食された丘陵地や中位・低位の段丘が発達する。

戸仲遺跡は、北に建石山山地、南に朝島山山地などの小・中起伏山地に囲まれ、これらの山間部を流れる第川やその支流などによってできた小規模な低位段丘上にある。第3次調査区は、戸中山から流れる沢と築川の合流地点に位置する。さらに詳述すると、調査区は、築川によって形成された小規模な低位段丘の端にあたる上段部分と、築川の旧河道にあたる下段部分とに分けられる。繩文時代の遺構を検出した上段部分は南西向きの緩斜面で、標高は190m前後である。

（2）地 質

遺跡の所在する川日地区を含む盛岡市東部の早池峰構造体の古生界の岩層は、チャート・チャートラミナイト珪質頁岩などを伴う他地域と異なり、砂子沢層・川目層にみられるような、おもに頁岩・砂岩・塙基性の火山岩類で基盤が構成され、これに表層堆積物として泥岩・輝緑凝灰岩がみられる。

3 基 本 層 序（第3図）

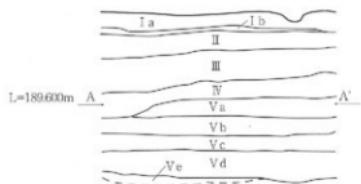
本遺跡は築川右岸からその北東側丘陵麓までが範囲とされており、立地は築川の開析作用を基準としたばかりい、3種に大別されるものと考えられる。すなわち、①築川岸の河岸低地部、②その北東線に広がる段丘部、③さらにその北東縁の丘陵麓部である。これに北東側丘陵から流れる小河川による開析・堆積作用が加わり、さらに近・現代の大規模な開拓等による地形変容を受けた上で現地形が形成されている。今次調査区は前記の①と②にあたっており、これは現地形からも確認され、便宜的に①を下段、②を上段と呼称した。上段と下段では土壠堆積様相が全く異なる。

以下、基本層序を示す。確認地点は第5図に記載している。

| 基本層序：上段（A-A'） | 基本層序：下段（B-B'） |
|---|---|
| I a層：10YR3/1黒褐色シルト 粘性中・しまり中 現表土 | I a層：上段 I a層と共通 |
| I b層：7.5YR3/2黒褐色シルト 粘性強・しまり強 水田床土 鉄分沈着 | I b層：上段 I b層と共通 |
| II 層：10YR3/1黒褐色シルト 粘性中・しまり中 破碎礫(～1cm)50% 旧表土 | II a層：10YR4/2暗灰褐色砂質シルト 粘性弱・しまり中 II b層：2.5Y4/2暗灰褐色砂 粘性なし・しまり中 円礫(～2cm)10% |
| III 層：10YR3/1黒褐色シルト 粘性中・しまり中 | II c層：2.5Y4/2暗灰褐色砂 粘性なし・しまり中 |
| IV 層：10YR3/1黒褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトの混土(55) 粘性中・しまり中 | II d層：2.5Y4/2暗灰褐色砂 粘性なし・しまり中 円礫(～2cm)10% |
| V a層：10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱・しまり中 | II e層：2.5Y4/2暗灰褐色砂 粘性なし・しまり中 |
| V b層：10YR3/1黒褐色シルト 粘性中・しまり中 | II f層：2.5Y4/2暗灰褐色砂 粘性なし・しまり中 円礫(～10cm)20% |
| V c層：10YR4/4褐色シルト 粘性中・しまり中 | II g層：2.5Y4/2暗灰褐色砂 粘性なし・しまり中 |
| V d層：10YR3/2黒褐色シルト 粘性中・しまり中 | III 層：2.5Y4/2暗灰褐色砂 粘性なし・しまり中 円礫(～50cm)80% 河床面 層厚不明 |
| V e層：7.5YR3/2黒褐色シルト 粘性中・しまり中 | |
| VI 層：砂礫層 層厚不明 | |

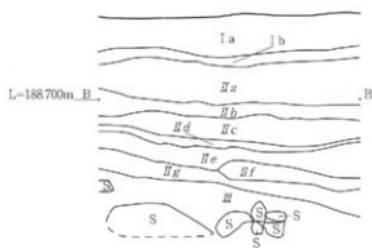
※下段 II 層以下は上段と区別するため斜体で表記する。

基本眉序 上段



- | | | | | | | |
|----------|----------|-----|-----|---------|-----------|-------------------------------|
| Ia. | 10YR3/1 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | 表土 |
| 7.5YR3/2 | 黑褐色 | 粘土 | 粘性強 | しまり強 | 木田床土 | 鉢分草番 |
| II. | 10YR3/1 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり強 | 廃砂礫 ($\sim 1\text{ cm}$) 5% |
| III. | 10YR3/1 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| IV. | 10YR3/1 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| Va. | 10YR5/4 | 黑褐色 | シルト | LOEYS/4 | に似る 弱質 | 弱質シルト |
| Vb. | 10YR3/1 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | 粘性強 |
| Vc. | 10YR4/4 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| Vd. | 10YR3/2 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| Ve. | 7.5YR3/2 | 黑褐色 | シルト | 粘性中 | しまり中 | |

基本層序 下段



- | | | | | | | |
|------|---------|------|----|-----|------|---------------------|
| I.a | 10YR3/1 | 黑褐色 | 粘土 | 耐性中 | しまり中 | 現土素 |
| I.b | 75YK3/2 | 黑褐色 | 砂土 | 粘性強 | しまり強 | 水田木底 铁分沈着層 |
| I.b | 10YR4/2 | 灰黃褐色 | 砂質 | 粘性弱 | しまり弱 | 中 |
| I.b | 25Y4/2 | 暗灰褐色 | 砂 | 粘性強 | しまり中 | 難 (~2cm) 10% |
| I.c | 25Y4/2 | 暗灰褐色 | 砂 | 粘性強 | しまり中 | 難 (~2cm) 10% |
| I.d | 25Y4/2 | 暗灰褐色 | 砂 | 粘性強 | しまり中 | 難 (~2cm) 10% |
| I.e | 25Y4/2 | 暗灰褐色 | 砂 | 粘性強 | しまり中 | 難 (~2cm) 10% |
| I.f | 25Y4/2 | 暗灰褐色 | 砂 | 粘性強 | しまり中 | 難 (~2cm) 10% |
| H.g. | 25Y4/2 | 暗灰褐色 | 砂 | 粘性強 | しまり中 | 難 (~10cm) 20% |
| I.g. | 10YR4/2 | 灰黃褐色 | 砂 | 粘性強 | しまり中 | 難 (~50cm) 80% 田面保水層 |



第3図 基本層序

上段はシルトから砂質シルトの堆積が連続しており、如実な不整合面はみられない。旧微地形は全体的に北東から南西へ緩く下る地形であり、現代の水田耕作に關わる地形改変により削平され、平坦化されている。よって、段丘線である南西端（上段と下段の境）の残存状況が最も良好で、逆に北東端（国道106号脇）はⅡ～Ⅳ層が欠落している。上段における遺構検出面は、Ⅲ層からV層の各層理面で、最終検出面はV層上位である。いっぽう、下段は色調の異なる砂層の堆積が交互に続き、Ⅲ層で河床面と考えられる砂礫層となる。本層までの各層には縄文土器から近世陶磁器まで各時代の遺物が散在する。よって、下段は近世（のある時期）まで築川河道であったと捉えられる。最終遺構検出面はⅢ層上面である。

4 周辺の遺跡（第4図、第1表）

平成20年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録されている盛岡市内の遺跡は740箇所である。このうち、縄文時代の遺跡は464箇所を数え、北上川やその支流の河川、山間部から流れる沢などにより浸食された丘陵地や中位・低位の段丘上で多く確認されている。

第4図および第1表には、築川流域とその周辺地域において、縄文時代の遺構あるいは遺物が確認されている138箇所の遺跡の位置を示した。以降、縄文時代の遺跡について記述する。

築川は、盛岡市東部、北上山地の分水嶺となる桐ノ木山（1,209m）北西支陵より流れ、最大支流である根田茂川と合流して水量を増し、盛岡市安庭付近で北上川と合流する。築川は急流で知られ、その流れは丘陵地や高位段丘面を開析して、流域沿いに中・小規模な低位段丘面や谷底平野を形成する。

上流域の築川地区や根田茂川流域では、小規模な谷底平野や崖水性扇状地などで遺跡が確認されている。今まで本格的な調査は行われていないが、「盛岡市史」（草間1958）によると、築川地区的待間口遺跡（93）、粗木新田遺跡（94）からは晩期の土器が出土したことが知られている。根田茂川流域では、赤坂遺跡（104）で中期、手代木沢岩陰遺跡（106）で中～晩期、大上遺跡（107）で後期、鬼ヶ瀬山洞穴（90）で後期の土器などが出土している。この地域では、今後、新たな遺跡の存在や遺跡範囲の拡大が確認される可能性が十分に考えられる。

中～下流域では、小起伏山地の山麓や緩斜面地、中・小規模な低位～高位段丘上で遺跡が確認されている。早期～前期の遺跡では、宇曾沢遺跡（81）、川日A遺跡（75）、川日C遺跡（77）、小山遺跡（27）などがある。築川左岸の低位段丘上に位置する川日A遺跡では、標高188～189mの高位面（第6次調査区）から、早期中業（明神裏Ⅲ式）、前期前葉（大木2式）、前期後葉（大木5式）の堅穴住居、前期後葉（大木5式）を中心とする遺物包含層などが検出されている（岩文埋2009）。宇曾沢遺跡でも少量ながら早期中葉の土器が出土している（岩文埋2008）。

中期の遺跡では、川日C遺跡、川日A遺跡、小山遺跡、砂溜遺跡（28）、仁反田遺跡（41）などがある。築川右岸の高位段丘上に位置する川日C遺跡では、大木7b～8b式期を主体とする多数の堅穴住居や土坑などが検出された。また、膨大な遺物とともに、ヒスイ製大珠やコハク原石、黒曜石製石器、天然アスファルトなど交易によってもたらされたと考えられるものも多数出土している。これらのことから、川日C遺跡は築川流域における縄文時代中期の拠点的な集落と考えられている（津嶋1996）。築川を挟んで対岸に位置する川日A遺跡でも、前述した第6次調査区から、複式炉を有する中期後葉～末葉の堅穴住居が検出されている。下流域に位置する小山・砂溜・仁反田・和田遺跡（41）は「小山遺跡群」として包括されているが、この遺跡群でも中期の遺構や遺物が多数確認されている。小山



第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

| No. | 遺跡名 | 種別 | 遺跡名 | 種別 | 遺跡事項 |
|-----|-------|-----|-----------------------------------|----------|------------|
| 1 | 梅山塚 | 墳丘墓 | 鶴大字原(後期) | 墳丘墓 | 鶴大字原 |
| 2 | 東町社殿 | 高台跡 | 鶴文土器洋汎洋(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 3 | アカトリ | 散布地 | 鶴文土器(中期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 4 | 前野 | 散布地 | 鶴文土器、土器、95~97年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 5 | 人選 | 散布地 | 鶴文土器(後・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 6 | 大久保 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 7 | 保久保 | 集落跡 | 鶴文土器(中・後期)、窓穴住居 | 窓穴住居 | 窓穴住居 |
| 8 | 村ノ木平 | 集落跡 | 鶴文土器の大量発見、75~80年まで市役所により40回にわたり調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 9 | 横澤 | 散布地 | 鶴文土器(後・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 10 | 白山 | 散布地 | 鶴文土器(早・中期)、土器、傳説土器、90~92年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 11 | 今沢 | 散布地 | 鶴文土器(後・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 12 | 美木下 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 13 | 上戸山 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 14 | 大畠 | 集落跡 | 鶴文土器在住跡(後期)、鶴文土器(早・後期)、87年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 15 | 北ノ平 | 散布地 | 鶴文土器(早・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 16 | 向 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 17 | 六條 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 18 | よろこび | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 19 | 矢曾 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 20 | 小貝利湖 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 21 | 中川原Ⅲ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 22 | 大郡寺 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 23 | 三上山 | 集落跡 | 鶴文土器(中・後期)、98年度調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 24 | 舟子 | 散布地 | 鶴文土器(前期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 25 | 坂戸 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 26 | 新庄 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 27 | 小山 | 集落跡 | 鶴文土器(中・後期)、88年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 28 | 野瀬 | 集落跡 | 鶴文土器(中・後期)、88年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 29 | 金番 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 30 | 見石 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 31 | 立石 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 32 | 民田 | 散布地 | 鶴文土器(前・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 33 | 牛の森 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 34 | 門 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 35 | 宇津野 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 36 | 川貝寺跡 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 37 | たたら山 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 38 | 若山南 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 39 | 内摩 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 40 | 和田 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 41 | 仁反田 | 集落跡 | ツブロコ十軒、鶴文土器(中期)、91年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 42 | 尾山Ⅰ/A | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 43 | 西ノ上 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 44 | 下木田 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 45 | 上木田 | 散布地 | 鶴文土器(中期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 46 | 八木田 | 集落跡 | 鶴文土器(前・後期)、鶴文土器(山形)、91年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 47 | 八木田Ⅱ | 集落跡 | 鶴文土器(前・後期)、91年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 48 | 八木田Ⅲ | 集落跡 | 鶴文土器、鶴文土器(後期)、90年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 49 | 八木田Ⅳ | 集落跡 | 上記、鶴文土器(中・後期)、90年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 50 | 八木田Ⅴ | 集落跡 | 鶴文土器、ツブロコ十軒、鶴文土器(早・後期)、90年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 51 | 高須山 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 52 | 高須山Ⅱ | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 53 | 高須山Ⅲ | 散布地 | 鶴文土器(前期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 54 | 沙波 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 55 | 道溝 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 56 | ブナ | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 57 | 角下 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 58 | 折通Ⅰ | 散布地 | 鶴文土器、石器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 59 | 折通Ⅱ | 散布地 | 鶴文土器(中期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 60 | 折通Ⅲ | 散布地 | 鶴文土器(中期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 61 | 御前平園 | 散布地 | 鶴文土器(中期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 62 | 新山 | 散布地 | 鶴文土器(前期)、石器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 63 | 高子Ⅰ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 64 | 高子Ⅱ | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 65 | 金城沢Ⅱ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 66 | 金城沢Ⅲ | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 67 | 沼野千瀬 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 68 | 沼野Ⅰ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 69 | 沼野Ⅱ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 70 | 沼野Ⅲ | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 71 | 沼野Ⅳ | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 72 | 沼野Ⅴ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 73 | 沼野Ⅵ | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 74 | 沼野Ⅶ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 75 | 沼野Ⅷ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 76 | 沼野Ⅸ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 77 | 川口C | 集落跡 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 78 | 川口D | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 79 | 口井 | 散布地 | 鶴文土器(前・後期)、90年新委調査 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 80 | 小堀町 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 81 | 宇佐浜 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 82 | 宇佐ノ井 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 83 | 大伴狀 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 84 | 大伴状B | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 85 | 大伴状C | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 86 | 大伴A | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 87 | 大伴B | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 88 | 大伴C | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 89 | 大伴D | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 90 | 鬼ヶ原山周 | 周辺 | 鶴文土器(法螺) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 91 | 木沢 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 92 | 沢口Ⅰ | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 93 | 沢口Ⅱ | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 94 | 沢木新田 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 |
| 95 | 沢口Ⅲ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 96 | 下月貝 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 97 | ズシマ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 98 | 田代 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 99 | 田代沢 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 100 | 沢野Ⅰ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 101 | 沢野Ⅱ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 102 | 沢野Ⅲ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 103 | 沢野Ⅳ | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 104 | 沢坂 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 105 | 下村 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 106 | 古代大沢川 | 河川 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器(中・後期) |
| 107 | 人上 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 108 | 舟見 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 109 | 千代森 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 110 | 幡峰 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 111 | 下道 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 112 | 高峰 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 113 | 酒町 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器(後期) |
| 114 | 田舎 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 115 | 坂 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 116 | 沢 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 117 | 大沢川 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 118 | 糸川貝 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 119 | 乙前野 | 散布地 | 鶴文土器(後・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 120 | 町田 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 121 | 町方八丁目 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 122 | 町方 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 123 | 山江柄 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 124 | 引野 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 125 | 御所寺前 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 126 | 物内 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 127 | 奈良原 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 128 | 成吉 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 129 | 黒石 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 130 | 赤坂 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 131 | 東山壁 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 132 | 南仙北 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 133 | 門木 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 134 | 放の下 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 135 | 下条谷 | 散布地 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 136 | 三木細崎 | 集落跡 | 鶴文土器(後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 137 | 下谷崩削 | 散布地 | 鶴文土器 | 鶴文土器 | 鶴文土器 |
| 138 | 下通 | 散布地 | 鶴文土器(中・後期) | 鶴文土器 | 鶴文土器 |

遺跡では大木7a～8b式を主体とした土器などが出土しており、砂溜遺跡では前期末葉～中期初頭の大形住居や遺物包含層などが検出されている。仁反出遺跡では前期末葉～中期の多数のフラスコ状土坑などが検出されている（盛岡市教委1989）。

後～晩期の遺跡では、川目A遺跡が特筆される。岩手大学の草間俊一教授による3度の調査により、後晩期の配石造構や遺物が出土することが知られていた遺跡である（草間1954・1955・1958）。平成18年から当センターが行っている緊急発掘調査では、大規模な遺物包含層や多数の配石造構などが確認されており、遺跡の内容が明らかにされつつある。

このほか、周辺地域には、中期後葉～後期初頭の拠点的な集落と考えられる柿ノ木平遺跡（8）、中期中葉の集落である山王山遺跡（23）、中期末葉の堅穴住居が検出された八木田I遺跡（46）、後期初頭の堅穴住居などが検出された大葛遺跡（14）などが位置している。なお、柿ノ木平遺跡、山王山遺跡では、底部穿孔された「伏甕」を伴う堅穴住居が確認されている。

III 調査と整理の方法

1 野外調査

（1）作業経過

| | |
|------------|----------------------------------|
| 平成20年4月11日 | 調査開始。 |
| 4月14日 | 国道106号脇に安全防護柵（単管）設置。試掘開始（17日まで）。 |
| 4月16日 | 重機による表土除去開始（梨子建設株式会社 22日まで）。 |
| 4月17日 | 遺構検出、精査開始。 |
| 4月21日 | 基準杭打設（株式会社 北日本朝日航洋）。 |
| 5月23日 | 空撮実施（東邦航空株式会社）。 |
| 5月25日 | 現地公開開催（10:30～12:00）。参加者数73名。 |
| 6月3日 | 調査終了確認。 |
| 6月13日 | 調査終了。 |
| 6月16～17日 | 重機による埋め戻し。撤収。 |

（2）グリッド・基準点の設定

戸仲遺跡第3次調査の調査座標原点は、第1次調査で採用した国土座標（世界測地系）X = -35,800,000、Y = 33,750,000を起点とした。その上で、盛岡市教育委員会の方針に準じ、50×50mの大グリッドを設定し、さらにこれを2×2mの小グリッドに区割りした。大グリッドは、原点を起点に西から東へA・B・C・・・のアルファベット、北から南へI・II・III・・・のローマ数字を付し、グリッドの呼称は「ⅢE」などのように、それらの組み合わせとした。小グリッドは、西から東をa～yのアルファベット、北から南を1～25の算用数字を付し、グリッドの呼称は「ⅢE 1m」などのように、それらの組み合わせとした。

遺構の実測に利用するために、調査区内に基準点2点と補助点2点を打設した。各基準点および補助点の座標値とそのグリッド名は以下の通りである。

基準点1 X = -36,148.000、Y = 33,976.000、H = 190.584m (Ⅶ E 25 n グリッド)

基準点2 X = -36,148.000、Y = 33,998.000、H = 190.878m (Ⅶ E 25 y グリッド)

補助点1 X = -36,140.000、Y = 33,976.000、H = 190.210m (Ⅶ E 21 n グリッド)

補助点2 X = -36,158.000、Y = 33,998.000、H = 190.737m (Ⅶ E 5 y グリッド)

(3) 粗掘・遺構検出

最初に、県教委生文課により実施された試掘結果に基づき、その試掘坑(トレンチ)を再掘削し、遺構・遺物の検出層位と状態、旧地形とその堆積土層の確認と把握を行った。その上で、未試掘箇所に新規にトレンチを設定し、同様の作業を実施している。作業に際しては、遺構・遺物検出箇所付近はその検出面まで、それ以外の部分は最終遺構検出面とされる褐色土～黄褐色土を日安に掘り下げ、層理面にて順次検出を行った。結果、現地形は旧地形を反映しており、梁川側(南西)と国道106号側(北東)で段丘面が異なることが判明し、それぞれに別個の最終検出面を設定することとした。詳細はⅡ章3節のとおりである。

(4) 遺構の調査方法

堅穴住居の調査は四分法を、その他の遺構については二分法を原則として、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。この際、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影および実測を順次行った。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については遺構名と出土層位名または相対的層位(上位、中位、下位、床・底面直上、床・底面)を記し、このうち床・底面直上以下出土分については個々に出土位置を記録した。遺構外出土分については、グリッド毎に層位を記して採取した。

(5) 遺構の名称

野外調査で検出した遺構は、検出順に○号住居、△号土坑などと命名したが、報告書作成時に盛岡市教育委員会の方法に準じて、遺構名を付け直して掲載した。番号は、遺跡全体で遺構ごとに通し番号となっているが、柱穴状土坑のみ、調査次ごとにP 1から遺構番号を付している。なお、野外調査、室内整理とともに旧遺構名のまま作業しており、図面表記、遺物注記などは旧名のまま変更していない。第1～3次調査の遺構番号表と、第3次調査における新旧遺構名対照表をそれぞれ第2・3表に示したので、参照していただきたい。

第2表 第1～3次調査遺構番号表

| 遺構 | 記号 | 1次調査 | 2次調査 | 3次調査 |
|------------|-----|---------|---------|---------|
| 堅穴住居 | R A | なし | なし | 001～008 |
| 土坑・陥し穴状遺構 | R D | 001～006 | 007～012 | 013～037 |
| 炉・焼上 | R F | 001～006 | 007～008 | 009～012 |
| 溝 | R G | なし | なし | 001 |
| 配石・集石 | R H | 001～010 | なし | 011～013 |
| 遺物集中区・埋設土器 | R P | 001 | なし | 002 |
| 柱穴状土坑 | P | 1～23 | 1～17 | 1～7 |

第3表 第3次調査における新旧遺構名対照表

| 遺構名 | 旧遺構名 | 遺構名 | 旧遺構名 | 遺構名 | 旧遺構名 | 遺構名 | 旧遺構名 |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| RA001 | 1号住居 | RD018 | 2号陥し穴 | RD030 | 15号陥し穴 | RH011 | 1号配石 |
| RA002 | 2号住居 | RD019 | 1号陥し穴 | RD031 | 16号陥し穴 | RH012 | 2号配石 |
| RA003 | 3・8号住居 | RD020 | 8号陥し穴 | RD032 | 14号陥し穴 | RH013 | 2号集石 |
| RA004 | 4号住居 | RD021 | 9号陥し穴 | RD033 | 12号陥し穴 | RP002 | 1号埋設上器 |
| RA005 | 5号住居 | RD022 | 3号陥し穴 | RD034 | 17号陥し穴 | P1 | 5号土坑 |
| RA006 | 6号住居 | RD023 | 4号陥し穴 | RD035 | 18号陥し穴 | P2 | PP1 |
| RA007 | 7号住居 | RD024 | 5号陥し穴 | RD036 | 19号陥し穴 | P3 | PP6 |
| RA008 | 9号住居 | RD025 | 10号陥し穴 | RD037 | 1号集石 | P4 | PP7 |
| RD013 | 1号土坑 | RD026 | 6号陥し穴 | RF009 | 1号焼土 | P5 | PP8 |
| RD014 | 2号土坑 | RD027 | 11号陥し穴 | RF010 | 2号焼土 | P6 | PP9 |
| RD015 | 3号土坑 | RD028 | 7号陥し穴 | RF011 | 3号焼土 | P7 | PP3 |
| RD016 | 4号土坑 | RD029 | 13号陥し穴 | RF012 | 4号焼土 | RG001 | 1号溝 |
| RD017 | 6号土坑 | | | | | | |

(6) 写真撮影

写真撮影にあたっては、6×9判モノクロームのフィルムカメラ（FUJI GSW690Ⅲ）とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D）を使用した。撮影にあたっては、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。その他、調査終了間際にセスナ機による航空写真撮影を実施している（平成20年5月23日）。

2 室内整理

(1) 作業経過

作業人数や期間などの大まかな流れのみ記載する。

平成20年5月27日 整理作業開始。調査員付かず、作業員2名で実施（8月1日まで）。

9月16日 作業再開。調査員付かず、作業員2名で実施（9月22日まで）。

10月1日 作業再開。調査員付かず、作業員2名で実施（10月20日まで）。

11月4日 作業再開。調査員付かず、作業員2名で実施（11月14日まで）。

11月17日 調査担当者1名作業開始（2月13日まで）。

2月13日 作業終了。

(2) 遺物の整理方法

遺物は、各種別に分類したのち出土地点ごとに重量計測を行い、接合作業を実施して掲載分と不掲載分に細分類し、前者については仮番号を付し登録を行った。登録にあたっては、種別ごとに異なる種類の番号を付している。その後、報告書掲載遺物が最終的に決定した段階で、新たに各種別共通となる算用数字の連番による掲載番号を付した。

なお、掲載遺物の選択に際しては、各遺物種別共通してまず第1に出土地点を優先し、I層あるいは攪乱出土遺物は基本的に除外した。遺構別および遺物種別毎の出土量については次章に記述している。各遺物種別の掲載基準は下記のとおりである。

本報告書では、出土遺物量の記載を遺物種により3種類の方法で行っている。基本は「g」あるいは「kg」単位での重量表記で、土器類はすべてこの方法である。前記のように出土土地点単位で計量し全体会量を把握するための重量台帳を作成した後、掲載分として抽出したものについては仮番号を付して個々に計量を行い、登録台帳を作成している。土製品、石器、石製品、鉄製品は点数記載を主とし、これに重量記載を併記している。土製品、石製品、鉄製品については全点に仮番号を付して個々に計量し、登録台帳を作成した。石器は事前にトゥールと剥片および素材に分類し、トゥールについては個々に仮番号を付して登録台帳作成と計量を行っている。剥片および素材については個々の計量はせず出土土地点単位で計量し重量台帳を作成する段階までに留めた。

縄文土器

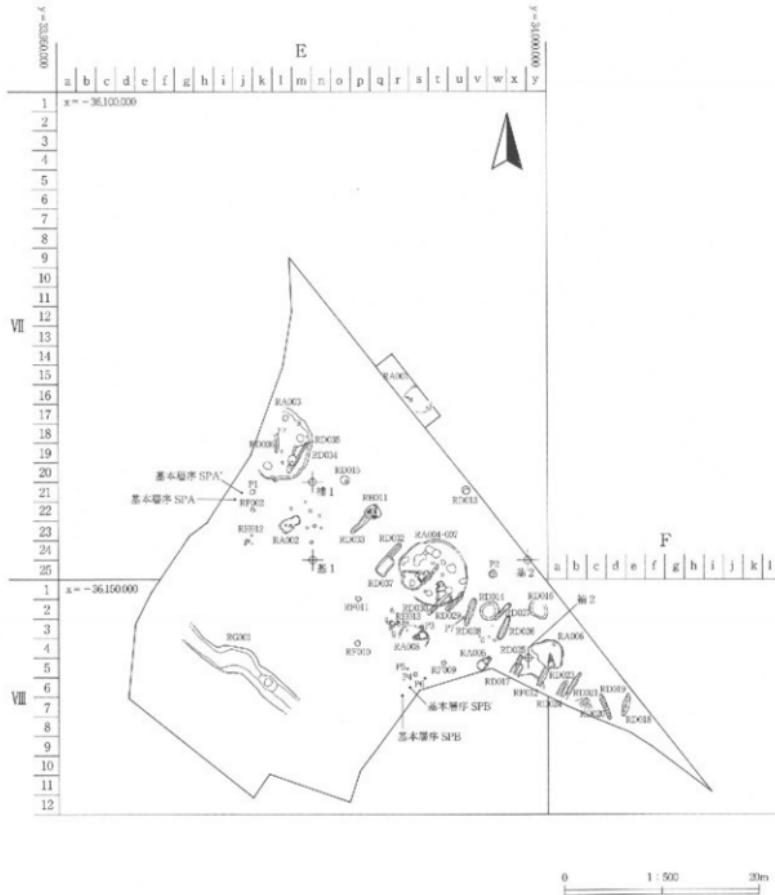
- a 掲載遺物の選択基準…文様および形態変化が集中する口縁部が残存するものを優先している。胴部は器形を復元できるものおよび特徴的な文様を有するもの、底部は底径が復元できるものおよび底面に特徴的な痕跡が見られるものに限定して掲載している。
- b 実測…文様の表現については客觀性を重要視し、拓本を多用した。径の推定可能なもの（1/4以上残存）は復元実測を行った。

石器

- a 掲載遺物の選択基準…遺構内出土分以外は完形品を優先して掲載した。点数の多い器種については、完形品であっても不掲載としたものもある。
 - b 実測…調整部位や打面・打点など、最低限必要と判断した部位のみ展開し、省力化に努めた。
- 土製品・石製品・須恵器・陶器・錢貨**
- 掲載遺物の選択基準…全点掲載した。

(4) 写 真 摄 影

当センター写真室において、専属の期限付職員がデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS1 MarkII）を用い撮影した。



基準点1 X=-36.148,000 Y=33.976,000 H=190.584m (VIE25nグリッド)
 基準点2 X=-36.148,000 Y=33.998,000 H=190.878m (VIE25yグリッド)
 補助点1 X=-36.140,000 Y=33.976,000 H=190.210m (VIE21nグリッド)
 補助点2 X=-36.158,000 Y=33.998,000 H=190.737m (VIE5yグリッド)

第5図 戸仲遺跡第3次調査柵構配図

IV 検出遺構

1 壺穴住居

RA001壺穴住居

遺構（第6図、写真図版3）

【位置・検出状況】ⅦE16r～17tグリッドに位置する。生文課試掘トレンチを再掘削した際、その北端で炉が見つかったことにより検出した。遺構はさらに工事用地内である調査区外北側へ延びており、可能な限り拡張して調査を行っている。

【重複関係】なし。

【平面形・規模】規模は3m以上で、平面形は円～椭円形を呈するものと思われる。

【埋土】黒褐色シルト主体で、下位の一部に黒褐色シルトと褐色シルトの混合土が堆積している。

【床面・壁】V層中を床面とし、自然地形に沿って南西側に緩く下傾している。壁の立ち上がりは北西側・南東側の一部で確認されたが、不明瞭な部分が多い。なお、北東側は調査できず不明、南西側は水田造成時の削平により破壊されている。

【炉】石組があることから石囲炉もしくは石囲部を有する複式炉の可能性が考えられるが、炉の位置が西壁に近いことから複式炉の可能性が高い。平面規模は不明である。炉石には円礫が用いられ、その設置のための掘方が確認された。石囲内部には焼土が発達しており、最厚部で5cmを測る。

【柱穴】なし。

【壁溝】なし。

遺物（第24・36図、写真図版22・33）

【土器】埋土から2,435.4gが出土し、このうち3点・1,484.9gを掲載した（1～3）。1・2は床面から出土した。

【石器】埋土1層から打製石斧（134）、磨製石斧（135）が出土した。重量は80.7gである。この他、炉構成隸に台石からの転用材が2点含まれており、これも掲載した（132・133）。重量は11.7kgである。

時期 出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

RA002壺穴住居

遺構（第7図、写真図版4）

【位置・検出状況】ⅦE22l～23nグリッド付近に位置する。検出面はⅢ層中である。Ⅲ層の掘り下げ中に炉石と考えられる石と焼土・炭化物の広がりを検出し、壺穴住居と判断した。

【重複関係】なし。

【平面形・規模】炉と本遺構に付属すると考えられるピットの範囲から、直径3.9mほどの円形と推定される。

【埋土】黒褐色シルトを主体とし、褐色砂質シルトブロックを少量含む。

【床面・壁】IV層中を床面とし、ほぼ平坦である。壁は、土層確認用ベルトの南・東側でわずかに立ち上がりを確認できたのみである。

【炉】石囲部+前庭部で構成される複式炉である。前庭部が住居壁際にあるとすれば、南西壁際に位

1 構造

置することになる。炉の全長は225cm、最大幅は126cmである。石圓部の炉石は北西側と南東側のみで検出したが、掘方が全局することから、本来は設置されていたものと考えられる。平面形は不明であるが、検出した炉石と掘方から不整な円形を呈するものと考えられる。規模は、残存部で95×80cmを測る。炉石は、扁平な円礫や亜角礫などの自然礫を用いている。南東側では掘方内に自然礫を埋め、根固めが行われていた。石圓部の内部には全体的に焼土が発達しており、厚さは約5cmを測る。前庭部の規模は、145×126cmを測る。浅い掘り込みで、床面からの深さは約10cmである。硬化面は認められなかった。掘り込みの北東端の両側には約10～30cm程度の自然礫が設置されている。これより南西側には礫は並ばず、掘方や抜き取り痕も認められないもので、もともと設置されていなかったものと思われる。

【柱穴】本遺構に付属すると考えられるピットを8個検出した。開口部径は22～41cm、床面からの深さは7～30cmを測る。埋土は、P3は暗褐色シルト、それ以外は黒褐色シルトを主体とし、褐色砂質シルトブロックを少量含む。いずれのピットでも柱痕跡は認められなかった。P3・P7・P8は、床面からの深さが30cm近くであることから主柱穴であった可能性が考えられる。

【壁溝】なし。

遺物（第24・36図、写真図版22・33）

【土器】埋土から1,637.2g出土したが、ほとんどが小片である。このうち、7点・617.4gを掲載した（4～10）。

【石器】炉の前庭部埋土から出土した二次加工ある剥片1点・0.9gを掲載した。

時期 出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

R A 003堅穴住居

遺構（第8・9図、写真図版5・6）

【位置・検出状況】VIE171～20mグリッドに位置する。検出面はⅢ層中～Ⅳ層上面である。Ⅲ層の掘り下げ中に黒褐色の楕円形の広がりとして検出した。北西側は調査区外へ延びる。

【重複関係】R D 034・035・036陥り穴状遺構を切る。

【建替え】壁溝の検出面より約10cm上層で、焼土の広がりを検出した。この焼土は、主柱穴と考えられるP9に重なるように広がっていることから、本遺構は建て替えが行われた可能性が考えられる。

【平面形・規模】平面形は、調査範囲からやや南北方向が長い楕円形基調と推定される。調査範囲での規模は、長軸7.34m×短軸4.72mを測る。

【堆土】10層に分層した。1～7層は黒褐色シルトを主体とする堅穴埋土、8～10層は周溝埋土である。

【床面・壁】掘削はV層～VI層上面まで行われている。床面はやや凹凸がみられ、北東から南西に向かって緩く傾斜する。壁は外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは最深部で30cmを測る。

【炉】調査区際の南西隅で、炭化物を含む焼土の広がりを確認した。焼土の厚さは約10cmである。

【柱穴】10個（P1～10）検出した。開口部径は21～101cm、床面からの深さは6～84cmを測り、VI層中まで掘削が行われている。このうち、P1・4・5・8・9は、その規模と床面からの深さから主柱穴であった可能性が考えられる。埋土は、黒褐色シルトを主体とするものが多い。堆積様相については判断できなかったものが多いが、P8では柱痕跡が認められた。P5は人為堆積であると判断され、埋め戻しが行われた可能性が考えられる。

【壁溝】壁溝は南西壁を除いてほぼ全周する。壁溝のほぼ全域の所々で、剥片石器・剥片14点が検出面から埋土上位にかけて出土した。このうち、南東側の壁溝で出土した剥片2点（156・157）が接合した。

【剥片集中地点（デボ）】南側の壁溝の埋土から、剥片12点と石鏃1点（139）がまとめて出土した。剥片は12点のうち6点が接合した（140～145）。石材は、いずれも北上山地産の頁岩である。

遺物（第25・26・36～39・46・47図、写真図版22～24・33～35・44・45）

【土器】埋土から11,645.2g出土し、このうち、15点・3,621.0gを掲載した（11～25）。

【石器】トゥール12点と剥片18点の30点・6,730.0gを掲載した（137～166）。うち、137の石鏃は床面出土である。

【石製品】石棒2点・8,670.0gと石鉢1点・103.6gが出土した（253～255）。

時期 出土土器から縄文時代中期後葉～末葉と考えられる。

R A004堅穴住居

遺構（第10・11図、写真図版7・8）

【位置・検出状況】ⅦE24r～ⅧE2uグリッドに位置する。Ⅷ層掘削中に遺物の集中範囲として検出した。

【重複関係】R A007堅穴住居と重複し、これに切られる。P 4とR A007堅穴住居炉の切りあい関係、すなわちP 4埋土内にR A007堅穴住居炉構築様が整列していたことを判断基準としている。住居プラン自体の変形は確認されないことから、炉の移設による建て替え行為と見て取れる。また、本住居炉にも作り替えの痕跡があることから、最低でも3期の変遷がある。

【平面形・規模】北西一南東6.92m、北東一南西6.80mの楕円形である。

【埋土】下位に基本層IV層起源の黒褐色シルトと褐色砂質シルトの混合土が堆積し、中～上位は黒褐色シルト主体となる。いずれにも遺物が多量に混入しており、人為的に廃棄された可能性がある。

【床面・礎】V層中を床面とし、自然地形に沿って南西側にごく緩く下傾する。堅の立ち上がりは鈍角で緩く、どこまで本来の形状を残しているか不明である。

【炉】南西壁付近に位置する。住居中央側から、掘込部+石囲部+撫込部（前庭部）で構成される複式炉である。軸線は全長・幅は325×227cmで、両側縁のなす角度は約40度である。各部の規模（開口部・底部）および床面から各部底面までの深さは、掘込部が106×72cm・78×66cm・21cm、石囲部が139×78cm・80×54cm・36cm、前庭部が226×179cm・174×161cm・27cmである。石囲部と前庭部左側の炉石設置部分にはいずれも掘方か確認される。前庭部右側には整列した炉石が存在しない。使用後、抜き取られたものと推定される。炉石には扁平な円襍を用いており、短軸を垂直に立てて設置されている。撫込部には焼土が発達しており、平面形・厚さは54×38cm・4cmである。また、石門部には底面ほぼ全域に炭化物粒の堆積層が存在する。焼土は西側の一部に見られるのみである。前庭部は底面左半が硬化しており、右半中央には90cm以上の巨躰が存在する。人為的に設置したものではなく、元々ここにあったものである。

また、前庭部北側にはさらに炉石が1列埋設しており、その南側（内側）には焼土が形成されている。これは1期前の炉の残骸と捉えられる。

【柱穴】本遺構に付属すると考えられるピット5個（P 1～5）と、R A007堅穴住居のいずれに所属するか不明なもの8個（P 6～13）の13個を検出した。P 5は本遺構とR A007堅穴住居の両者で使用されたものと推定される。配置は、炉の長軸線上に頂点を持つ五角形を成し、左右の4個はこの軸線とほぼ平行に並列する。なお、P 8およびR A007堅穴住居P 2も本遺構所属であった可能性があり、このばあいは柱穴数7で、炉の長軸線上に1個、その左右に3個ずつ並列という形になる。P 8、R A007堅穴住居P 2の2個は他の5個に比して浅い。

1 壇穴住居

〔壁溝〕なし。

遺物（第26～31・39～41・47図、写真図版24～28・35～37・44・45）

〔土器〕出土した27,279.2gのうち、47点・16,679.7gを掲載した（26～72）。

〔石器〕トゥール20点、剥片3点の23点・41,588.7gを掲載した（167～189）。167～169は床面出土、170は床面上出上、171はP1底面出土、172は炉構成碟で、台石が転用されたものである。

〔石製品〕床面から棒状礫（256・6.5kg）が、炉埋土から穿孔礫（257・8.0g）と石棒（258・18.6g）が出土した。

時期 出土土器から縄文時代中期末葉と考えられる。

R A 005 壇穴住居

遺構（第12図、写真図版9）

〔位置・検出状況〕ⅧE 4v～5vグリッド付近に位置する。検出面はIV層上面で、炉石の出土により壇穴住居と判断した。

〔重複関係〕なし。

〔平面形・規模〕ともに不明である。

〔埋土〕Ⅲ層と酷似する黒褐色シルトである。

〔床面・壁〕V層上面を床面とし、南側にごく緩く下傾している。壁の立ち上がりは調査区際断面でわずかに確認できたのみで、判然としない。

〔炉〕石囲部1+石囲部2+掘込部（前庭部）で構成される複式炉である。前庭部が住居壁際にあるとすれば、南西壁に位置することになる。軸線はN-50°-Eを向く。全長・幅は168×106cmで、両側縁のなす角度は約35度である。各部の規模（開口部・底部）および床面から各部底面までの深さは、石囲部1が51×36cm・22×16cm・14cm、石囲部2が82×40cm・68×34cm・18cm、前庭部が106×92cm・82×81cm・12cmである。炉石設置部分にはいずれも撿方がある。炉石には扁平・棒状など様々な形状の円礫を用いており、短軸を垂直に立てて設置されている。焼土はいずれにも形成されていない。

〔柱穴〕炉北側から5個のピットを検出した。配置に規則性が見られず、柱穴とは断定できない。

〔壁溝〕なし。

遺物（第31・42図、写真図版28・37）

〔土器〕埋土より2,278.1g出土し、このうち、4点・1,307.0gを掲載した（73～76）。

〔石器〕2点・4,839.2gを掲載した（190・191）。190は炉構成碟で、台石が転用されたものである。

時期 出土土器から縄文時代中期後葉～末葉と考えられる。

R A 006 壇穴住居

遺構（第12図、写真図版10）

〔位置・検出状況〕ⅧE 4y～ⅨF 5aグリッド付近に位置する。検出面はⅡ層直下のIV層中である。黒褐色シルトの不整円形プランとして確認した。

〔重複関係〕R D 024土坑と重複し、これを切る。

〔平面形・規模〕北西一南東3.18m、北東一南西2.74mの楕円形である。北西部が瘤のように出っ張っているが、これは何らかの搅乱と考えられ、本来の形状を示すものではない。

〔埋土〕黒褐色シルトを主体とし、にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。

〔床面・壁〕 V層上面を床面とし、ほぼ平坦である。壁は全域で確認しているが、上位は消失し10cm程度を残すのみである。

〔炉〕 石囲部1+石囲部2+掘込部（前庭部）で構成される複式炉である。南壁際に位置している。軸線はN-0°-Eである。全長・幅は130×78cmで、両側縁のなす角度は約30度である。各部の規模（開口部・底部）および床面から各部底面までの深さは、石囲部1が35×32cm・22×22cm・20cm、石囲部2が52×34cm・30×29cm・9cm、前庭部が78×67cm・60×58cm・6cmである。炉石設置部分にはいずれも掘方が確認される。炉石には扁平・棒状など様々な形状の円礫を用いており、石囲部1の先端には棒状礫が突き出るように存在する。弱く薄い焼土が石囲部1・2に確認される。

〔柱穴〕 北壁付近からピットを2個検出したが、どのような性格か不明である。開口部径は22~30cm、床面からの深さは18・21cmを測る。柱痕跡は認められない。

〔壁溝〕 なし。

遺物（第32図、写真図版29・37・38・45）

〔土器〕 床面および1層から1,746.9g出土し、このうち、4点・1,626.5gを掲載した（77~80）。

〔右器〕 炉構成礫のうち、台石が転用されたものが4点ありこれを掲載した（192~195）。

〔石製品〕 炉構成礫の1点・240.0gを掲載した（259）。棒状礫で、石棒の可能性がある。

時期 出土土器から繩文時代中期後葉と考えられる。

R A007堅穴住居

遺構（第13図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕 VII E24r~VIII E 2uグリッドに位置する。III層掘削中に遺物の集中範囲として検出し、精査の過程で炉を複数確認したことにより多棟数の存在を認識した。

〔重複関係〕 R A004堅穴住居と重複し、これを切る。炉とR A004堅穴住居P 4の切りあい関係、すなわちP 4埋土内に炉構築礫が整列していたことを判断基準としている。

〔平面形・規模〕 北西—南東6.92m、北東—南西6.80mの稍円形である。

〔埋土・床面・壁〕 R A004堅穴住居と同様である。

〔炉〕 南壁付近に位置する。住居中央側から、石囲部1+石囲部2+掘込部（前庭部）で構成される複式炉である。軸線は全長・幅は231×160cmで、両側縁のなす角度は約35度である。各部の規模（開口部・底部）および床面から各部底面までの深さは、石囲部1が64×45cm・32×22cm・13cm、石囲部2が106×58cm・87×50cm・31cm、前庭部が166×135cm・148×123cm・27cmである。炉石設置部分にはいずれも掘方が確認される。炉石には扁平・棒状など様々な形状の円礫を用いており、短軸を垂直に立てて設置されている。石囲部1・2には焼土が発達しており、平面形・厚さはそれぞれ21cm・8cm・49×33cm・4cmである。

〔柱穴〕 本遺構に付属すると考えられるピットは6個（P 1~6）検出された。P 5は本遺構とR A004堅穴住居の両者で使用されたものと推定される。また、P 4・6は同一ピットの可能性があるが、明確な根拠を示せないため別個に登録した。配置は、炉の長軸線上に頂点を持つ未広がりの五角形を成す。P 1・2の2個は他の4個に比して浅い。

〔壁溝〕 なし。

遺物（第32・42図、写真図版29・38・39）

本遺構出土遺物としたものは、炉・ピット埋土および底面から出土したもののみである。これ以外は、重複するR A004堅穴住居出土遺物として登録した。ただし、確実にR A004堅穴住居に共伴すると断

言できるものではなく、逆に分離不可能であったことからより古期のRA004堅穴住居に登録したものである。よって、RA004堅穴住居に登録した遺物にも本遺構に伴うものが含まれている可能性があることを付記しておく。

〔土器〕炉の埋土および底面から1,374.0gが出土し、このうち、2点・65.7gを掲載した（81・82）。

〔石器〕5点・49,022.6gを掲載した（196～200）。196・197は炉構成礫で、台石が転用されたものである。

時期 出土土器から縄文時代中期末葉と考えられる。

RA008堅穴住居

遺構（第14図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕Ⅷ E 4r～Ⅷ E 5tグリッド付近の上段際に位置する。検出面はⅢ層中である。礫とその周囲約2.8mに広がる炭化物の分布範囲として検出し、その精査の過程で堅穴住居と判断した。〔重複関係〕なし。

〔平面形・規模〕規模は3.1m以上で、平面形は稍円形もしくは円形と推定される。

〔埋土〕黒褐色シルトを主体とし、炭化物粒を顆著に含む。

〔床面・壁〕床面はⅢ層中からV層上面で、地形に沿って南西方向へ緩く下傾する。壁は北東側で12cm残存するが、南西側は段丘線に位置し、開田時の削平により消失している。

〔炉〕東壁付近に位置する。住居中央側から、右隅部1+石囲部2+掘込部（前庭部）で構成される複式炉である。軸線は全長・幅は128×96cmで、両側縁のなす角度は約35度である。各部の規模（開口部・底部）および床面から各部底面までの深さは、石囲部1が38×31cm・27×20cm・2cm、石囲部2が54×30cm・43×25cm・3cm、前庭部が97×75cm・74×66cm・6cmである。炉石設置部分にはいずれも掘方か確認される。炉石には扁平・棒状など様々な形状の円礫を用いており、短軸を直垂に立てて設置されている。石囲部1および2の西半に焼土が発達している。前者は底部全域に広がり、厚さは4cmである。後者の範囲は31×10cmで、厚さは2cmである。

〔柱穴〕なし。

〔塙溝〕なし。

遺物（第32図、写真図版29・38・40）

〔土器〕1層および炉直上から399.5gが出土し、このうち、4点・133.0gを掲載した（83～86）。

〔石器〕6点・37.7kgを掲載した（201～206）。すべて台石で、201は床面出土、206は床面直上出土、202～205は炉構成礫である。

時期 出土土器から縄文時代中期末葉と考えられる。

2 土坑・陥し穴状遺構

RD013土坑

遺構（第15図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕Ⅶ E 2lu～2lvグリッドに位置する。検出面はⅣ層中である。

〔重複関係〕なし。

〔平面形・規模〕規模は、開口部径76～78cm、底部径46～52cmを測る。平面形はほぼ円形を呈する。

〔埋土〕黒褐色シルトにぶい黄褐色砂質シルトが混じる单層である。

〔床面・壁〕掘削はV層中まで行われており、底面はほぼ平坦である。壁は直立～外傾しながら立ち

上がる。検出面からの深さは25cmである。

遺物（第32・42図、写真図版29・40）

[土器] 埋土から62.4g出土し、このうち、1点・33.9gを掲載した（87）。

[石器] 埋土1層からトゥール2点・16.0gが出土した（207・208）。

時期 出土土器から縄文時代中期と考えられる。

R D014土坑

遺構（第15図、写真図版13）

[位置・検出状況] VII E 2v ~ 2wグリッドに位置する。検出面はIV層中である。

[重複関係] R D027陥し穴状遺構を切る。

[規模・平面形] 規模は、開口部径202×177cm、底部径139×121cmを測る。平面形は不整橢円形を呈する。

[埋土] 黒褐色シルトを主体とし、下位ほどにぶい黄褐色砂や褐色砂質シルトが多く混じる。

[床面・壁] 挖削はVI層上面まで行われており、底面には凹凸がみられる。壁は外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは28cmである。

遺物（第32図、写真図版29）

[土器] 1層から31.8g出土し、このうち、1点・22.0gを掲載した（88）。

時期 重複遺構と出土土器から縄文時代前期～中期と考えられる。

R D015土坑

遺構（第15図、写真図版13）

[位置・検出状況] VII E 2o ~ 2lグリッドに位置する。検出面はIV層中である。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径86~95cm、底部径28~33cmを測る。平面形は不整円形を呈する。

[埋土] 上位から黒褐色シルト、暗褐色砂質シルト、褐色砂質シルト主体の3層に分層した。自然堆積と考えられる。

[床面・壁] 挖削はVI層上面まで行われており、底面はほぼ平坦である。壁は外反しながら立ち上がる。検出面からの深さは38cmである。

遺物 なし。

時期 検出面と埋土の様相から縄文時代中期と考えられる。

R D016土坑

遺構（第15図、写真図版13）

[位置・検出状況] VIII E 2yグリッドに位置する。検出面はIV層中である。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 北壁は搅乱により壊されている。残存部分の規模は、開口部径203×145cm、底部径146×103cmを測る。平面形は不整な橢円形を呈する。

[埋土] 暗赤褐色シルト主体で、上位に黒色シルト、下位に黒褐色シルトとにぶい黄褐色砂質シルトの混土が堆積する。各層とも様々な土壤が混在しており、人為堆積の様相を呈する。

[床面・壁] 挖削はV層中まで行われており、底面には凹凸がある。壁は外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは30cmである。

2 土坑・陥し穴状遺構

遺物（第32図、写真図版29）

【土器】埋土から184.4g出土し、このうち、1点・31.4gを掲載した（89）。

時期 検出面と出土土器から縄文時代中期と考えられる。

R D017土坑

遺構（第17図、写真図版14）

【位置・検出状況】Ⅷ E 4x～5xグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

【重複関係】R D025陥し穴状遺構を切る。

【規模・平面形】平面形は長方形を呈し、南西側は調査区外へ延びる。調査区範囲での規模は、開口部径135×92cm、底部径74×72cmを測る。

【埋土】黒～黒褐色シルト主体である。

【床面・壁】掘削はVa層中まで行われており、底面はほぼ平坦である。壁はほぼ直立して立ち上がる。検出面からの深さは41cmである。

遺物

【土器】埋土から466.4g出土したが、細片のためすべて不掲載とした。

時期 検出面から縄文時代と考えられるが、判然としない。

R D018陥し穴状遺構

遺構（第16図、写真図版14）

【位置・検出状況】Ⅷ F 6e～7eグリッドに位置する。検出面はI層直下のIV層中である。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】規模は、開口部径238×49cm、底部径217×12cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-12°-Eである。

【埋土】下位から壁際にかけて灰黄褐色砂質シルトと黒褐色シルトの混土が堆積する。崩落土と考えられる。上位は黒褐色シルト主体である。全体的に自然堆積と推定される。

【床面・壁】掘削はV層中まで行われている。底面には凹凸があるが、ピットなどの底部施設は認められない。断面形は逆台形状を呈し、壁は底面よりほぼ垂直に立ち上がり、外傾しながら開く。検出面からの深さは56cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D019陥し穴状遺構

遺構（第16図、写真図版14）

【位置・検出状況】Ⅷ F 6e～7eグリッドに位置する。検出面はI層直下のIV層中である。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】規模は、開口部径276×35cm、底部径247×16cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-22°-Wである。

【埋土】下～中位から壁間にかけて暗褐色砂質シルトと黒褐色シルトの混土が堆積する。崩落土と考えられる。上位は黒褐色シルト主体である。全体的に自然堆積と推定される。

【床面・壁】掘削はV層中まで行われている。底面はほぼ平坦で、ピットなどは認められない。壁は

底面よりほぼ垂直に立ち上がり、上部では外傾気味に開く。検出面からの深さは56cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種造構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D020陥し穴状遺構

遺構 (第16図、写真図版14)

[位置・検出状況] VII F 7 b ~ 7 cグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] R D021陥し穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・平面形] 平面形は溝形を呈すると考えられ、南東側は調査区外へ延びる。調査範囲での規模は、開口部径101×53cm、底部径101×20cmを測る。長軸方向はN-10°-Wである。

[埋土] 下位に暗褐色シルト、中位に褐色砂質シルト、上位に黒褐色シルトが堆積する。途中に崩落土と考えられるにぶい黄褐色砂質シルトが挟まる。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV層中まで行われている。底面は北西側に向かってやや傾斜する。ピットなどは認められない。壁は底面よりほぼ垂直に立ち上がり、漏斗状に外傾しながら開く。検出面からの深さは65cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種造構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D021陥し穴状遺構

遺構 (第16図、写真図版14)

[位置・検出状況] VII F 7 bグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] R D020陥し穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・平面形] 平面形は溝形を呈すると考えられ、南西側は調査区外へ延びる。調査範囲での規模は、開口部径113×39cm、底部径93×14cmを測る。長軸方向はN-48°-Eである。

[埋土] 大半が黒褐色シルトとにぶい黄褐色砂質シルトの混土で、崩落土が大半を占めると考えられる。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV層中まで行われている。底面はほぼ平坦で、ピットなどは認められない。壁はほぼ直立して立ち上がり、上部では外傾気味に開く。検出面からの深さは69cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種造構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D022陥し穴状遺構

遺構 (第16図、写真図版15)

[位置・検出状況] VII F 5 b ~ 6 aグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 平面形は溝形を呈すると考えられ、南西側は調査区外へ延びる。調査範囲での規模は、開口部径312×38cm、底部径253×18cmを測る。長軸方向はN-33°-Eである。

[埋土] 壁際に黒褐色シルトとにぶい黄褐色砂の混土が堆積し、その他は黒褐色シルト主体である。前者は崩落土と考えられる。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV層中まで行われている。底面には凹凸がみられるが、ピットなどは認められない。

2 土坑・陥し穴状遺構

壁は底面より直立～内傾気味に立ち上がり、上部では外傾しながら開く。検出面からの深さは58cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D023陥し穴状遺構

遺構 (第16図、写真図版15)

[位置・検出状況] VII F 6aグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 平面形は溝形を呈すると考えられ、南西側は調査区外へ延びる。調査範囲での規模は、開口部径177×33cm、底部径159×20cmを測る。長軸方向はN-29°-Eである。

[埋土] 黒褐色シルト主体で、褐色砂質シルトが混在する。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV層中まで行われている。底面はほぼ平坦で、ピットなどは認められない。壁はほぼ直立して立ち上がる。検出面からの深さは56cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D024陥し穴状遺構

遺構 (第16図、写真図版15)

[位置・検出状況] VII E 5y～6yグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] R A006竪穴住居、R F012豊穴住居と重複し、これらに切られる。

[規模・平面形] 平面形は溝形を呈すると考えられ、南西側は調査区外へ延びる。調査範囲での規模は、開口部径222×67cm、底部径208×22cmを測る。長軸方向はN-24°-Eである。

[埋土] 下位は黒～黒色シルトとぶい黄褐色砂の混土で、崩落土と考えられる。上位は黒褐色シルト主体である。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV層中まで行われている。底面は北東側でやや凹凸がみられるが、ほぼ平坦で、ピットなどは認められない。壁は直立～内湾気味に立ち上がり、上部では外傾しながら開く。検出面からの深さは66cmである。

遺物 なし。

時期 重複関係から縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D025陥し穴状遺構

遺構 (第17図、写真図版14)

[位置・検出状況] VII E 5xグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] R D017土坑に切られる。

[規模・平面形] 平面形は溝形を呈し、南側は調査区外へ延びる。調査範囲での規模は、開口部径217×40cm、底部径208×19cmを測る。長軸方向はN-21°-Eである。

[埋土] R D017土坑との重複により上位がほとんど残存しない。下位は黒褐色シルト主体で、自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV層中まで行われている。底面は北東側に向かってやや傾斜する。ピットや凹凸

などは認められない。壁はほぼ直立して立ち上がる。検出面からの深さは42cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D026陥し穴状遺構

遺構 (第17図、写真図版15)

[位置・検出状況] VII E 3 wグリッド付近に位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径265×52cm、底部径240×20cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-22°-Eである。

[埋土] 黒褐色シルト主体で、にぶい黄褐色砂が混じる。自然堆積と推定される。

[床面・壁] 掘削はV～VI層(疊層)上面まで行われている。底面はほぼ平坦で、ピットなどは認められない。断面形は逆台形状で、壁は外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは52cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D027陥し穴状遺構

遺構 (第17図、写真図版16)

[位置・検出状況] VII E 2 wグリッド付近に位置する。検出面はIV層上面からV層上面である。

[重複関係] R D014上坑に切られる。

[規模・平面形] 規模は、開口部径218×32cm、底部径193×23cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-47°-Eである。

[埋土] 下位に褐色砂質シルトが、中～上位に黒褐色シルトが堆積する。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 掘削はV層中まで行われている。底面はほぼ平坦で、ピットなどは認められない。壁はほぼ直立～内傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは30cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D028陥し穴状遺構

遺構 (第18図、写真図版16)

[位置・検出状況] VII E 2 v～3 wグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] P7に切られる。

[規模・平面形] 規模は、開口部径289×31cm、底部径270×25cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-19°-Eである。

[埋土] 黒褐色シルトとにぶい黄褐色砂、もしくは褐色砂質シルトとの混土である。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 掘削はV～VI層(疊層)上面まで行われている。底面は所々で礫が露出しているがほぼ平坦で、ピットなどの底部施設は認められない。壁はほぼ直立～内湾気味に立ち上がる。検出面からの深さは42cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D029陥し穴状遺構

遺構 (第18図、写真図版16)

[位置・検出状況] VIII E 1u ~ 2tグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] R A004堅穴住居に切られる。

[規模・平面形] 規模は、開口部径255×48cm、底部径226×14cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN - 38° - Eである。

[埋土] 黒褐色シルトとにぶい黄褐色砂質シルト、もしくは灰黄褐色シルトとの混土である。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV ~ VI層（礫層）中まで行われている。北東端では礫層が露出しているが、底面はほぼ平坦である。ピットなどの底部施設は認められない。壁はほぼ直立して立ち上がり、上部では外傾しながら開く。検出面からの深さは59cmである。

遺物 なし。

時期 R A004堅穴住居との重複関係から、少なくとも縄文時代中期末葉以前、さらには一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D030陥し穴状遺構

遺構 (第18図、写真図版16)

[位置・検出状況] VIII E 1t ~ 3tグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] R A004堅穴住居に切られる。

[規模・平面形] 規模は、開口部径297×35cm、底部径262×24cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN - 44° - Eである。

[埋土] 黒褐色シルト主体である。下位にはにぶい黄褐色砂質シルトが混在する。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV ~ VI層（礫層）上面まで行われている。北東端では礫層が露出しているが、底面はほぼ平坦である。ピットなどの底部施設は認められない。壁はほぼ直立して立ち上がる。検出面からの深さは34cmである。

遺物 なし。

時期 R A004堅穴住居との重複関係から、少なくとも縄文時代中期末葉以前、さらには一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代後期中葉以前と考えられる。

R D031陥し穴状遺構

遺構 (第17図、写真図版17)

[位置・検出状況] VII E 25t ~ VII E 1sグリッドに位置する。R A004・007堅穴住居精査中にその床面で検出した。

[重複関係] R A004堅穴住居に切られる。

[規模・平面形] 規模は、開口部径263×34cm、底部径228×10cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN - 38° - Eである。

[埋土] 黒褐色シルトとにぶい黄褐色砂質シルト、灰黄褐色砂質シルトが混じる。

[床面・壁] 挖削はVI層（礫層）上面まで行われている。底面は礫層が露出しているが、ほぼ平坦である。ピットなどの底部施設は認められない。壁はほぼ直立て立ち上がる。検出面からの深さは51cmである。

遺物 なし。

時期 R A004堅穴住居との重複関係から、少なくとも縄文時代中期末葉以前、さらには一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D032陥し穴状遺構

遺構 (第18図、写真図版17)

[位置・検出状況] VII E 24r ~ 25qグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径283×56cm、底部径248×18cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-44°-Eである。

[埋土] 下～中位は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの混土、上位は黒褐色シルトと褐色砂質シルトの混土で、崩落土が多くを占めるものと考えられる。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV層まで行われている。底面はほぼ平坦で、ピットなどの底部施設は認められない。断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは39cmである。

遺物 なし。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D033陥し穴状遺構

遺構 (第18図、写真図版17)

[位置・検出状況] VII E 22p ~ 23pグリッドに位置する。検出面はIV層上面である。

[重複関係] R H011配石遺構に切られる。

[規模・平面形] 規模は、開口部径292×49cm、底部径272×19cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-32°-Eである。

[埋土] 大半が黒褐色シルトとにぶい黄褐色砂質シルトの混土で、崩落土が多くを占めるものと考えられる。全体的に自然堆積と推定される。

[床面・壁] 挖削はV～VI層（礫層）上面まで行われている。底面はほぼ平坦で、ピットなどの底部施設は認められない。

遺物 (写真図版40)

[土器] 不掲載としたが、埋土から43.7g出土した。

[石器] 埋土から剥片1点・16.2g(209)、台石1点・317.4g(210)が出土した。

時期 一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D034陥し穴状遺構

遺構 (第19図、写真図版17)

[位置・検出状況] VII E 19m ~ 20lグリッドに位置する。R A003堅穴住居の床面で検出した。

[重複関係] R A003堅穴住居に切られる。また、R D035陥し穴状遺構と重複するが、新旧関係は不

明である。

[規模・平面形] 規模は、開口部径371×26cm、底部径319×11cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-30°-Eである。

[埋土] 黒褐色シルト、黒褐色砂質シルト、にぶい黄褐色砂質シルトの混土である。

[床面・壁] 挖削はVI層(礫層)上面まで行われている。底面は礫層が露出しており、北東側にやや傾斜している。ピットなどの底部施設は認められない。壁は直立～やや外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは26cmである。

遺物 なし。

時期 R A003堅穴住居との重複関係から、少なくとも縄文時代中期末葉以前、さらには一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D035陥し穴状遺構

遺構 (第19図、写真図版17・18)

[位置・検出状況] VII E19m～20lグリッドに位置する。R A003堅穴住居の床面で検出した。

[重複関係] R A003堅穴住居に切られる。また、R D034陥し穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。

[規模・平面形] 規模は、開口部径291×26cm、底部径249×16cmを測り、平面形は溝形を呈する。長軸方向はN-15°-Eである。

[埋土] にぶい黄褐色～灰黄褐色砂質シルト主体である。

[床面・壁] 挖削はVI層(礫層)上面まで行われている。底面は礫層が露出しているが、ほぼ平坦である。ピットなどの底部施設は認められない。壁はやや外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは22cmである。

遺物 なし。

時期 R A003堅穴住居との重複関係から、少なくとも縄文時代中期末葉以前、さらには一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D036陥し穴状遺構

遺構 (第19図、写真図版18)

[位置・検出状況] VII E18l～19lグリッドに位置する。R A003堅穴住居の床面で検出した。

[重複関係] R A003堅穴住居に切られる。

[規模・平面形] 平面形は溝形を呈し、北側は調査区外へさらに延びると考えられる。調査範囲での規模は、開口部径188×31cm、底部178×13cmを測る。長軸方向はN-1°-Wである。

[埋土] 黒褐色シルトにぶい黄褐色シルトの混土である。

[床面・壁] 挖削はVI層(礫層)上面まで行われている。底面は礫層が露出しているが、ほぼ平坦である。ピットなどの底部施設は認められない。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

遺物 なし。

時期 R A003堅穴住居との重複関係から、少なくとも縄文時代中期末葉以前、さらには一連の構築と考えられる同種遺構の年代から、縄文時代中期後葉以前と考えられる。

R D037土坑

遺構 (第19図、写真図版18)

[位置・検出状況] VII E 1q ~ 2qグリッドに位置する。Ⅲ層中で埋土上位の縹を検出し、遺構の存在を確認した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 規模は、開口部径215×120cm、底部径189×91cmを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。長軸方向はN-40°-Eである。

[埋土] 黒褐色シルト主体で、褐色砂質シルトが混じる。

[床面・壁] 掘削はV層中まで行われており、平面はほぼ平坦である。壁はやや外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは36cmである。

遺物 (第33・42図、写真図版30・40)

[土器] 1層から402.9gが出土し、このうち、1点・33.9gを掲載した(90)。

[石器] 1層から石範1点・11.4gが出土した(211)。

時期 不明であるが、RA004・007堅穴住居と同一層位で検出したことから、これと近似する時期の可能性が高い。

3 焼 土 遺 構

R F 009焼土遺構**遺構** (第20図、写真図版18)

[位置・検出状況] VII E 5tグリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 平面範囲は48×45cmを測り、不整形に広がる。厚さは最大8cmである。

[焼土の様相] 黒褐色シルトおよびにぶい黄褐色シルトと焼土の混土であり、異地性である。

遺物 なし。

時期 不明であるが、RA004・007堅穴住居と同一層位で検出したことから、これと近似する時期の可能性が高い。

R F 010焼土遺構**遺構** (第20図、写真図版19)

[位置・検出状況] VII E 4pグリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 焼土範囲は57×52cmを測り、不整円形に広がる。厚さは最大13cmである。

[焼土の様相] 植物痕などの搅乱が激しい。現地性の焼土であり、燃焼面上に粘土塊が堆積している。

遺物

[土器] 焼土層の直上から18.9g出土したが、細片のため不掲載とした。

時期 不明であるが、RA004・007堅穴住居と同一層位で検出したことから、これと近似する時期の可能性が高い。

R F 011焼土遺構**遺構** (第20図、写真図版19)

3 焼土遺構

[位置・検出状況] VII E 1p ~ 2pグリッドに位置する。Ⅲ層中で検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 平面範囲は開口部径63×42cmの不整楕円形で、厚さは最大10cmである。

[焼土の様相] 黒褐色シルトおよび黒褐色砂質シルトと焼土の混土であり、異地性である。

遺物（第33図・写真図版30）

[土器] 1層から54.1g出土し、このうち1点・32.0gを掲載した（91）。

時期 不明であるが、RA004・007竪穴住居と同一層位で検出したことから、これと近似する時期の可能性が高い。

R F012焼土遺構

遺構（第17図、写真図版19）

[位置・検出状況] VII E 5x ~ 6yグリッドに位置する。Ⅲ層中で焼土ブロックの点在範囲として検出した。

[重複関係] なし。

[規模・平面形] 南西側は調査区外へ延びる。調査範囲での掘り込みは開口部径281×91cmを測る。平面形は円形基調と考えられる。

[焼土の様相] 黒褐色シルトおよびにぶい黄褐色砂質シルトが焼土および炭化物粒と混在する状態で、異地性と考えられる。

[床面・壁] 壁削はV字層中まで行われており、底面には凹凸がある。壁は緩く外傾しながら立ち上がる。

遺物（第33・42・47図、写真図版30・40・45）

[土器] 埋土から204.8g出土し、このうち、2点・202.8gを掲載した（92・93）。

[石器] 底面から両面鏝器1点・1,145.5gが出土した（212）。

[石製品] 底面で石棒1点・8kgが出土した（260）。

時期 底面出土遺物から縄文時代と考えられる。竪穴住居からも同様の石棒が出土していることを考慮すれば、これらと同時期の可能性が高い。

4 配石・集石遺構

R H011配石遺構

遺構（第20図、写真図版20）

[位置・検出状況] VII E 22c ~ dグリッドに位置する。Ⅲ層中で疊集中として検出した。

[重複関係] RD033陥し穴状遺構を切る。

[規模・平面形] 疊集中は139×127cmの範囲に広がる。範囲中央付近に扁平礫を立位に埋設した箇所が確認される。これ以外に規則性は認識できない。疊群の下部からは土坑が確認され、開口部径157×148cm、底部径105×93cmを測り、平面形は不正楕円形、断面形は椀状を呈する。

[埋土] 下～中位は黒褐色シルトと褐色砂の混土である。上位は黒褐色シルトで、礫を埋設している。

遺物（第33・43図、写真図版30・40～42・45）

[土器] 下部土坑の埋土から1,725.6gが出土し、このうち、4点・440.8gを掲載した（94～97）。

[石器] 構成礫のうち石器が転用された7点・28,004.9gを掲載した（213～219）。この他、構成礫4点・25,530.0gも掲載している（220～223）。

〔石製品〕構成礫のうち、棒状で石棒の可能性があるもの1点・2,792.0gを掲載した(261)。

時期 出土遺物から縄文時代中期後～末葉と考えられる。

R H012配石遺構

遺構 (第21図、写真図版20)

〔位置・検出状況〕Ⅶ E 23k～24kグリッドに位置する。同付近は上段から下段にかけての傾斜部分にある。検出面はIV層中である。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕直径25～40cmの6個の自然礫が、長軸64×短軸59cmの「コ」字形に埋設されている。

〔埋土〕2・3層は礫埋設のための掘方と考えられ、5層には焼土ブロックが含まれる。このことから、本遺構は後世の削平によって破壊された竪穴住居の炉であった可能性が考えられる。

遺物 (第33・43図、写真図版30・42)

〔土器〕検出面から34.3gが出土した。これと周辺から出土した土器片が接合し、1点・189.1gを掲載した(98)。

〔石器〕構成礫のうち石器が転用された3点・15,020.0gを掲載した(224～226)。

時期 出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

R H013集石遺構

遺構 (第21図、写真図版20)

〔位置・検出状況〕Ⅷ E 2r～3rグリッド付近に位置する。III層中で、礫集中として検出した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕3.0×2.3mの範囲に集中する。規則的なものは不明であるが、「T」字形に配置されているようにも見える。

時期 不明である。

5 埋設土器遺構

R P002埋設土器遺構

遺構 (第21図、写真図版21)

〔位置・検出状況〕Ⅶ E 22j～22kグリッドに位置する。検出面はIV層中で、掘り方と考えられる黒褐色の楕円形プランと土器のまとまりを検出したことから、埋設土器と判断した。

〔重複関係〕なし。

〔規模・平面形〕掘方は楕円形を呈する。規模は上端82×55cm、下端36×21cm、検出面からの深さは14cmを測る。

〔出土状況〕99が斜位に埋設されていた。

〔埋土〕内部には黒褐色砂質シルトが堆積している。掘方埋土は、黒褐色砂質シルトを主体とし、褐色砂質シルトブロックを少量含む。

遺物 (第33図、写真図版30)

〔土器〕1,091.1gが出土し、99の埋設土器1点・828.00gを掲載した。

時期 出土土器から縄文時代中期後葉と考えられる。

6 柱 穴 状 土 坑 (第22・33図、写真図版30)

開口部径50cm以下の土坑で、柱穴の可能性があるものをここに登録した。7個確認されている (P1～7)。ⅦE 3 s～4 s付近に比較的密集するが、配置・平面規模・深さとも様々で、規則性は見出せない。埋土はいずれも黒褐色シルト主体である。

7 溝

R G001溝

遺構 (第23図、写真図版21)

【位置・検出状況】下段部分のⅦE 3 h～ⅦE 7 lグリッド付近に位置し、Ⅱ層中で検出した。西北端は調査区外へ続くものと考えられる。なお、精査は、下段部分中央付近のⅦE 7 lグリッド付近まで行い、それより南東にあたる部分についてはプランを確認するのみにとどめた。下段部分で検出した遺構はR G001溝のみである。

【重複関係】なし。

【規模・平面形】精査を行った部分について記述する。長さは124.8m、幅は、上端15.8～27.2m、下端7.5～15.8mを測る。北西・南東方向に蛇行しながら延びる。

【埋土】黒褐色砂を主体とし、6層に分層した。自然堆積と考えられる。

【底面・壁】VI層中まで掘削が行われている。底面は凹凸がみられ、起伏が大きい。壁は直立～外傾しながら立ち上がる。検出面からの深さは、21.7～77.7cmを測る。大きく窪んだ最深部では96.7cmを測る。

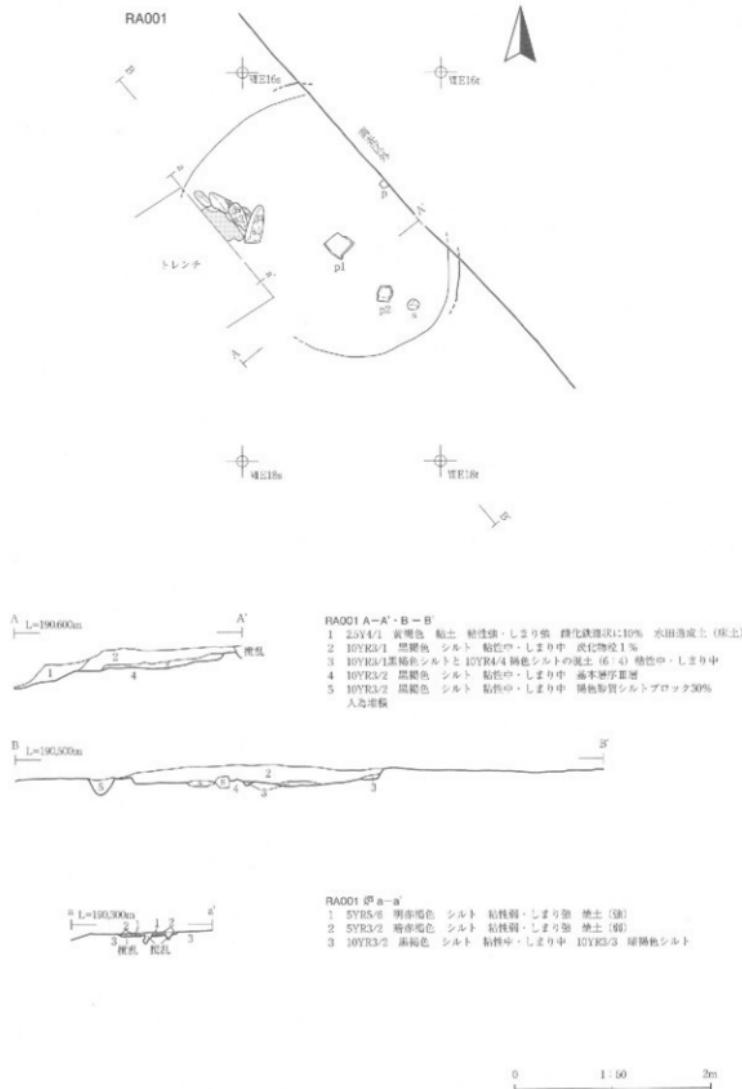
遺物 (第33・43・47図、写真図版30・42・46)

【銭貨】大きく窪んだ最深部の最下層より1点出土し、これを掲載した (264)。

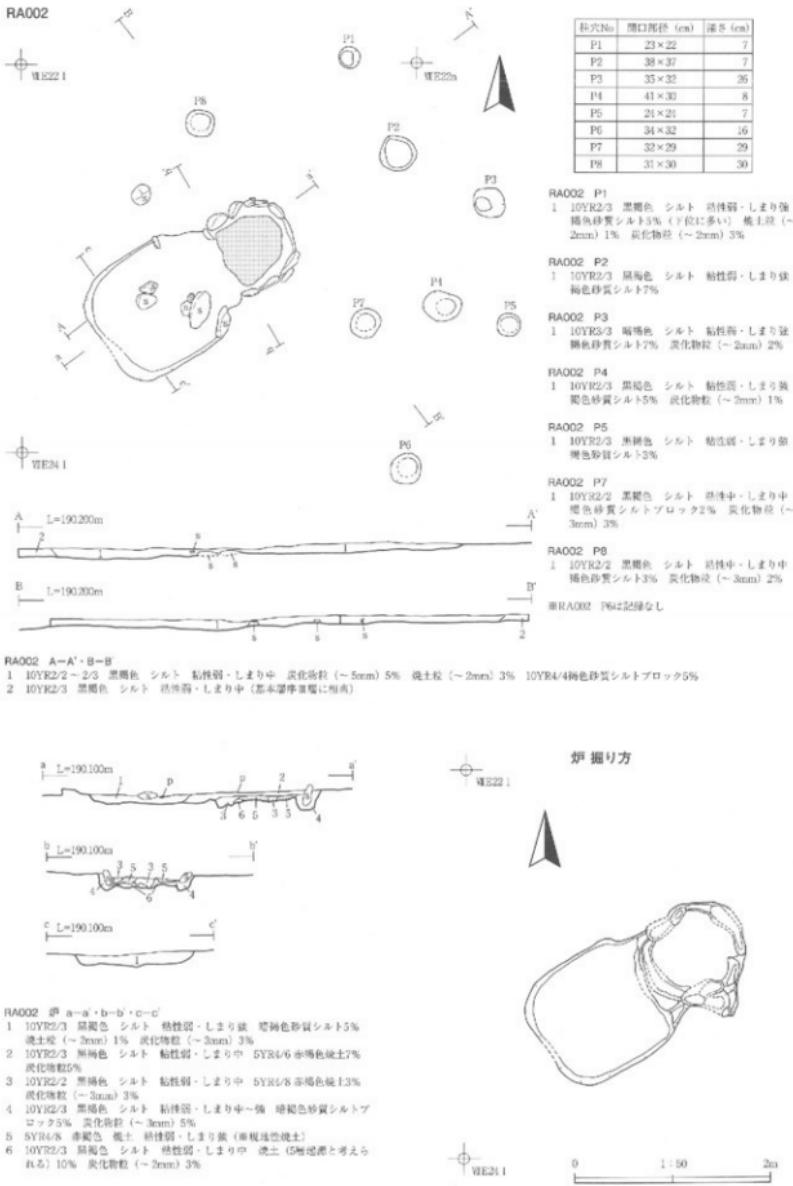
【土器】埋土から1,659.6g出土し、このうち2点・75.6gを掲載した (101・102)。

【石器】埋土からトゥール2点・542.1gが出土した (227・228)。

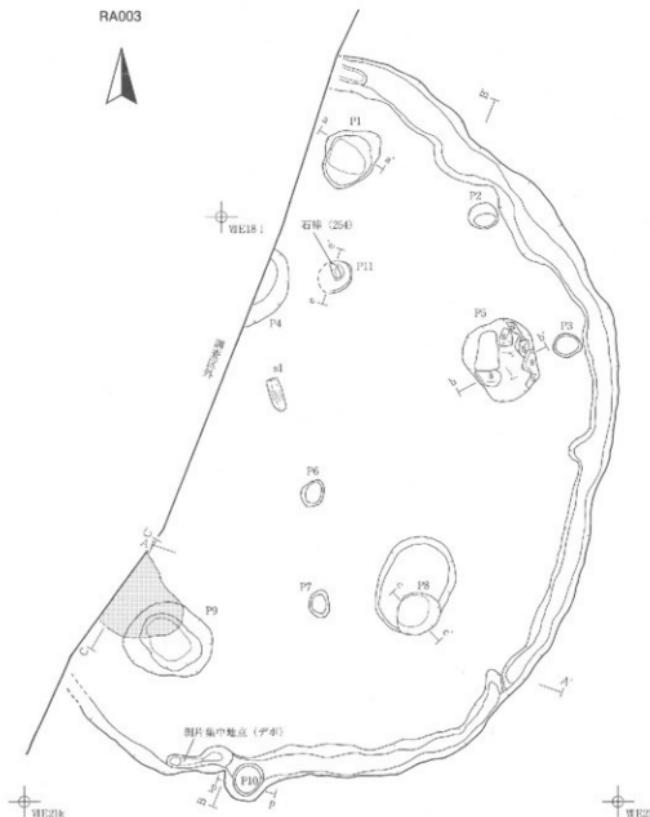
時期 埋土の最下層から出土した銭貨の様相から、近世以降と考えられる。



第6図 RA001堅穴住居



第7図 RA002豊穴住居



RA003

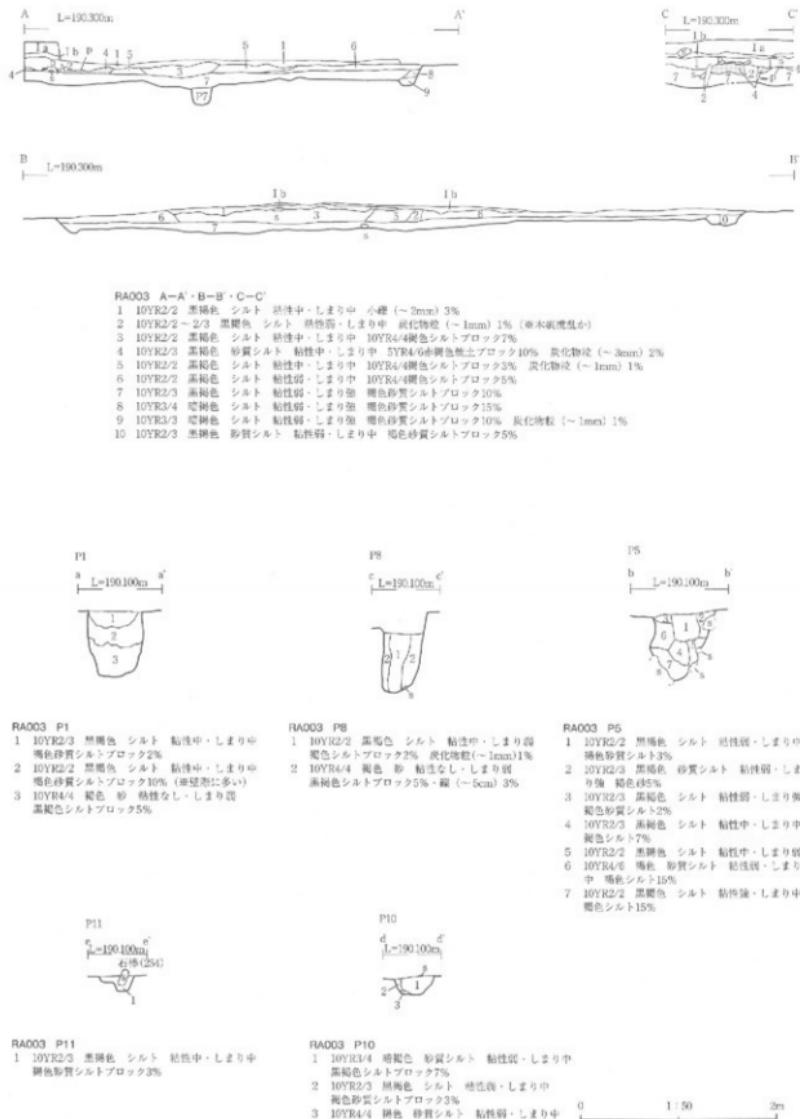
| 柱穴No | 開口部径 (cm) | 深さ (cm) | 備考 |
|------|-----------|---------|-----|
| P1 | 70×55 | 24 | |
| P2 | 30×27 | 22 | |
| P3 | 29×25 | 6 | |
| P4 | (65)×(30) | (26) | 廻査分 |
| P5 | 82×71 | 71 | |
| P6 | 30×23 | 11 | |
| P7 | 28×21 | 64 | |
| P8 | 101×53 | 83 | |
| P9 | 78×74 | 22 | |
| P10 | 34×31 | 20 | |

RA003 P2
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 黑色砂質シルト2%RA003 P7
1 10YR3/4 塩褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱

※RA003 P3・4・6・9は記述なし

0 1-50 2m

第8図 RA003竪穴住居 (1)



第9図 RA003竪穴住居（2）

RA004



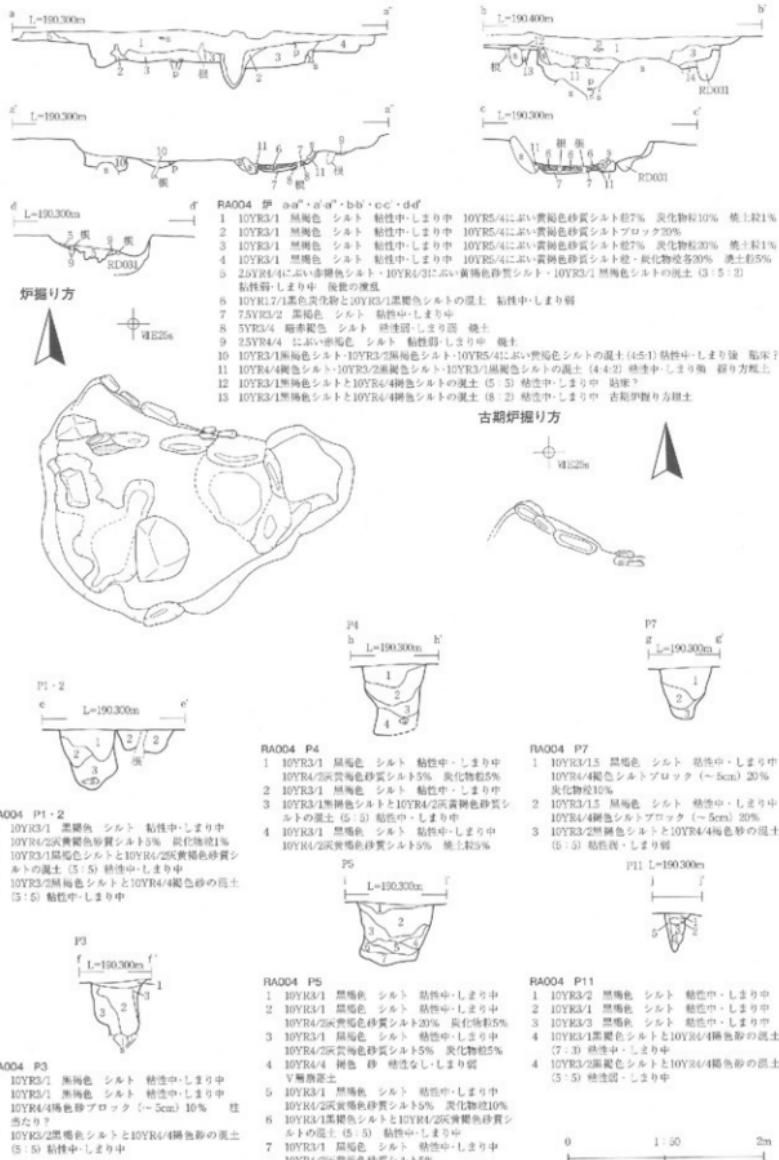
| 柱穴No. | 開口部径 (cm) | 深さ (cm) |
|-------|-----------|---------|
| P1 | 91×28 | 67 |
| P2 | 62×- | 42 |
| P3 | 65×- | 65 |
| P4 | 94×82 | 74 |
| P5 | 102×50 | 60 |
| P6 | 75×75 | 68 |
| P7 | 62×60 | 73 |
| P8 | 26×22 | 47 |
| P9 | 102×50 | 34 |
| P10 | 33×30 | 41 |
| P11 | 96×30 | 57 |
| P12 | 48×44 | 47 |
| P13 | 32×30 | 42 |

RA004-A-A'・B-B'

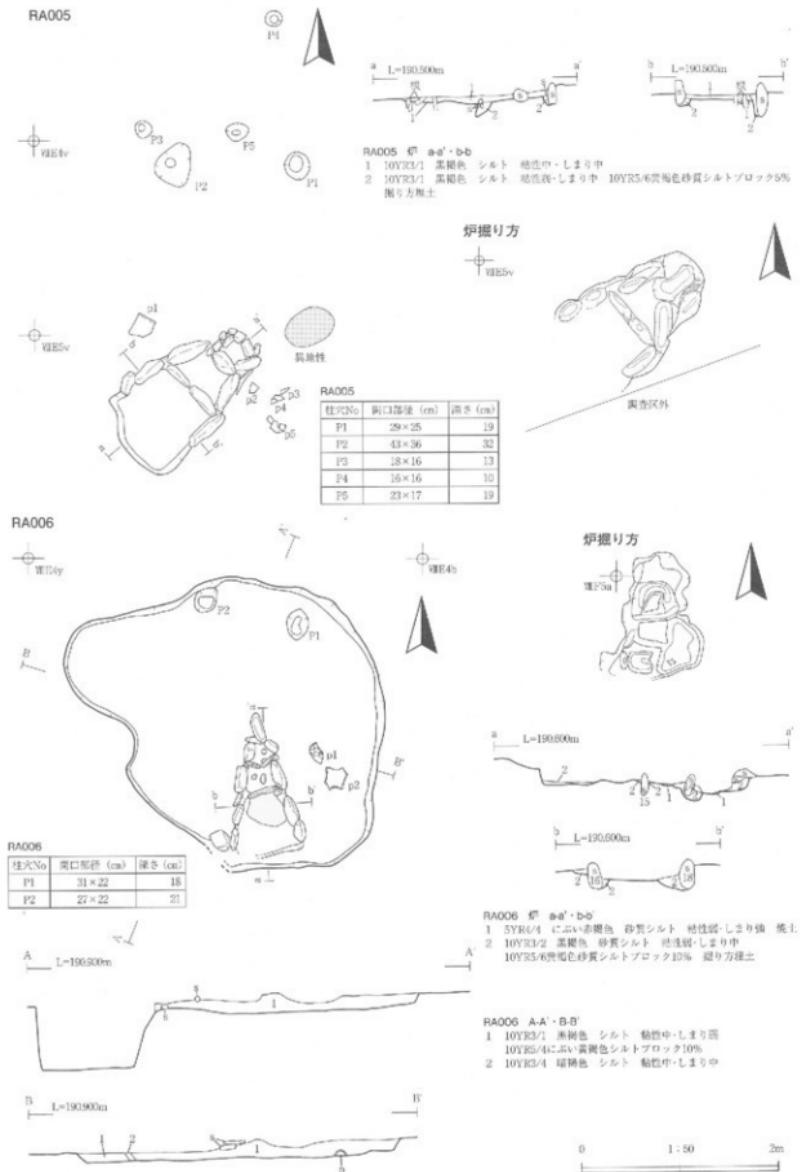
- 1 10YR 4/1 黒褐色 シルト 烟け中・しまり中 黄・植生1%
- 2 10YR 3/1 基礎色シルトと10YR 4/6褐色砂質シルトの混土 (7:3) 烟け弱・しまり弱 黄・淡土25%
- 3 10YR 3/1 基礎色シルトと10YR 5/4に少い灰褐色砂質シルトの混土 (5:5) 烟け弱・しまり弱
- 4 10YR 3/1 基礎色シルトと10YR 5/4に少い灰褐色砂質シルトの混土 (3:7) 烟け弱・しまり中

0 1:50 2m

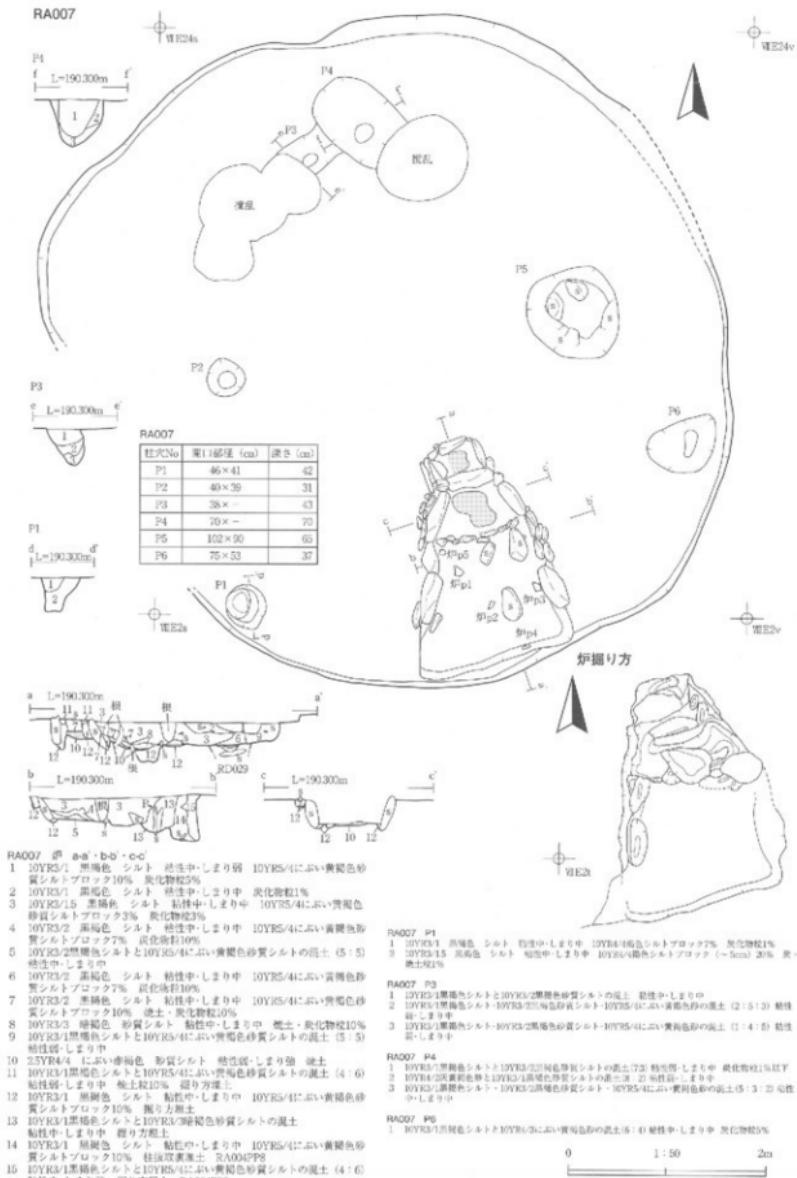
第10図 RA004竪穴住居 (1)



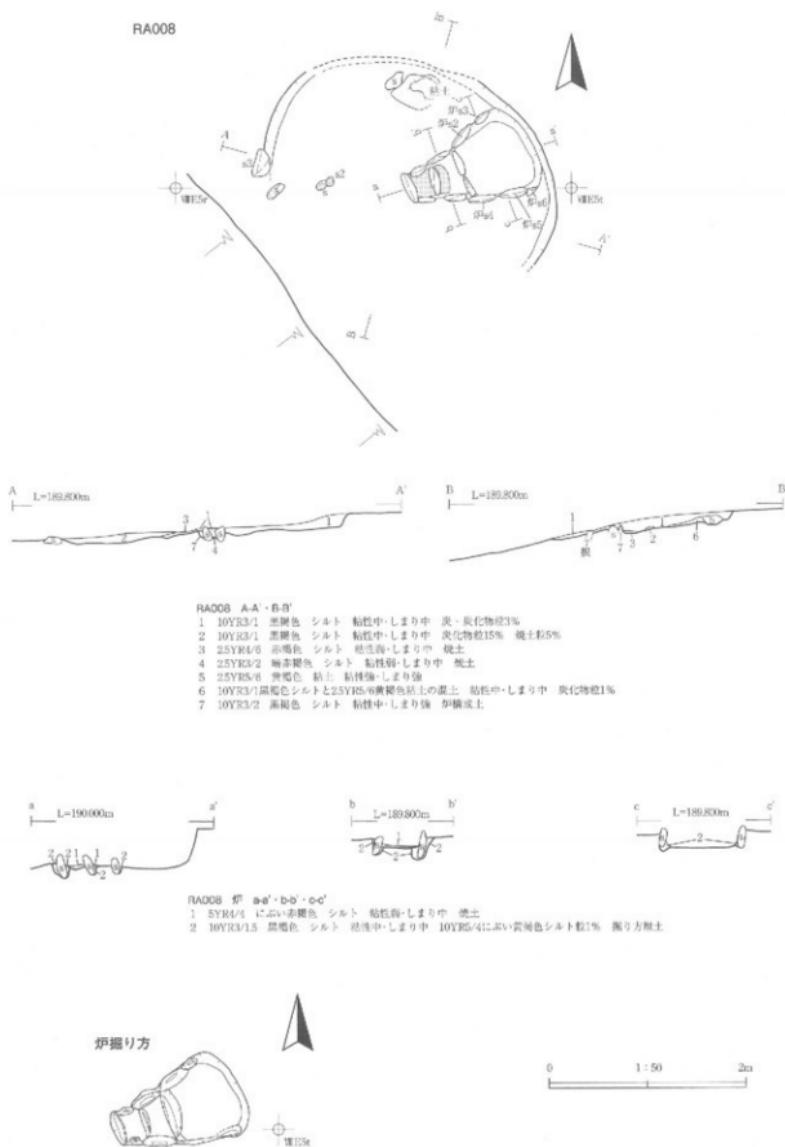
第11図 BA004竪穴住居（2）



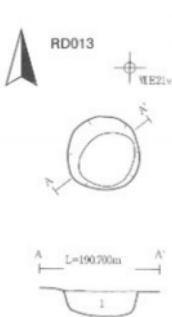
第12図 BA005・006堅穴住居



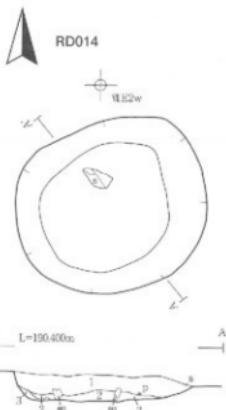
第13図 RA007堅穴住居



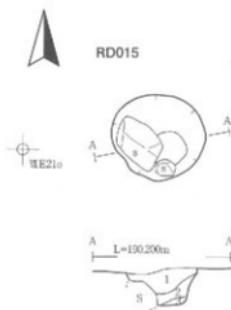
第14図 RA008竪穴住居



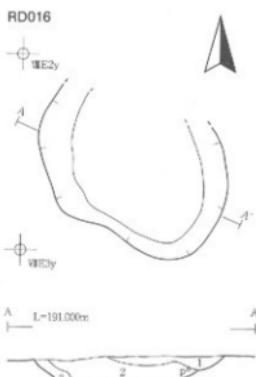
RD013
1 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中・しまり強
10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトブロック10% 塗土・炭化物粒5%



RD014
1 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中
10YR4/4褐色砂質シルト (V層底部) ブロック (~1cm) 5%
2 10YR3/4 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中
10YR5/4にぶい黄褐色砂 (V層底部) ブロック (~3cm) 10%
3 10YR5/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混土 (5:5)
粘性弱・しまり中



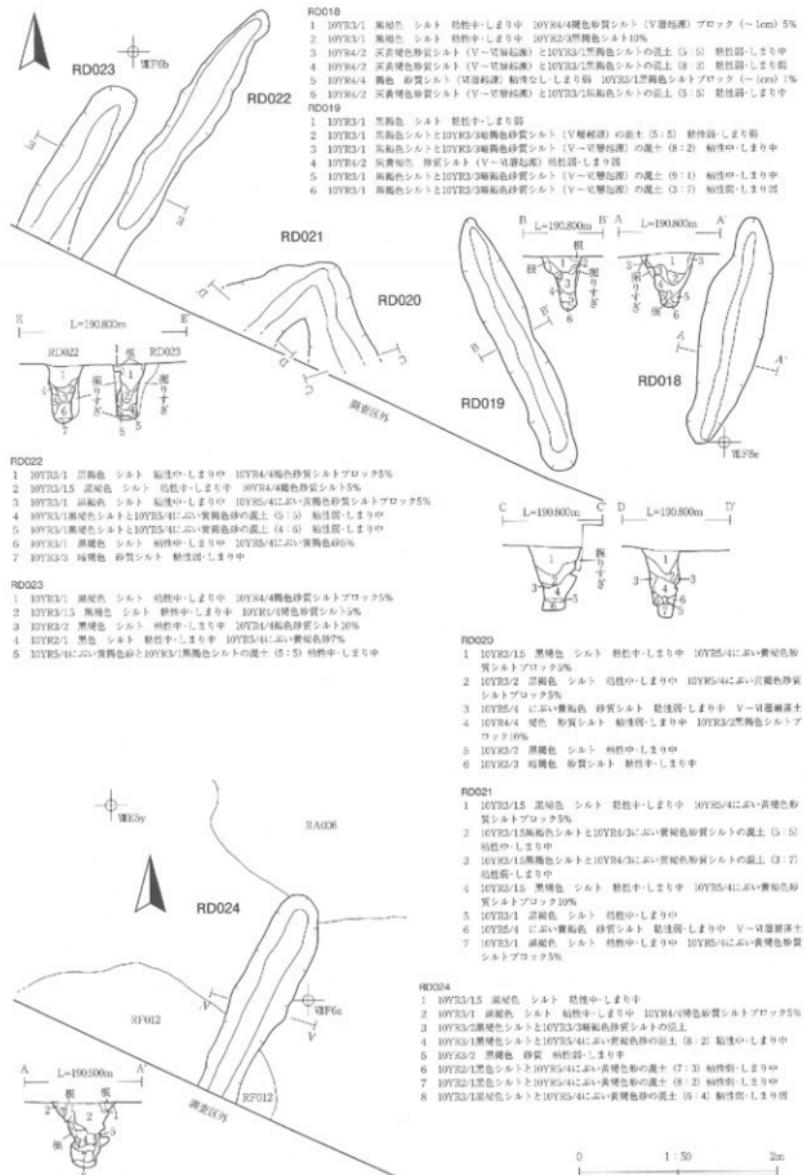
RD015
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中
10YR4/4褐色砂質シルトブロック7%混入
2 10YR3/3 細褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱
黒褐色砂質シルトブロック3%混入
3 10YR4/4 黄色 砂質シルト 粘性弱・しまり中



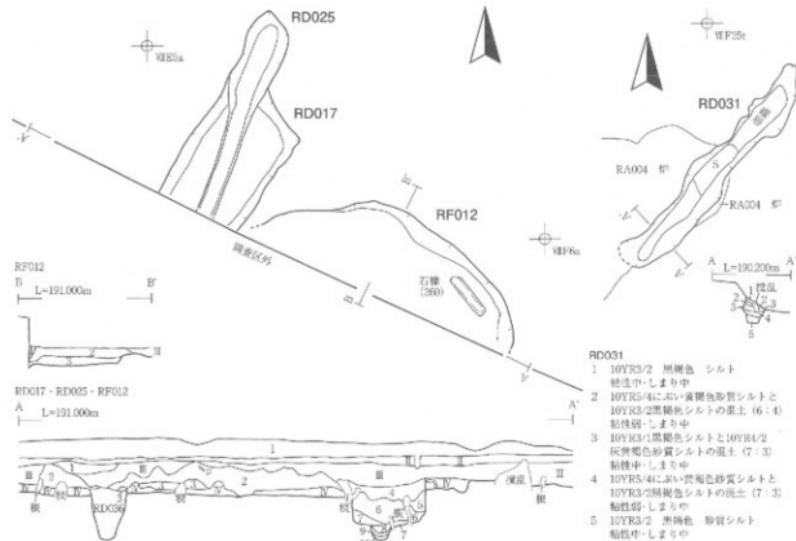
RD016
1 7.5YR2/1 黑色 シルト 粘性中・しまり中
10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトブロック5%
2 5YR3/2 褐褐色 シルト 粘性中・しまり中
10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトブロック5% 塗土・炭化物粒20%
3 10YR3/1黒褐色シルト・10YR3/2黑褐色シルト・10YR5/4にぶい黄褐色砂質
シルトの混土 (3:4:3) 粘性弱・しまり中 炭化物粒1%

0 1:50 2m

第15図 RD013～016土坑

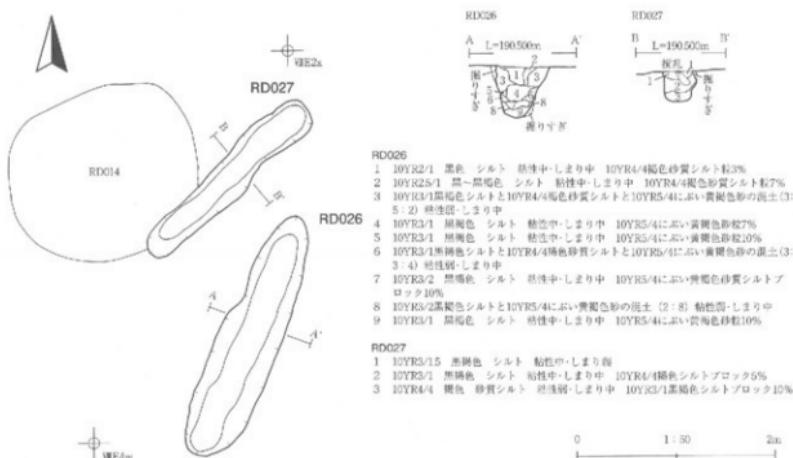


第16図 RD018～024陷し穴状遺構

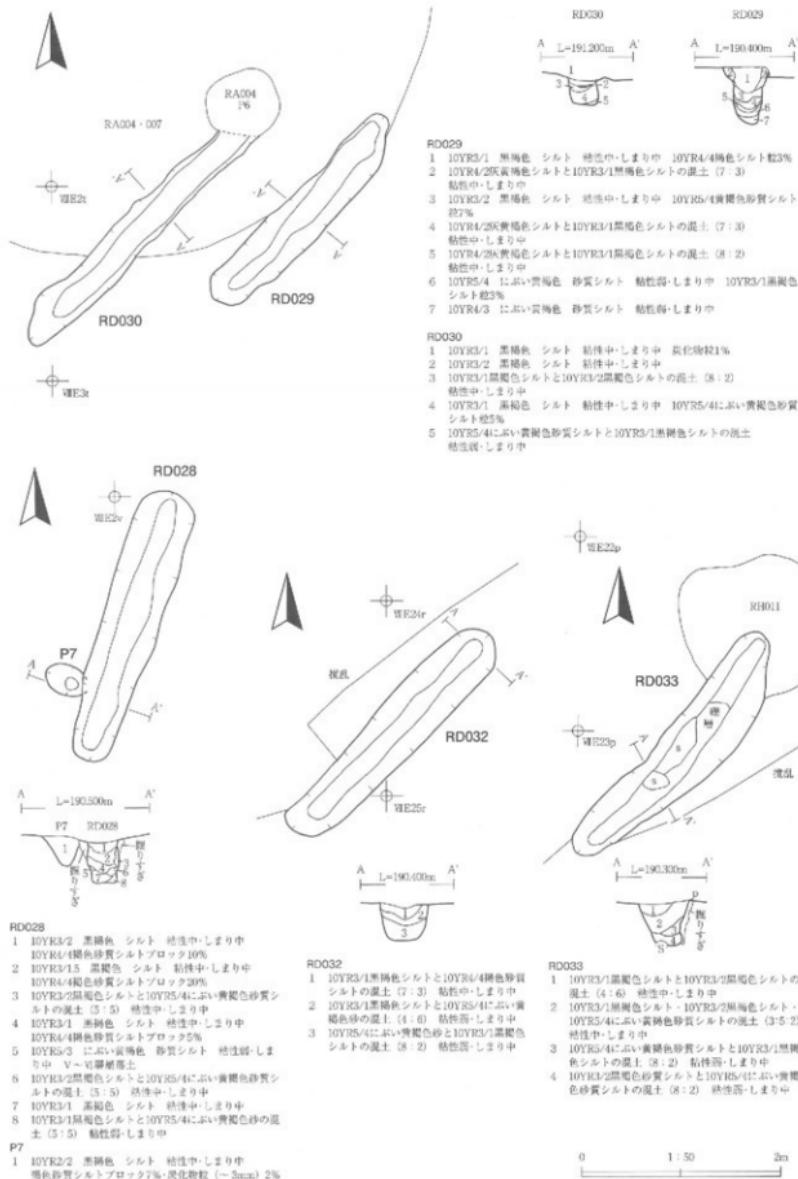


RDD17 · RDD25 · RE012

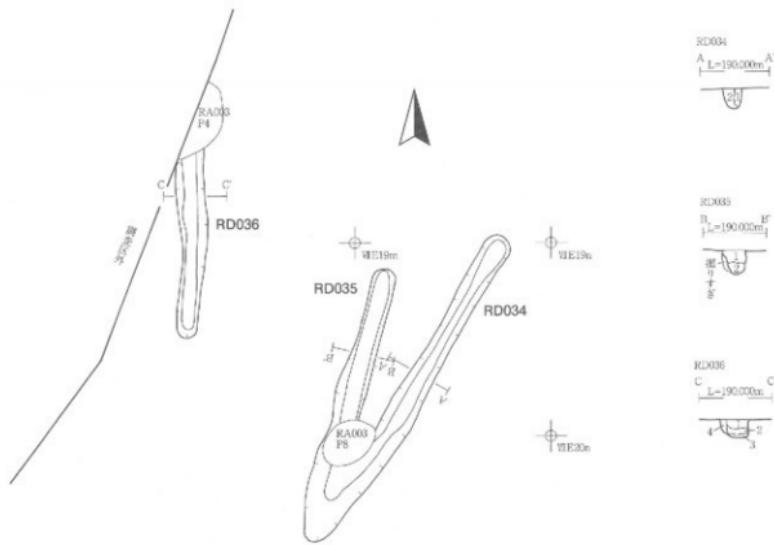
- 1) 30YR2/1 黒褐色色トントウと10YR4/2 棕褐色色質砂質土の混じる土 (3-4) 植生なし・まきり中
 - 2) 30YR2/1 黑褐色色 シルト粘性土・まきり中 (10YR5/3-5) 黄褐色色質シルトブロッカ5% 植生+ブロッカ 粘化物質10% 鹿廻土 (※RF012)
 - 3) 30YR2/1 黒褐色色トントウと5YR4/6の褐色色土 (土壌) (3-4-3) 植生なし・まきり中 鹿廻土 (※RF012)
 - 4) 30YR2/1 黑褐色色 シルト粘性土・まきり中 (10YR4/3-5) 黄褐色色質シルトブロッカ5% (※RD017)
 - 5) 30YR2/3-1 黒褐色色 シルト 粘性土・まきり中 (※RD017)
 - 6) 30YR2/1 黑褐色色 シルト 粘性土・まきり中 (10YR4/4) 黄褐色色質シルトブロッカ5% (※RD017)
 - 7) 30YR2/3 黑褐色色トントウと10YR4/2 棕褐色色質シルトの混じる土 (3-4) 植生なし・まきり中 (※RD017)
 - 8) 30YR2/3 黑褐色色 シルト 粘性土・まきり中 (※RD025)
 - 9) 30YR2/3 黑褐色色 贅沢砂質土・粘性土・まきり中 (※RD005)
 - 10) 30YR2/3-5 黑褐色色 シルト 粘性土・まきり中 (※RD005)



第17図 BD017土坑、BD025～027・031陥入穴状遺構、BE012砂土遺構



第18図 RD028～030・032・033 陥落穴状構造、柱穴状土坑 (P7)

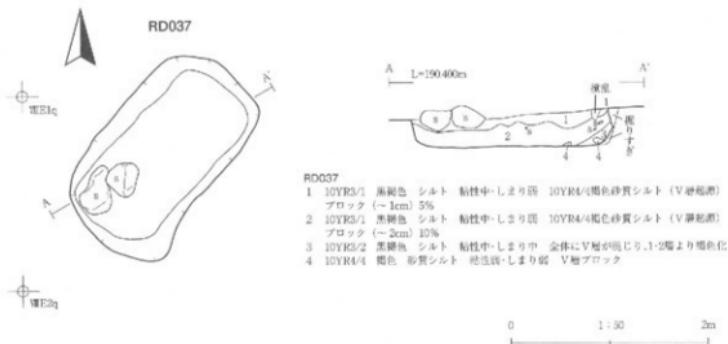


RD036

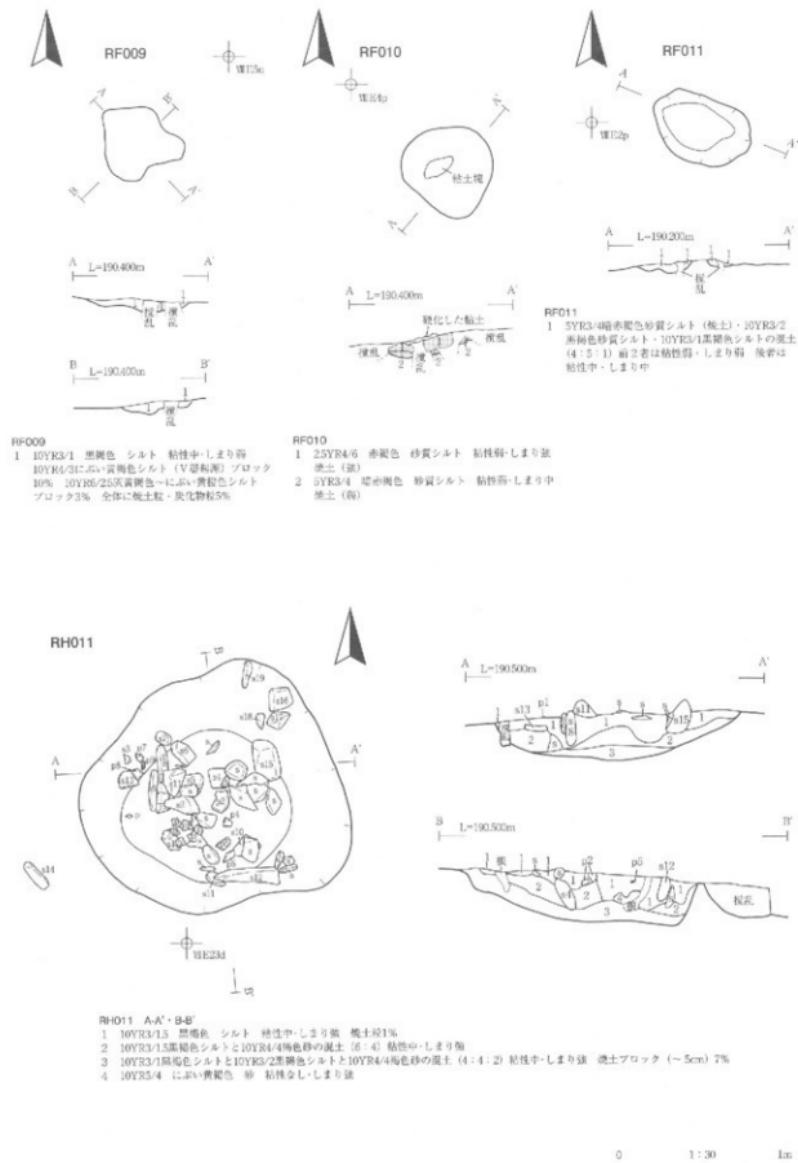
- 1 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/4に近い黄褐色シルトの混土 (6:4)
粘性中・しまり中
- 2 10YR5/4に近い黄褐色 シルト 粘性中・しまり中
10YR3/1黒褐色シルト5%
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト 粘性中・しまり弱
10YR3/2黒褐色シルト5%
- 4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/4に近い黄褐色シルトの混土 (8:2)
粘性中・しまり中 粒 ($\phi 5mm$) 5%

RD034

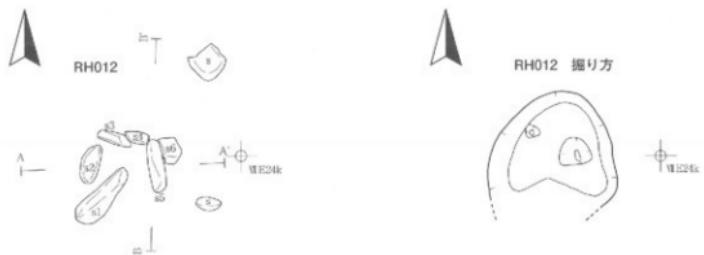
- 1 10YR3/1黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR5/4に近い黄褐色砂質シルトの混土 (5:4:1) 粘性弱・しまり中
 - 2 10YR3/1黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR5/4に近い黄褐色砂質シルトの混土 (2:2:6) 粘性弱・しまり中
- RD035
- 1 10YR5/4に近い黄褐色砂質シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混土 (3:2)
粘性弱・しまり強
 - 2 10YR4/2 黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 粒 ($\phi 1cm$) 10%



第19図 RD034～036陥し穴状造構、RD037土坑



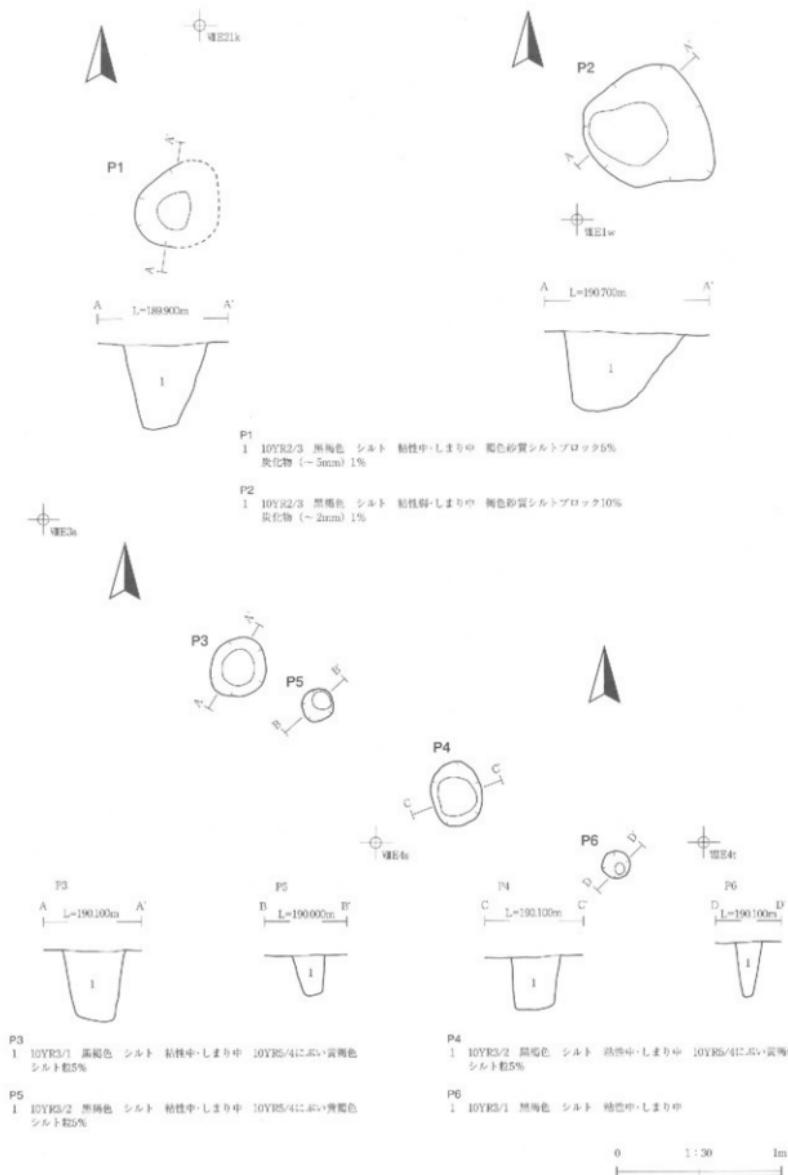
第20図 RF009～011焼土造構、RH011配石造構



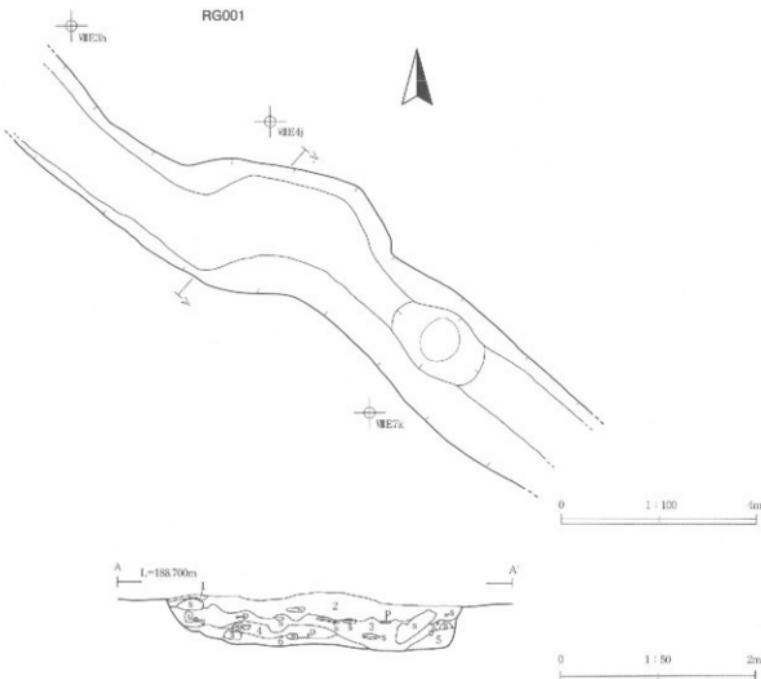
- RH012 A-A'・B-B'**
- 1 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中 (赤土質混入)
 - 2 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中 錫色砂質シルトブロック3%
 - 3 10YR4/4 棕褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黑褐色砂質シルトブロック7%
 - 4 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中 錫色砂質シルトブロック5%
 - 5 10YR3/4 黑褐色 シルト 粘性中・しまり中 SVR3.6mm混色粘土20%
 - 6 10YR2/3 黑褐色 シルト 粘性弱・しまり中



第21図 RH012配石遺構、RH013集石遺構、RP002埋設土器遺構



第22図 柱穴状土坑 (P1 ~ P6)



- RG001
- | | | | | | |
|---|---------|-----|---|-----------|--|
| 1 | 10YR3/3 | 緑褐色 | 砂 | 粘性なし・しまり弱 | |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 砂 | 粘性なし・しまり弱 | 縞 ($\sim 25\text{cm}$) 2% (※土巣含む) |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 砂 | 粘性なし・しまり弱 | 縞 ($\sim 50\text{cm}$) 30% (※土巣全む) |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 砂 | 粘性なし・しまり中 | 10YR4/4褐色質シルトブロック15% 縞 ($\sim 10\text{cm}$) 5% (※土巣含む) |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂 | 粘性なし・しまり中 | 縞 ($\sim 3\text{cm}$) 5% |
| 6 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 砂 | 粘性なし・しまり中 | 縞 ($\sim 25\text{cm}$) 20% |

第23図 RG001溝

V 出土遺物

1 概要

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器大コンテナ（42×32×30cm）換算約7箱（約118kg）、土製品6点（181.6g）、石器中コンテナ（42×32×30cm）換算約15箱（約294kg）、石製品9点（約26kg）、須恵器1点（15.3g）、陶器1点（3.0g）、錢貨1点（1.9g）、植物遺存体である。以下、遺物の種別ごとに概要・出土状況・代表的な遺物などについて記述する。

2 縄文土器（第24～34図、第4表、写真図版22～31）

（1）概要

出土した縄文土器の総重量117,957.2gのうち、遺構内出土は54,829.4g（46.5%）、遺構外出土は63,127.8g（53.5%）であり、遺構内・遺構外出土土器の割合はほぼ半数である。遺構内出土土器について、種別ごとに重量分布をみてみると、竪穴住居48,796.3g（89.0%）、土坑1,206.1g（2.2%）、焼土遺構277.8g（0.5%）、配石・集石遺構1,759.9g（3.2%）、埋設土器遺構1,091.1g（2.0%）、柱穴状土坑31.9g（0.1%）、溝1,666.3g（3.0%）となっており、竪穴住居からの出土が9割近い。このうち、RA004竪穴住居からの出土量が多く、竪穴住居出土土器の約6割を占める。

全体の器形を窺える資料は非常に少なく、残存状態は良好ではない。竪穴住居などの遺構内出土土器はある程度復元できたが、小破片が大半を占め、完形、略完形のものはごくわずかである。

時期別にみてみると、中期後葉～末葉のものが主体を占めるが、早期中葉、前期前葉、前期後葉～末葉、後期初頭、晚期前葉～中葉のものも少量出土している。

個々の土器の特徴については、縄文土器観察表（第4表）に記載しているので、そちらを参照いただきたい。

（2）観察項目

以下の項目で、縄文土器の観察を行い、観察表へ記載した。

- a) 器種
- b) 残存部位
- c) 口縁形態
- d) 文様（各部位の縄文原体、施文方法、底部痕跡など）
- e) 内面調整
- f) 時期

今回の調査で出土した土器は、早期・前期・中期・後期・晩期に属するものがあり、以下のように時期ごとに大別して群を設定し、大局的な時期を示すことにした。出土土器の中で主体を占める中期に属するものについては、さらに細分を行った。なお、Ⅲ・Ⅳ群とした中・後期の縄文土器の特徴については、VII章で若干述べることとしたい。

I群 縄文時代早期に属するもの

II群 縄文時代前期に属するもの

III群 縄文時代中期に属するもの

1類 中期後葉に属するもの

2類 中期末葉に属するもの

3類 器面に地文のみが施文されるもの、もしくは無文のもの

IV群 縄文時代後期に属するもの

V群 縄文時代晚期に属するもの

VI群 ミニチュア土器

g) 備考 その他特筆すべきこと

(3) 遺構内出土土器

豎穴住居出土の土器

R A001：1・2は床面から出土した。1は頭部がくびれる壺に近い器形の深鉢である。胴部には隆沈線（隆線の断面形は山形状を呈する）による小渦巻文・楕円区画文が描かれる。地文には複節縄文（R L R）が綫方向に施文される。また、胴部には横位の把手が付く。2は口縁がやや外反する深鉢で、器面には複節縄文（R L R）が綫方向に施文される。3は1層から出土した台付鉢である。波状口縁を呈し、波頂部には孔が施される。また、口縁には円形の刺突が施される。地文には単節縄文（L R）が綫方向に施文される。隆沈線（隆線の断面形は山形状を呈する）による逆U字状文が描かれた後、一部の地文は磨り消されている。

R A002：4・5は床直出土の深鉢の胴部片である。6は炉の前庭部埋土から出土した、波状口縁を呈する深鉢である。胴部には沈線による逆U字状文が描かれ、文様区画内には複節縄文（R L R）が綫方向に充填施文される。

R A003：11・12は埋土下位の7層から出土した深鉢である。12は平縁を呈する深鉢の口縁部片で、複節縄文（R L R）が綫方向に施文される。16は口縁がわずかにすぼむ器形の深鉢である。器面には単節縄文（L R）が施文され、口縁部には磨消により無文帯がつくられている。18は口縁が緩やかに外反し、胴部が膨らむ深鉢である。器面には口縁まで単節縄文（L R）が施文され、16や17のような無文帯はつくられていない。21は台付土器の台部片である。複節縄文（R L R）が綫方向に施文された後、沈線による逆U字状文・区画文が描かれる。文様区画内には孔が穿たれている。24は壺形のミニチュアで、器面には単節縄文（L R）が綫方向に施文される。

R A004：27は炉の底面から出土した深鉢である。平縁を呈し、やや外反しながら開く器形である。器面には沈線による逆C字状の区画文が描かれ、文様区画内には単節縄文（R L）が充填施文される。38は平縁を呈する浅鉢である。地文には複節縄文（R L R）が綫方向に施文され、隆沈線による楕円形文・波状文が描かれる。色調は黄橙色で、他のものに比べて器厚が薄いことが特筆される。43は平縁を呈すると考えられる深鉢で、頸部に1条の沈線がめぐり、胴部には単節縄文（L R）が綫方向に施文される。44は底部下半を欠く深鉢である。平縁を呈し、胴部に膨らみを持ち、口縁はやや外反しながら開く器形である。器面には単節縄文（L R）が綫方向に施文される。62・68は埋土から出土した深鉢の口縁部片である。胴部には網目状捺糸文（単輪絡条体第5類）が施される。

R A004豎穴住居の1層上位からはIV群に相当する土器（37・60・63・64・65・66）も出土している。37は波状口縁を呈する深鉢の口縁～胴部片である。口縁部には沈線による渦巻状の文様が加飾された山形状の突起が付く。波状口縁の頂下からは、器面を押し出すようにして作られた連鎖状隆線が垂下する。胴部の地文には沈線による網目状の文様が施文され、沈線による幾何学的なモチーフが描かれ

る。60は平縁を呈する深鉢の口縁部片である。地文には単節繩文（L R）が施文された後、口縁部は磨消が行われ、沈線文が描かれる。63は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片である。口縁部には連鎖状隆帯がめぐる。胴部は地文に単節繩文（L R）が施文され、沈線による曲線的なモチーフが描かれる。64は波状口縁を呈する深鉢の胴部片である。地文には単節繩文（R L）が縦方向に施文され、沈線による渦巻・幾何学的なモチーフが描かれる。

底部痕跡は、網代（50）、笪（42・43・47・56）、網代+笪（49）、網代→ナデ調整（49）がみられる。

R A005：73は炉の底面から出土した略完形の深鉢である。口縁は平縁を呈する。頸部には2条の沈線文がめぐり、その間に刺突が施される。胴部の地文には単節繩文（L R）が施文される。74・75は床面から出土した。74は器面に単節繩文（R L）が縦方向に施文される。75は器面に櫛目文が施される深鉢の胴部片である。

R A006：77・78は床面から出土した。77は波状口縁を呈する深鉢で、胴部上半を一部欠く。地文に単節繩文（L R）が施文され、沈線による逆U字状の区画文が描かれた後、文様区画外の地文は磨り消されている。78は胴部が膨らむ深鉢の胴部片で、単節繩文（L R）が縦方向に施文される。79は小型深鉢で胴部上半を欠く。沈線によるC字状・波状の区画文が描かれ、文様区画内には単節繩文（L R）が充填施文される。

R A007：81は炉の底面出土の深鉢の胴部片である。82は炉の埋土最上位出土の深鉢の胴部片で、沈線による区画文が描かれ、文様区画内には単節繩文（R L）が残される。

R A008：83・84は炉直上より出土した深鉢の胴部片である。85・86は1層より出土した。85は平縁を呈する深鉢の胴部片で、頸部には刺突が施され、胴部には単節繩文（R L）が施文される。86は口縁が外反する器形の深鉢で、沈線による区画文が描かれた後、文様区画内に単節繩文（R L）が施文される。

土坑・陥し穴状造構出土の土器

検出した24基のうち、土器が出土したのは7基である。破片が多く、出土量も少ない。

88は深鉢の胴部片で、網目状撚糸文（單軸絡条体第5類）が施文される。90はR D037土坑から出土した深鉢の胴下半～底部である。底部には網代の圧痕をナデにより調整した痕がみられる。

焼土造構出土の土器

焼土造構から出土した土器も破片が多く、出土量も少ない。

91はR F011焼土造構の1層から出土した深鉢の胴部片で、単節繩文（L R）が縦方向に施文される。92・93はR F012焼土造構から出土した深鉢の口縁部片と底部片である。

配石造構出土の土器

R H011：下部土坑の埋土からは中期後半のものと考えられる土器が出土している。すべて破片である。97は深鉢の底部片で、笪の圧痕がみられる。

R H012：98はR H012配石造構周辺のⅢ～Ⅳ層から出土した深鉢で、胴部下半から底部を欠く。3単位の波状口縁を呈し、キャリバー形の胴部が屈曲する器形である。胴部には沈線による逆U字状文が描かれ、文様区画内には単節繩文（L R）が充填施文される。

埋設土器遺構出土の土器

99は斜位の状態で埋設された深鉢で、口縁～胴部上半を欠く。沈線による逆U字状文や指円形文が描かれ、文様区画内には単節縄文（R L）が縱方向に充填施文される。底部には笹の圧痕がみられる。

柱穴状土坑出土の土器

柱穴状土坑から出土した土器は、P 1 の 1 層出土の 1 点（100）のみである。100は深鉢の胴部片で、単節縄文（R L）が横方向に施文される。縄文原体は太さの異なる 1 段の縄（L）を撫り合わせたものを使用したと考えられる。

（4）遺構出土土器

調査区上段部分のⅢ～Ⅳ層、下段部分のⅡ層相当からは、主に中期後葉～末葉、後期初頭のものと考えられる土器が出土している（105～120）。この他に、早期中葉、前期、晚期の土器が少量出土している。

103は調査区の東部にあたるⅦF グリッド 1 層から出土した深鉢の胴部片である。器面には縦方向にミガキが施され、沈線文と、これに沿うように貝殻腹縁文が施されており、早期中葉のものと考えられる。

104はⅦE グリッドのⅢ層から出土した深鉢の口縁～胴部片である。口縁が外反する器形であると考えられ、山形状口縁を呈する。口唇には平坦面をもち、刺突と沈線が施されている。口端には斜位方向の刻みが施される。胴部には「縄に付けられた結節」（山内1979）が横方向に施文されており、前期前葉のものと考えられる。

122は調査区下段のⅦE グリッドから出土した鉢？の口縁部片である。末端の噛み合わない羊歯状文が施され、晚期前葉のものと考えられる。121・124は頸部にくびれを持つ器形を呈し、胴部上半に最大径が認められる深鉢の口縁～胴部片である。口縁端部に刻み、頸部には数条の横沈線が施される。124は胴部に単節縄文（L R）が横方向に施文される。晚期中葉のものと考えられる。

3 土 製 品（第35図、第6表、写真図版32）

（1）斧 状 土 製 品

1点出土し、これを掲載した。

126は、RA004竪穴住居の床直・埋土 1 層・RA007竪穴住居の炉の前庭部東壁際埋土から出土した破片が接合したものである。基部と先端部を欠くが、ほぼ完形に近い。平面形は斧状を呈する。基部～中央部までは長方形を呈し、先端部は欠損しているが、先端に向かって斧状に細くなるようである。頂部には凹みがあり、二股状に分かれ。断面形は扁平な楕円形を呈する。両面（表裏面）に単節縄文（L R）が縱方向に施文され、沈線による逆U字状文が描かれる。その沈線文の外側にあたる頂部の両面と中央部の両側面には刺突が施される。さらに、基部の側面には貫通孔が穿たれている。なお、この孔の断面には、擦痕（紐ずれのような使用痕）は認められなかった。

（2）土 器 片 円 板

4 点出土し、すべて掲載した。

あらかじめ円形を意図して作成された土製円板と異なり、土器片を転用して円形に作出されたもの

を土器片円板（八木2002・2006）とする分類に従い、この名称を用いた。作図方法もこれに従い、径の曲面を優先して提示した。なお、土器片円板をめぐる研究史上の問題点については、（八木2002・2006）に詳しくまとめられている。

周縁の痕跡には、打ち欠きが認められるもの（127・130）とスレ痕が認められるもの（128・129）がある。後者のうち、128は全周にスレ痕が認められるが、129は部分的である。127・128は竪穴住居の埋土、129・130は調査区下段のⅡ層相当（黒褐色砂層）から出土している。使用部位はすべて胴部片である。長さは2.4～3.9cm、幅3.5～3.9cm、厚さ0.8～1.1cm、重さ9.9～16.9gと、計測値は非常に近似した値となり、大きさにはまとまりがみられる。

（3）土 偶

1点出土し、これを掲載した。

131は、調査区下段のⅡ層相当（黒褐色砂層）から出土した土偶の脚？である。後期のものと考えられる。なお、第1次調査においても後期の土偶が8点出土している。

4 石 器（第36～46図、第5表、写真図版33～44）

（1）概 要

出土した石器の総重量は294.132.9gで、その内訳は、トゥール182点・265.013.9g、剥片および素材29.119.0gである。

ここでは、遺構共伴資料として確実に提示できるものや、特殊な出土状況を呈する資料を重点的に提示することとする。個々の遺物属性については、石器観察表（第6表）を参照いただきたい。

（2）遺構内出土石器

竪穴住居出土分

床面・床面直上出土遺物はRA003・004・008竪穴住居で確認された。

137はRA003竪穴住居床面出土の頁岩製石錐で、凹基無茎である。床面出土はこれのみであるが、本遺構ではデボと思われるビットおよび壁溝埋土から剥片がまとまって出土している。139～145はそのビットから出土したもので、剥片6点の接合資料（140～145）および石錐（139）である。前者の接合はいずれも剥離面接合であり、円錐面を打面とし同一方向から連続して剥離作業がなされている。後者は凹基無茎である。デボの位置は住居南隣である。壁溝埋土からは、凹基無茎の石錐、両側縁に刃部を持つ削器、二次加工ある剥片、剥片が出土している。剥離面接合した接合資料（156+157）も存在する。剥片石器の出土率は、住居中央部より壁溝が明らかに高い。この現象は、当時の何らかの行為の結果を反映したものと考えられる。

167～173の7点はRA001竪穴住居出土分である。167は床面出土の赤色頁岩製石錐で、凹基無茎である。168・169は床面の石器集中に含まれていた頁岩製の剥片で、いずれも石核の作業面剥片である。この2点の存在は、本遺構内に石核を持ち込んでの剥片剥離作業が行われていたことを示唆するものである。170は床面直上出土の削器で、端部が嘴状を呈する。錐とするには刃部形成が弱いが、その可能性も考慮しておく必要がある。171はビット床面出土の削器で、円錐面が残存する。170・171いずれも頁岩製の縦長剥片が素材である。

201・206はRA008竪穴住居出土分である。いずれも台石で、出土層位・石材は、201が床面・アブ

ライト、206は床面直上出土・玢岩である。

このほか、台石が炉石に転用された例が多くみられる。すなわち、RA001の132・133、RA001の172、RA005の190、RA006の192～195、RA007の196・197、RA008の202～205である。いずれの炉も大形の扁平礫を縦位に設置しており、台石がその形状に適っているようである。石材は、アブライトと花崗閃綠岩が多く、そのほか玢岩、チャート、閃綠岩、蛇紋岩が用いられている。

焼土遺構出土分

212はRF012焼土遺構の底面から出土した両面蝶器である。扁平な円形礫が素材である。

配石・集石遺構出土分

213～219はRH011配石遺構で、224～226はRH012配石遺構でそれぞれ構成材として用いられたいた礫である。213は磨石？を、これ以外は台石を転用したものである。台石の石材は、前述の炉石転用品と同じくアブライトと花崗閃綠岩が多く、そのほかには蛇紋岩、閃綠岩、安山岩が用いられている。

(3) 遺構外出上石器

平基有茎・平基無茎の石錐（229・230）、混粒形の尖頭器（231）、片面調整の石錐（232・233）、横型三角形の石匙未製品（234・235）、頁岩製のビエス・エスキュー（242）、めのう製の石核（243）、構状の砥痕のある砥石（251）、1面が磨れて広く凹むスコリア製の台石（252）などが出土している。

5 石 製 品（第46～47図、第7表、写真図版44～45）

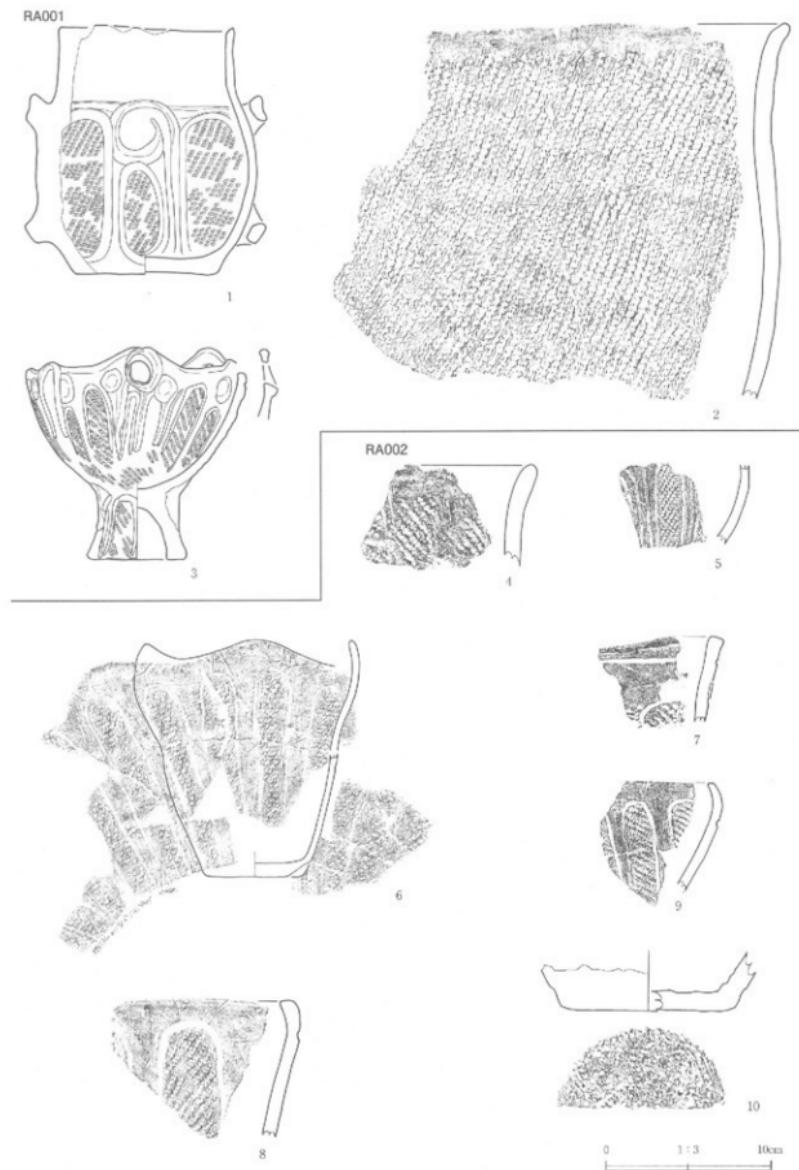
9点すべて遺構内からの出土である。器種は、石棒および石棒の可能性のある棒状礫、石鉢、穿孔礫である。石棒類は大きさで2種に大別される。1種は、RA004堅穴住居炉前部埋土から出土したもので、直径3cm前後である（258）。もう1種は、RA003・004・006堅穴住居、RF012焼土遺構、RH011配石遺構から出土したもので、直径10cm前後と大形である（253・254・256・258～261）。これらのうち、254はRA003堅穴住居の床面ピットに立位状態で埋設しており、259はRA006堅穴住居の炉石團部1の頂部に配置されていた。これらの設置理由には言及しかねるが、意図的な設置であることには間違いない。

255は口縁部に2条の溝が横走する石鉢で、口縁端部が外反する。257はTo-HもしくはTo-Ofと考えられる軽石製の穿孔礫である。

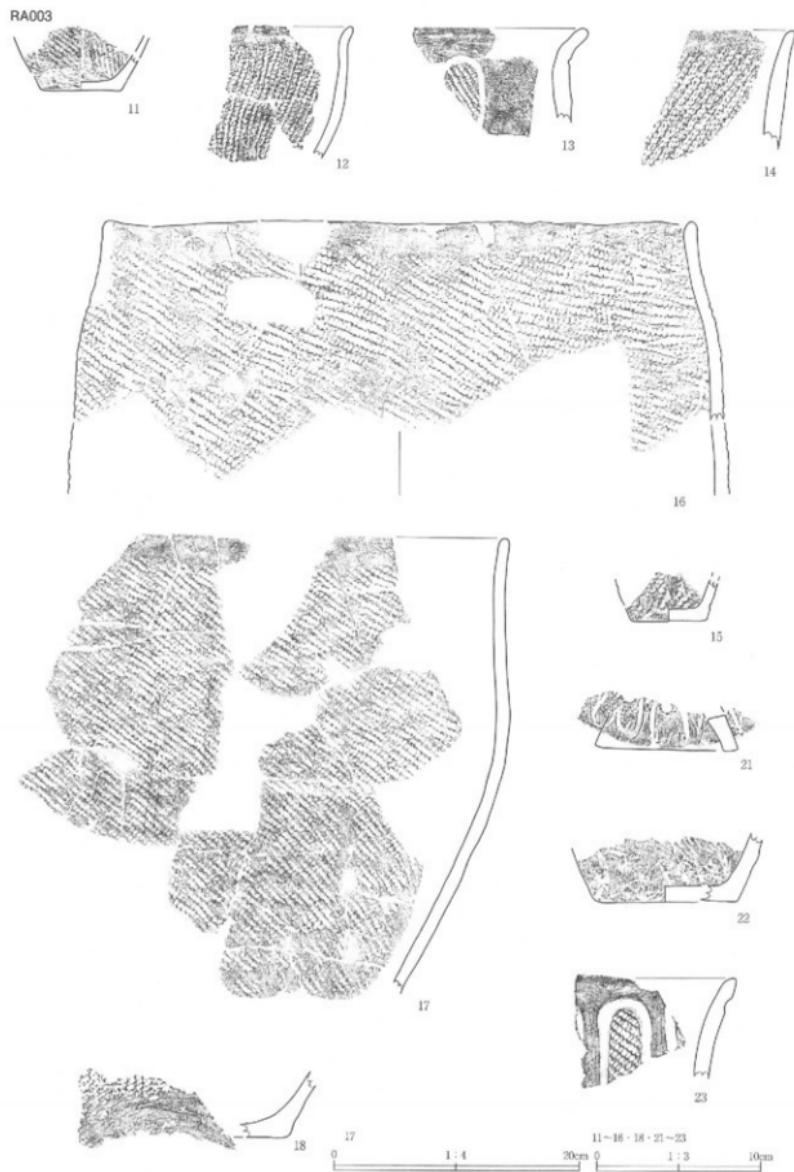
6 須恵器・陶器・錢貨・植物遺存体（第47図、第8～10表、写真図版46）

いずれも1点ずつの出土である。262は須恵器壺類の口縁部片である。263は美濃產と推定される灰釉折縁皿の口縁部片で、江戸時代頃のものと推定される。264はRG001溝埋土最下層出土の至道元寶である。至道元寶は初鎊年995年の北宋銭である。本遺物は文字が彫れていますこと、厚さが1mmと薄いことから、模鎊銭の可能性が高い。

炭化種子（265）はRA001堅穴住居の炉付近埋土2層から出土したもので、マメ類と考えられる。

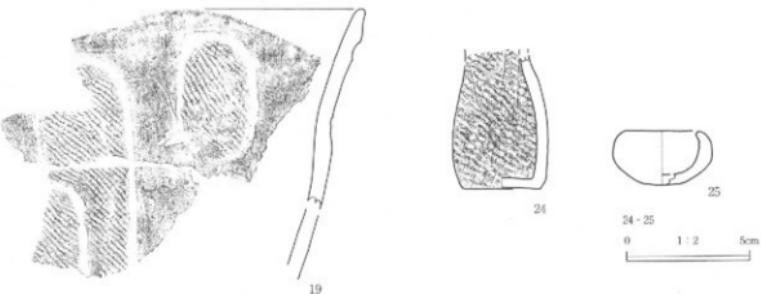


第24図 遺構内出土土器 (1)

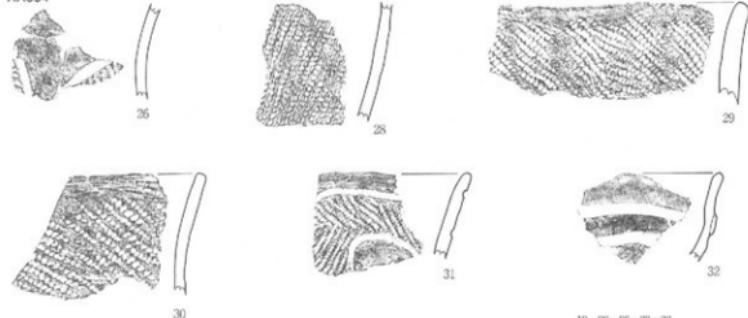


第25図 遺構内出土土器 (2)

RA003



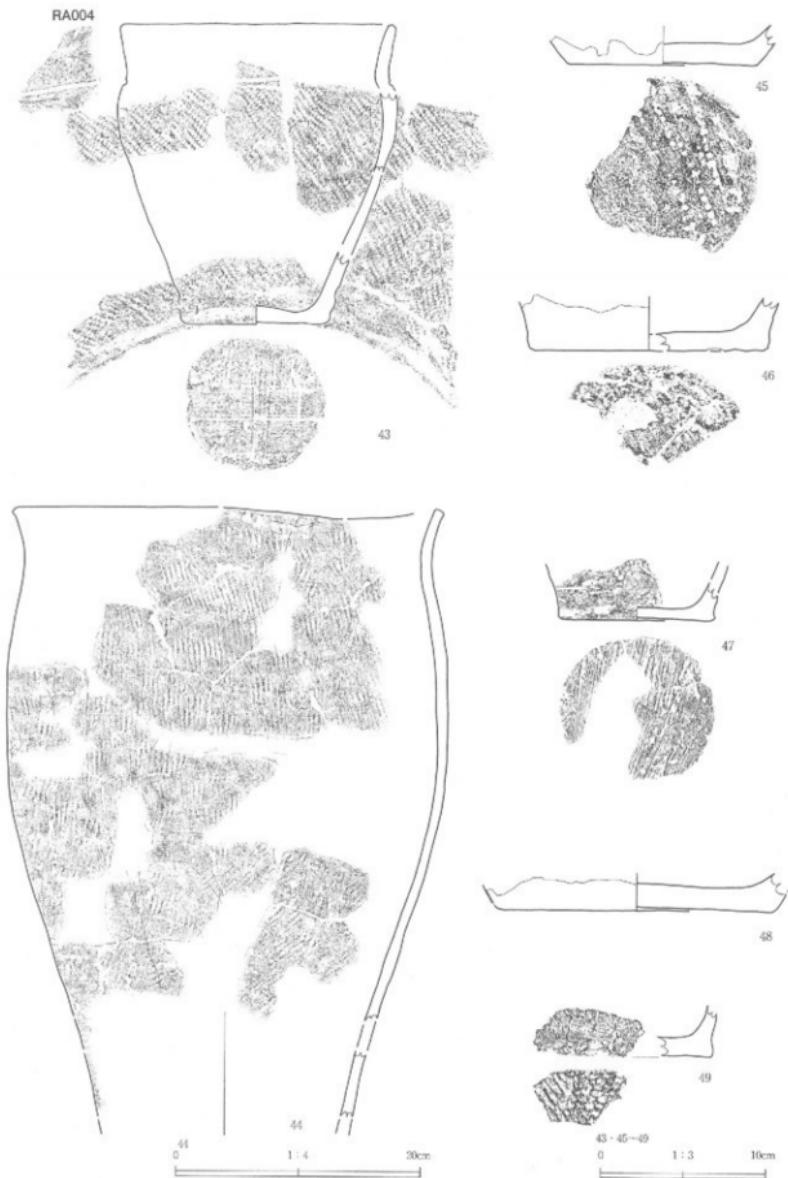
RA004



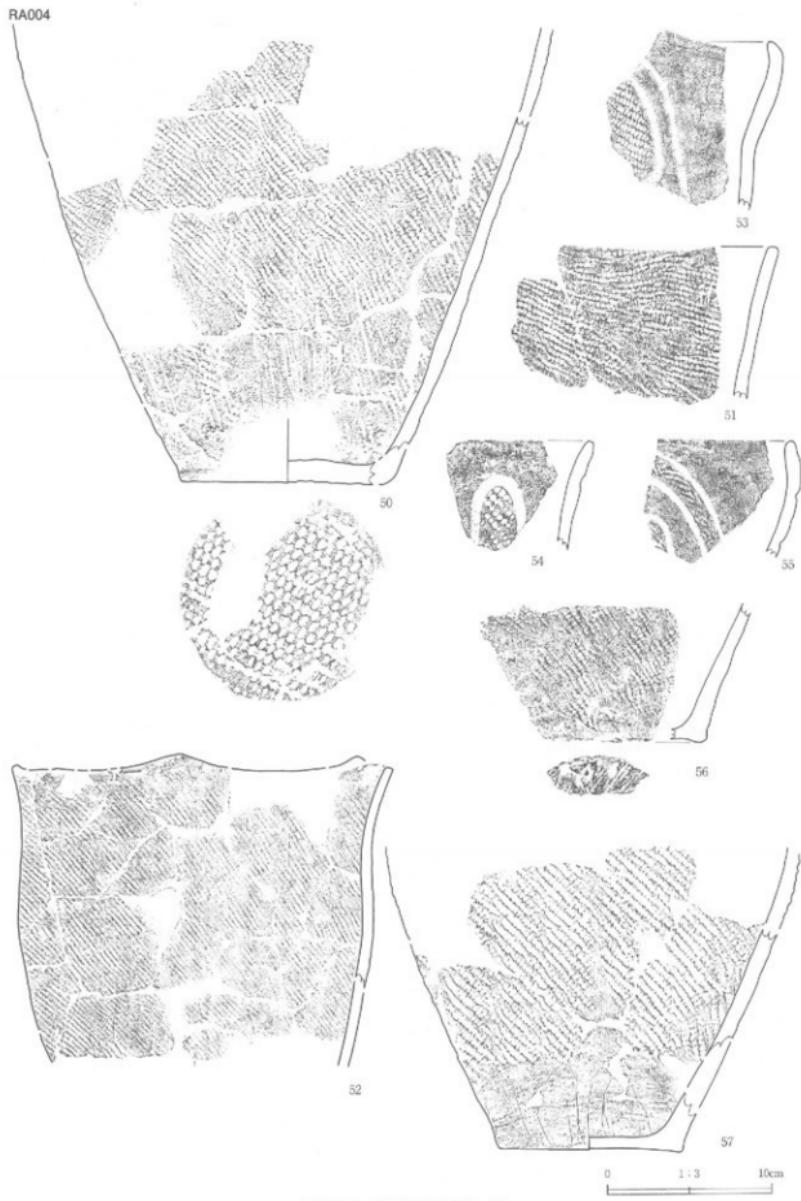
第26図 遺構内出土土器 (3)



第27図 遺構内出土土器 (4)

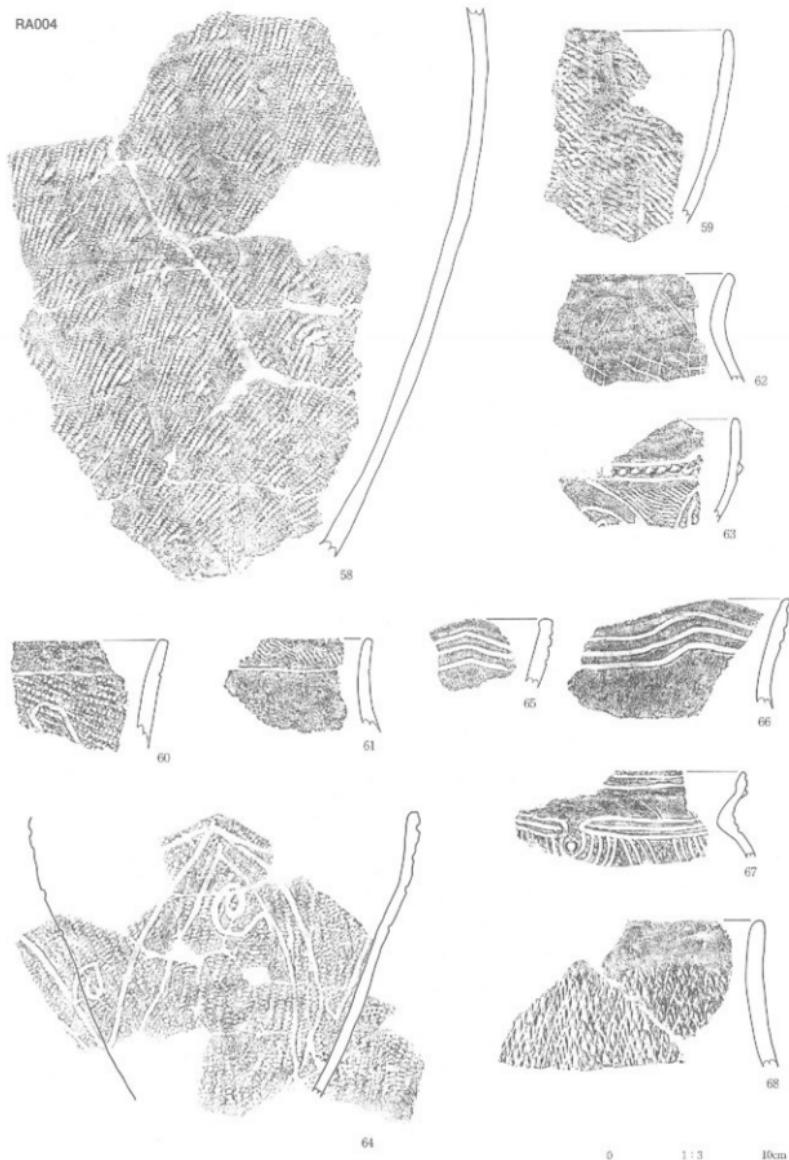


第28図 遺構内出土土器 (5)



第29図 遺構内出土土器 (6)

RA004



第30図 遺構内出土土器 (7)

RA004



69



70



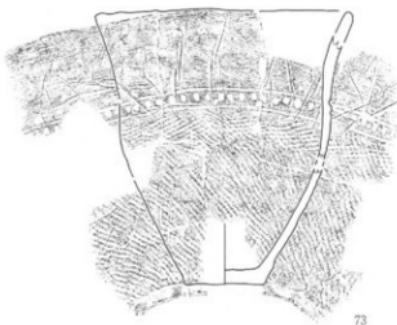
72



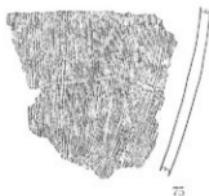
71

69~72
0 1:2 5cm

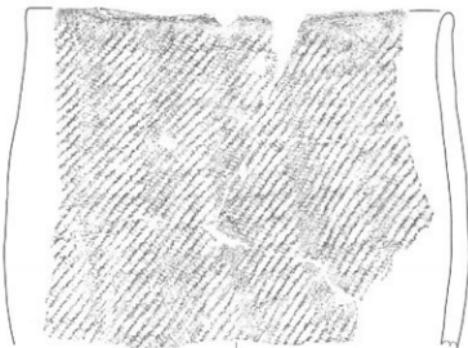
RA005



73



75



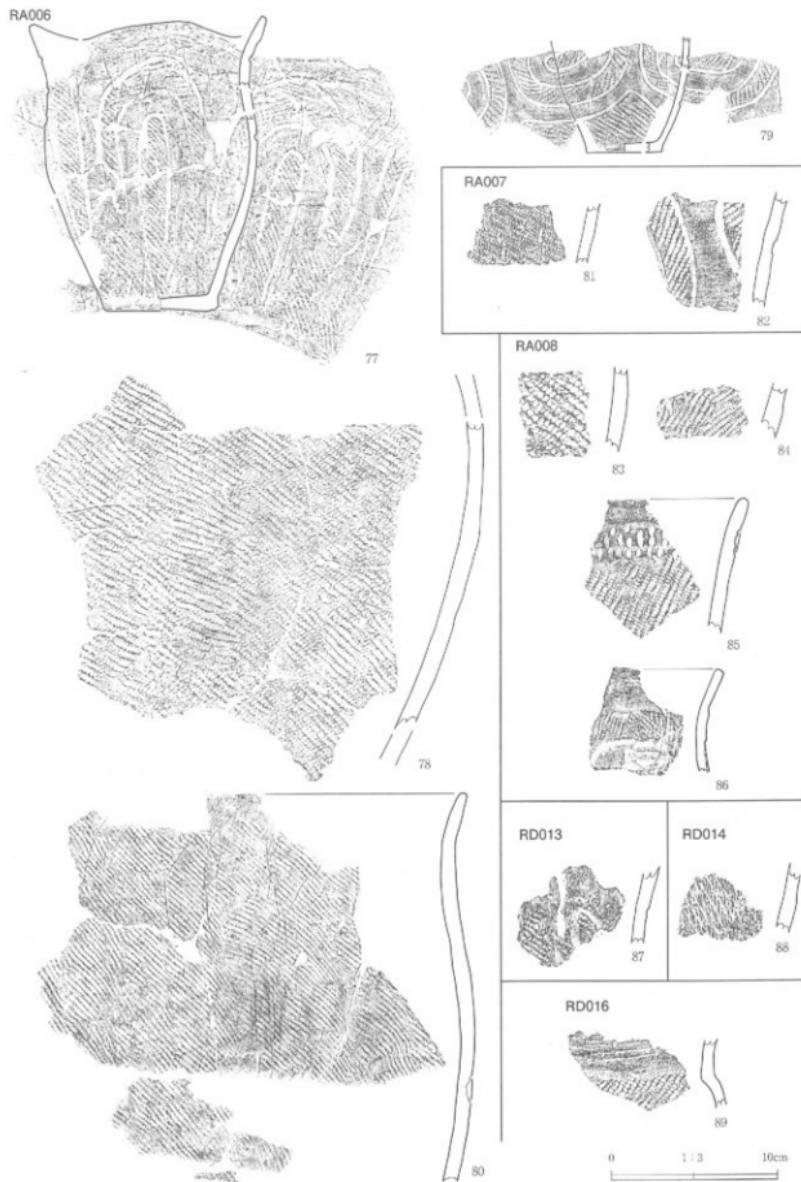
74



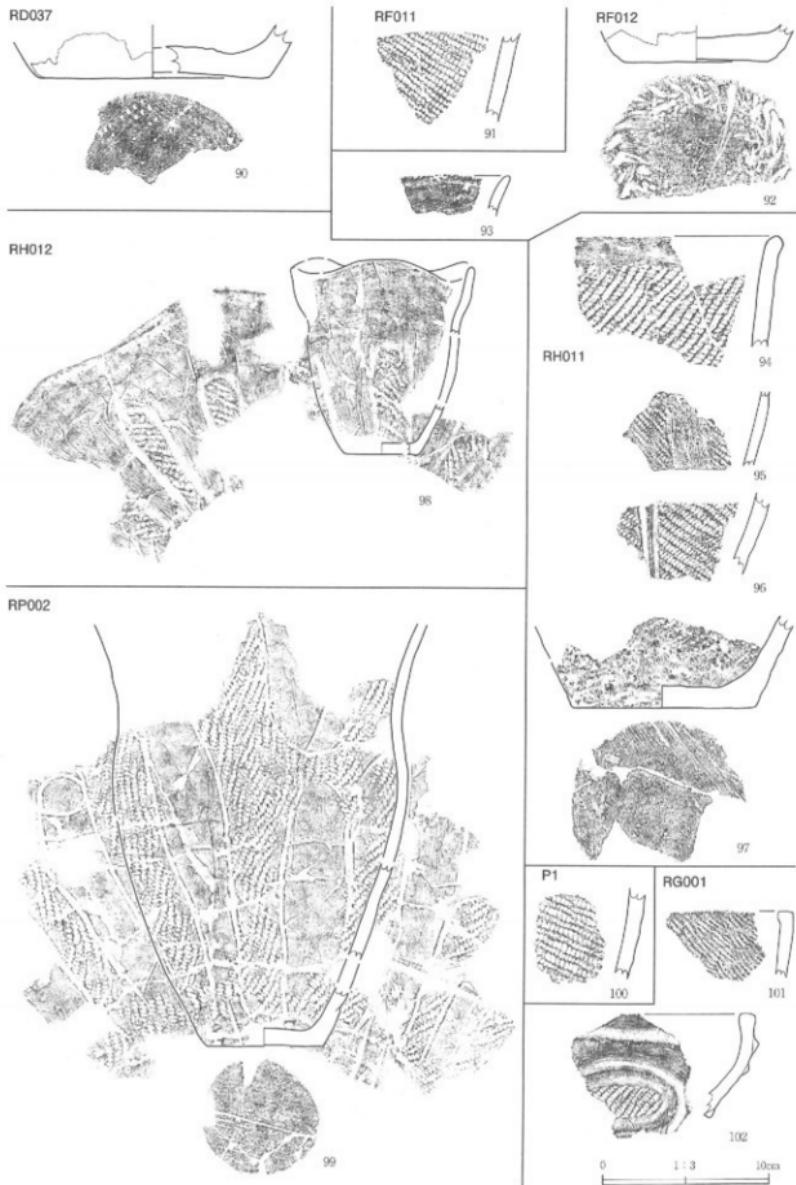
76

73~76
0 1:3 10cm

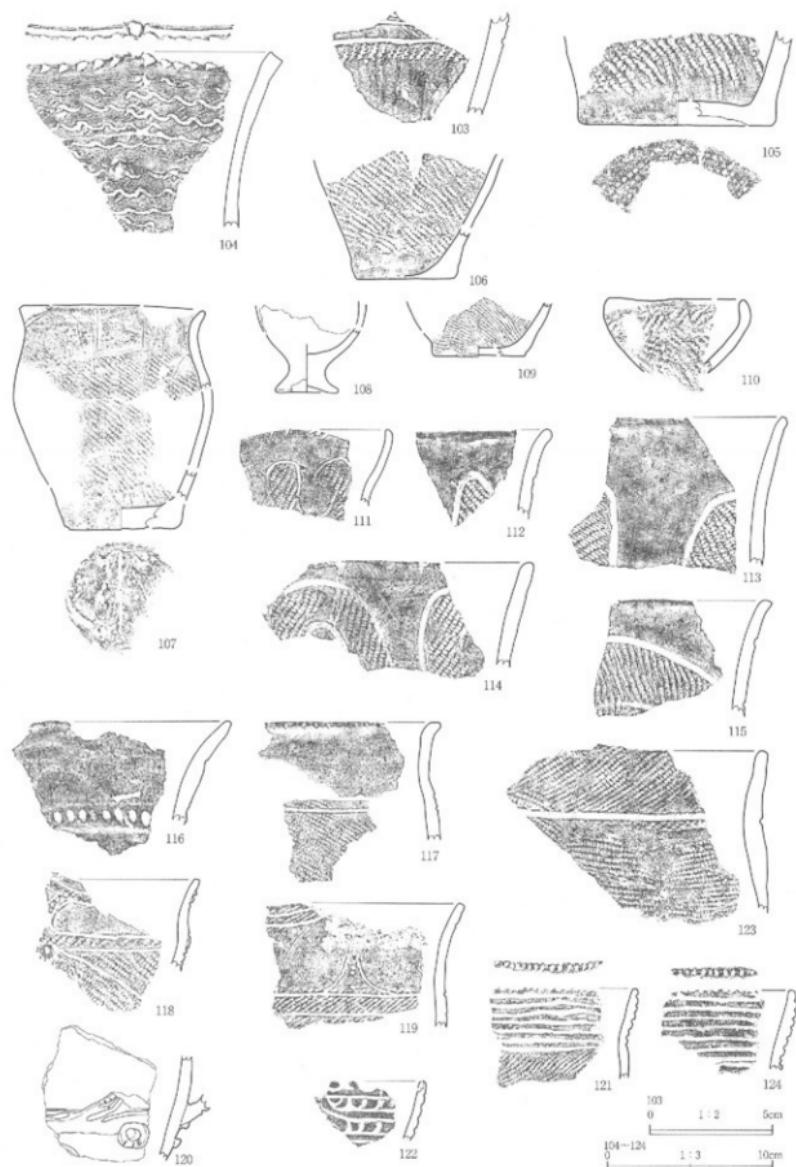
第31図 遺構内出土土器 (8)



第32図 遺構内出土土器 (9)



第33図 造構内出土土器 (10)



第34図 遺構外出土土器



126



127



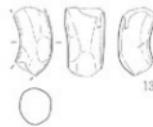
128



129



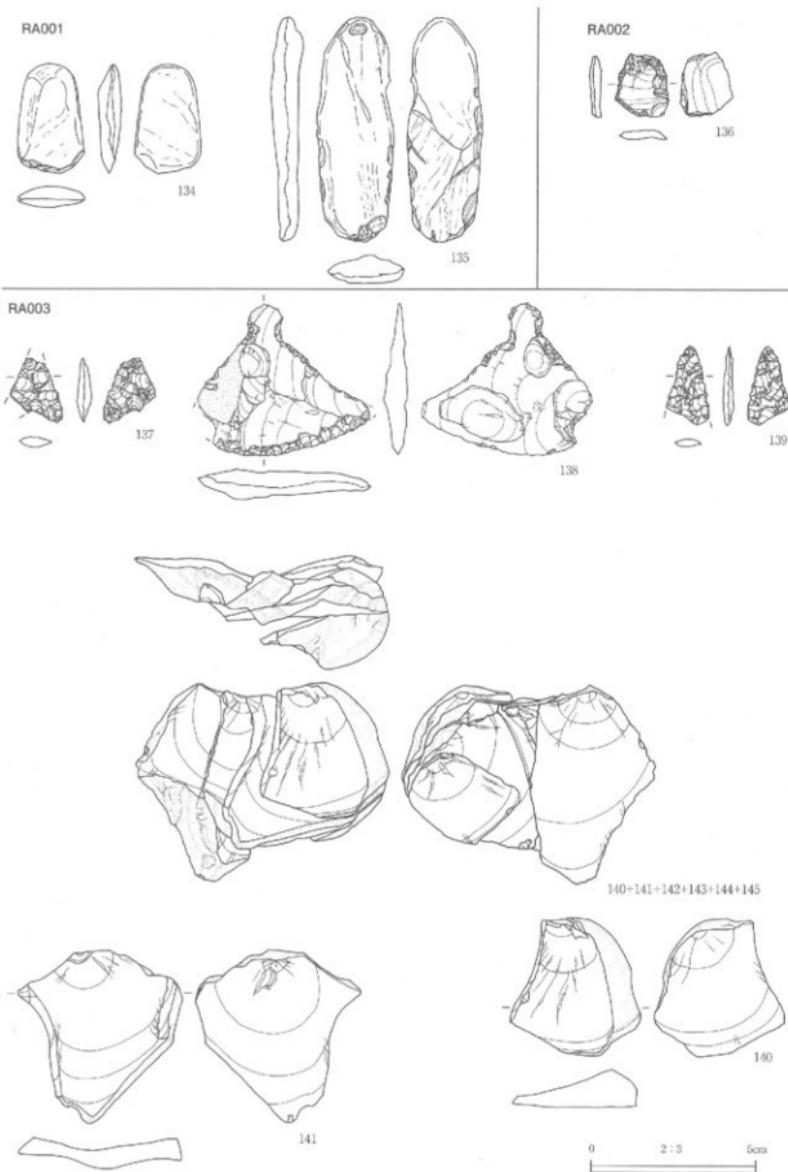
130



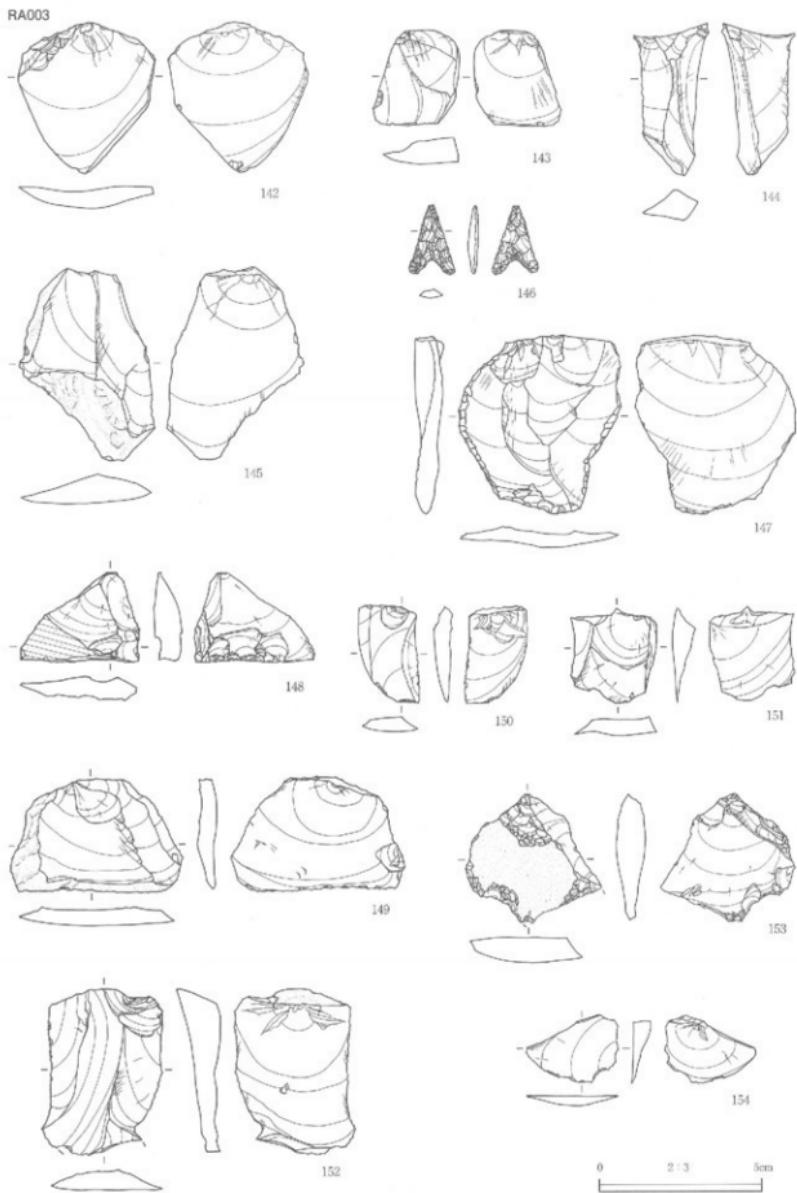
131

0 1 : 2 5cm

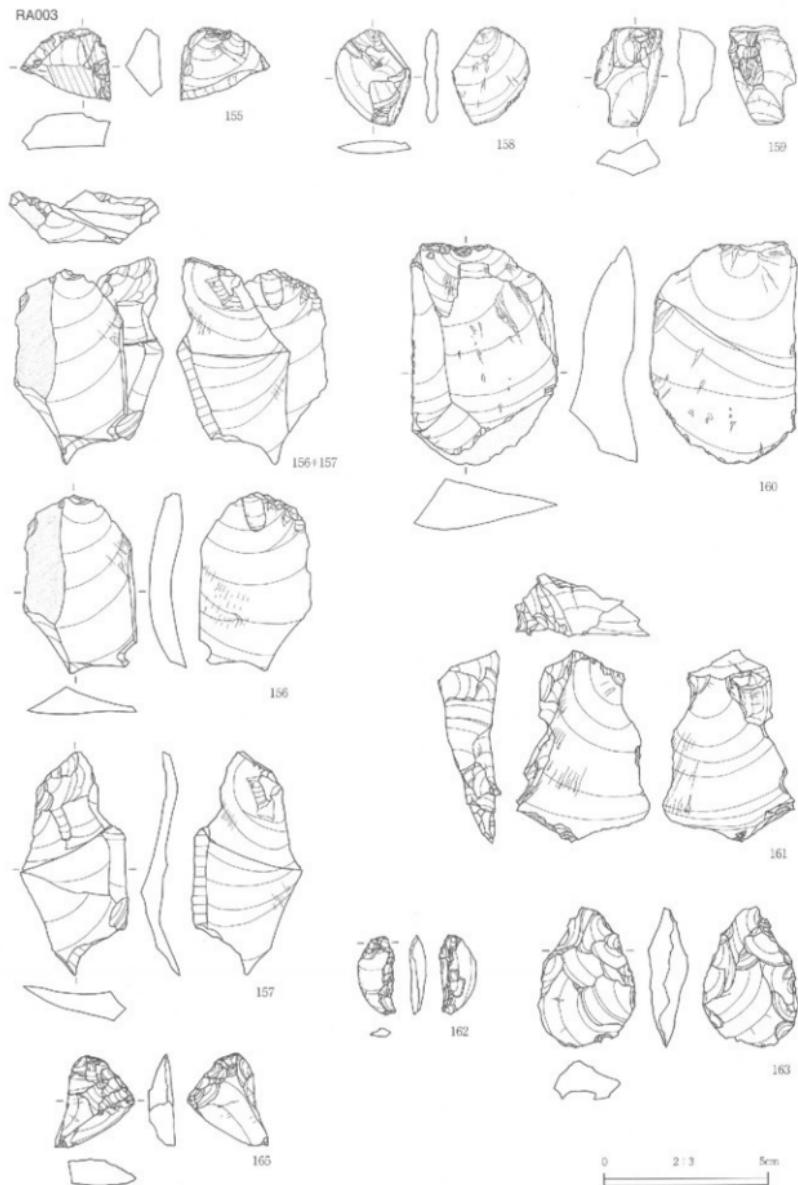
第35図 土製品



第36図 通構内出土石器（1）

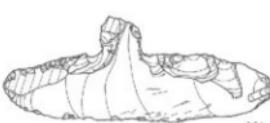
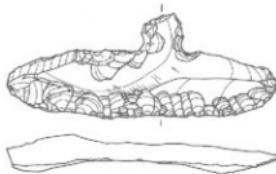


第37図 遺構内出土石器 (2)

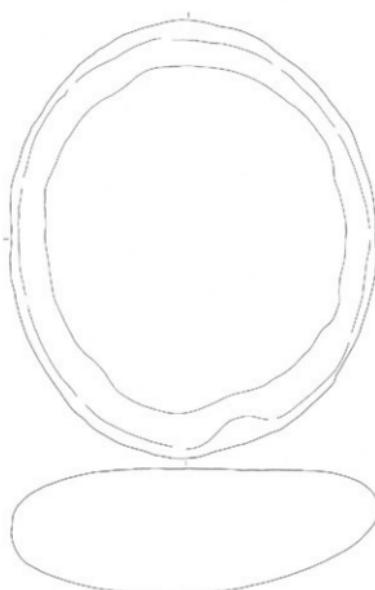


第38図 遺構内出土石器（3）

RA003



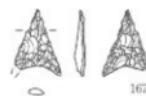
164



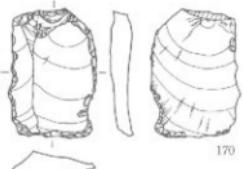
166

0 1 : 3 5cm

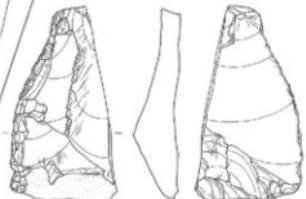
RA004



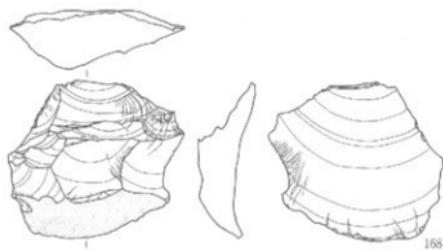
167



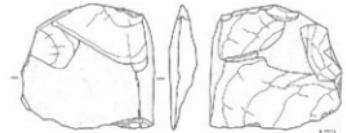
170



171



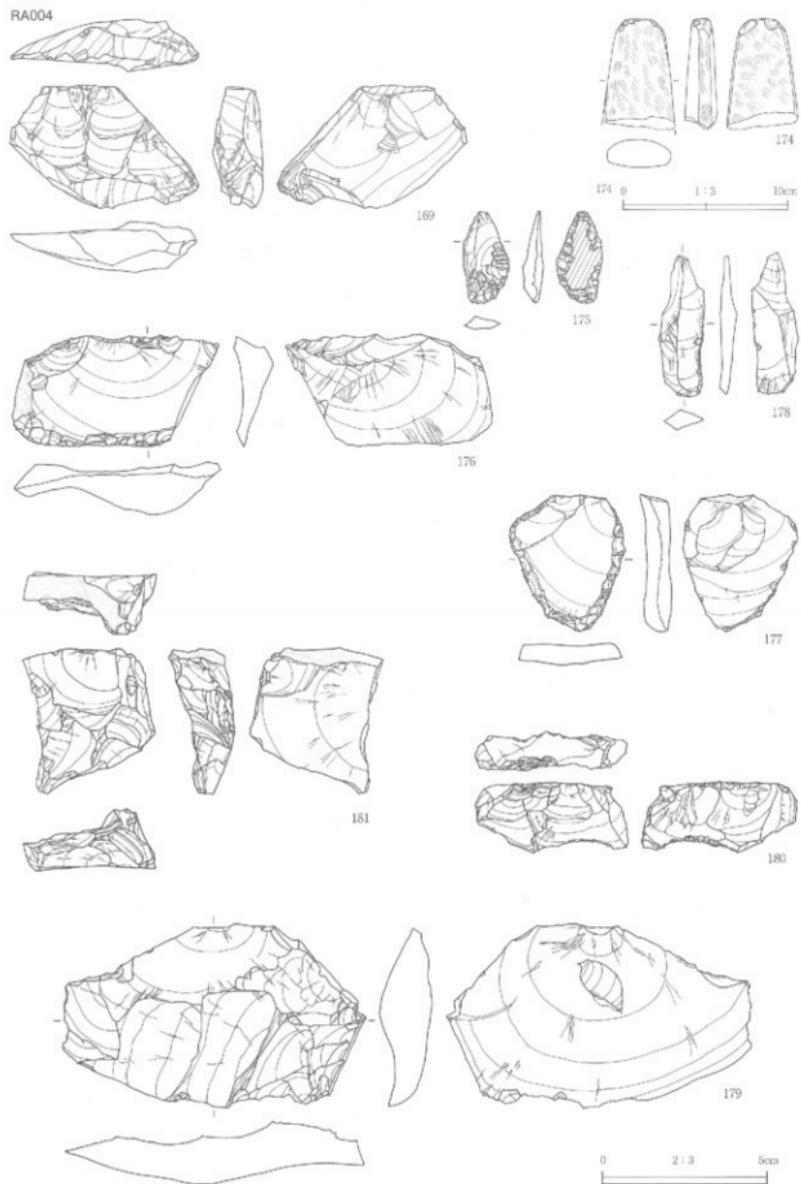
168



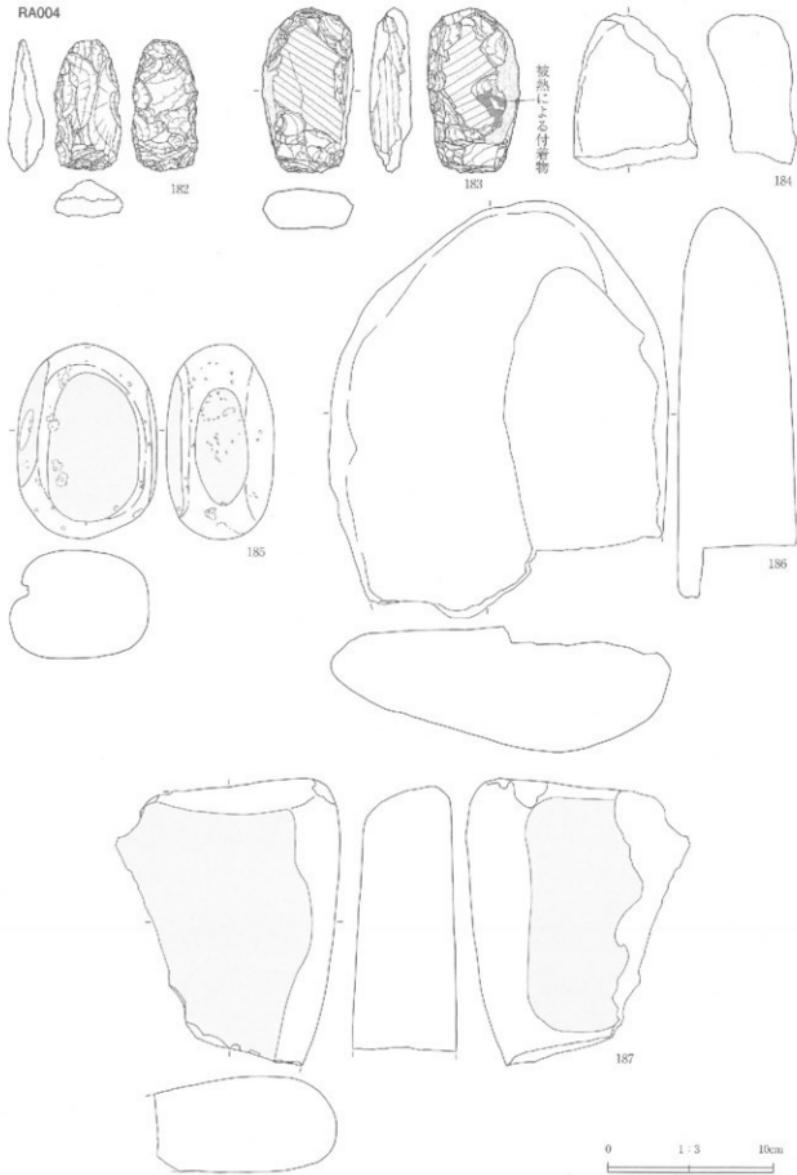
173

0 2 : 3 5cm

第39図 遺構内出土石器 (4)

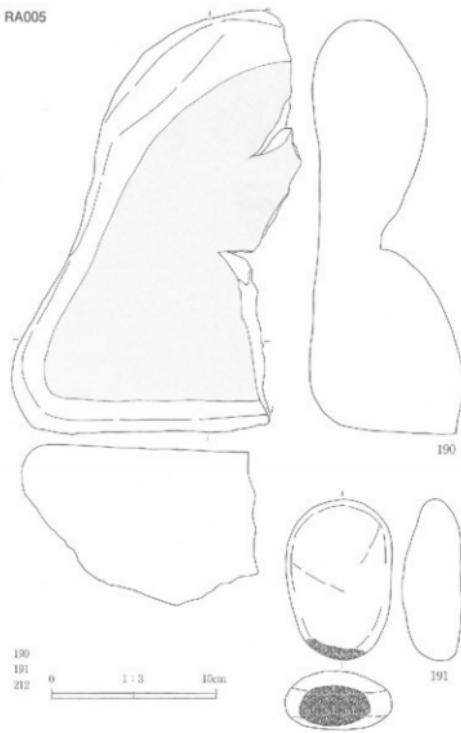


第40図 遺構内出土石器 (5)

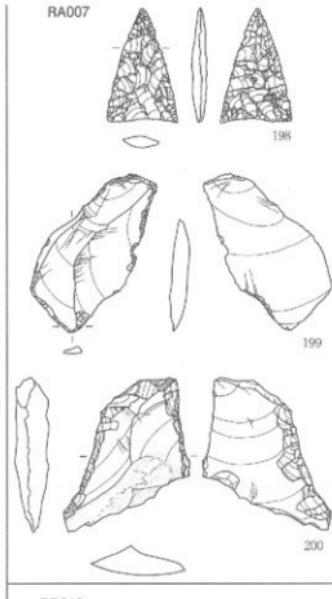


第41図 遺構内出土石器 (6)

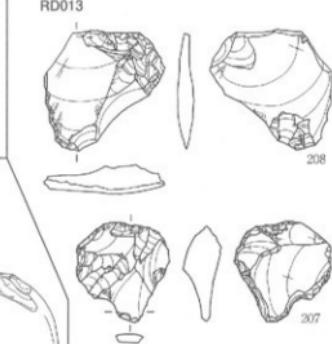
RA005



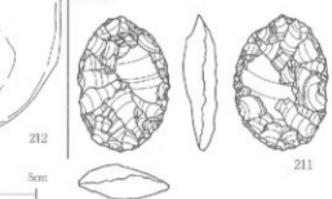
RA007



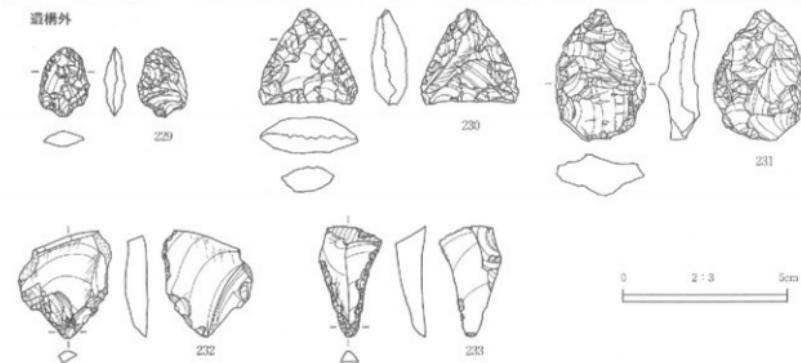
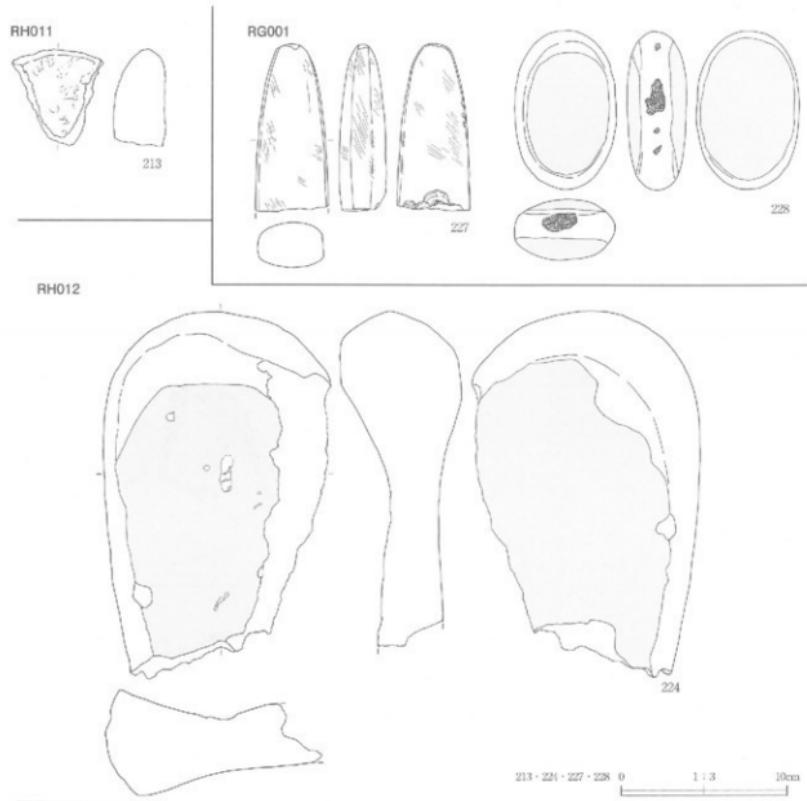
RD013



RD037



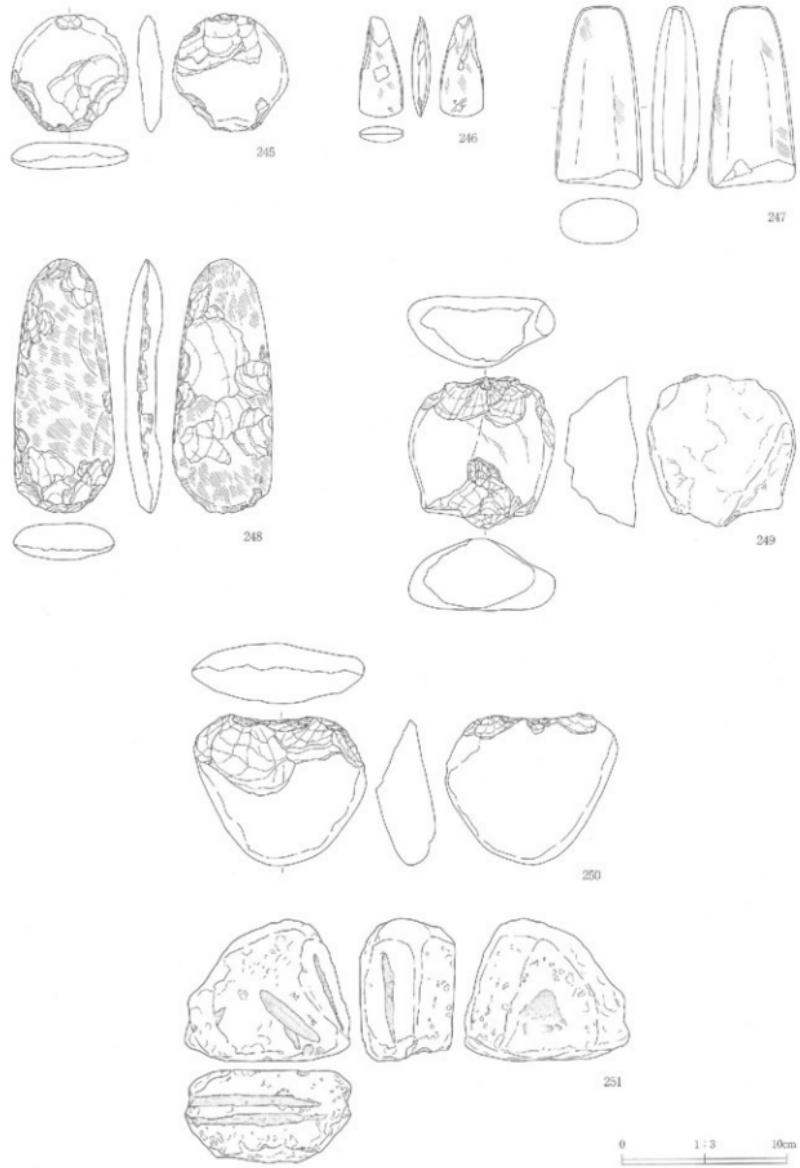
第42回 遺構内出土石器（7）



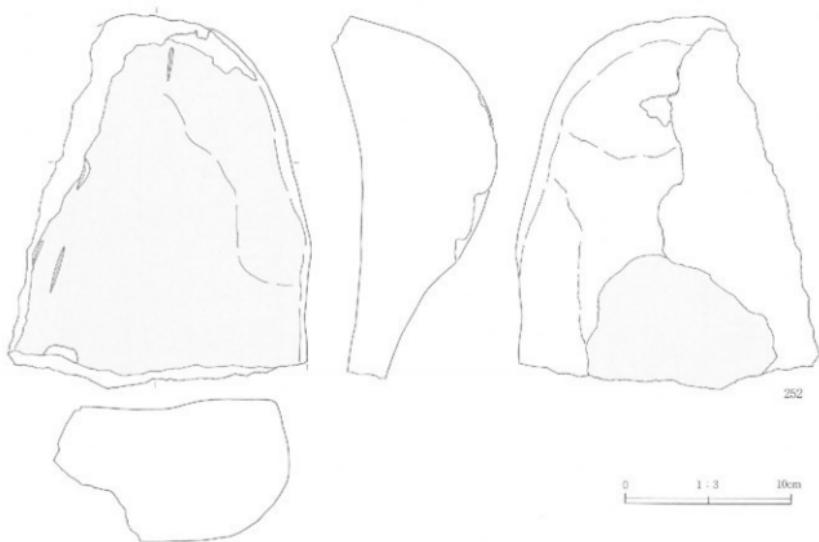
第43図 遺構内出土石器 (8)・遺構外出土石器 (1)



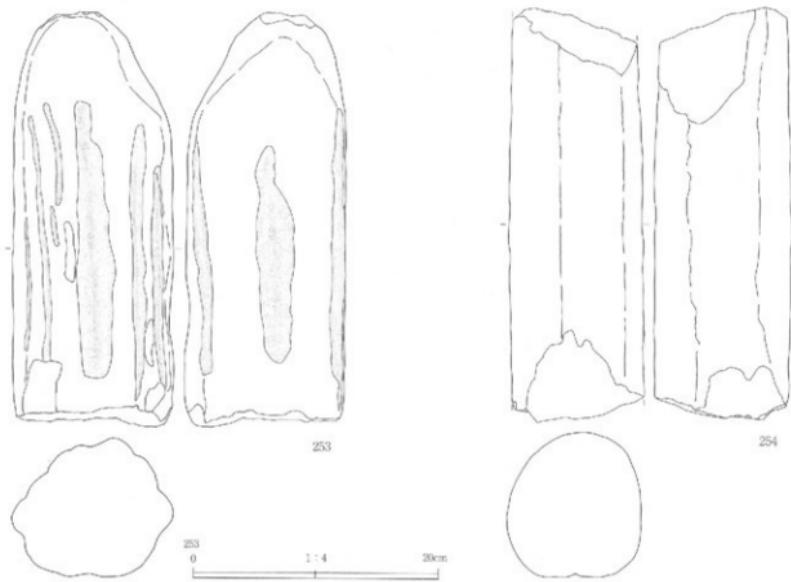
第44図 遺構外出土石器 (2)



第45図 邊縫外出土石器 (3)

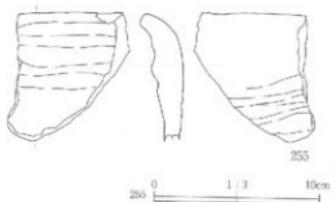


RA003

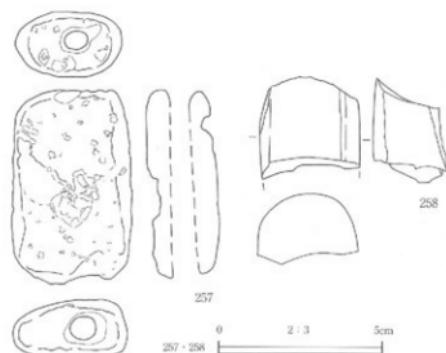


第46図 遺構外出土石器 (4)、石製品 (1)

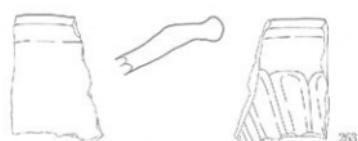
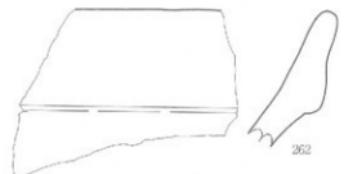
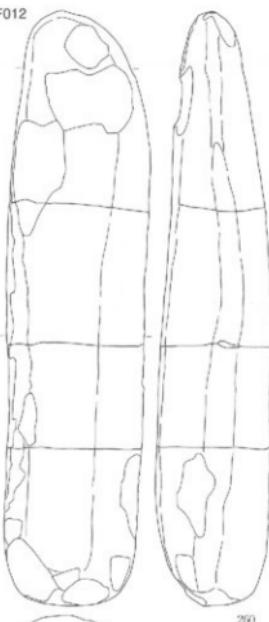
RA003



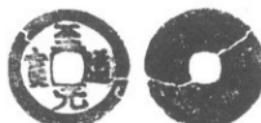
RA004



RF012



RG001



262~264 0 1 : 1 5cm

第47図 石製品(2)、須恵器、陶器、銭貨

第4表 繩文土器観察表

| No. | 形態 | 図 | 子細 | 出土地点・場所 | 基準 | 直径 | 残存部位 | 口部形状 | 底盤 | 文様(縄文文様・地文文様) | 内面観察 | 外側観察 | 分類 |
|-----|----|----|---|---------|----|--------|-----------|------|----|---------------|----------|----------|-------|
| 1 | 24 | 22 | RAB014H1P2 | | | 338.9 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 2 | 24 | 22 | RAB014H1P1 | | | 734.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 3 | 24 | 22 | RAB02_QW1底 | | | 392.0 | 台付 | 92.1 | 深井 | 口～脚部 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 4 | 24 | 22 | RAB02_QW1底 | | | 260.3 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 5 | 24 | 22 | RAB02_QW1底 | | | 260.3 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 6 | 24 | 22 | RAB02_4-1切土 | | | 288.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 7 | 24 | 22 | RAB02_4-1切土 | | | 288.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 8 | 24 | 22 | RAB02_4-1切土 | | | 71.6 | 浅井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 9 | 24 | 22 | RAB02_7W | | | 285.2 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 10 | 24 | 22 | RAB02_QF1薄 | | | 141.5 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 11 | 25 | 22 | RAB03_QN1底 | | | 390.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 12 | 25 | 22 | RAB03_QT7薄 | | | 388.8 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 13 | 25 | 22 | RAB03_PN1薄 | | | 485.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 14 | 25 | 23 | RAB03_H4-1切口 | | | 384.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 15 | 25 | 23 | RAB03_H4-1A-E3薄 | | | 337.7 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 16 | 25 | 23 | RAB03_QN-W-N-V-A-W | | | 965.7 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 17 | 25 | 23 | RAB03_QS-Q-W-Q-N-QE四土～小切 | | | 1218.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 18 | 25 | 23 | RAB03_QS1底 | | | 717.1 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 19 | 26 | 23 | RAB03_QN-QS1底 | | | 200.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 20 | 26 | 24 | RAB03_QS1薄 | | | 613.8 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 21 | 26 | 23 | RAB03_QS1底半穴 | | | 29.0 | 15井12 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 22 | 25 | 23 | RAB03_QF1薄上口 | | | 88.6 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 23 | 25 | 23 | RAB03底上口直上立 | | | 47.4 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 24 | 26 | 24 | RAB03_QF1薄上口直上立 | | | 48.7 | 15井12A(底) | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 25 | 26 | 24 | RAB03_QF1薄上口直上立 | | | 76.6 | ミニチュア(底) | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 26 | 26 | 24 | RAB03底上口直上立 | | | 20.0 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-1 |
| 27 | 27 | 24 | RAB04_QS1底17 | | | 253.4 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 28 | 26 | 24 | RAB04_QS1底10 | | | 137.4 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 29 | 26 | 24 | RAB04_17 | | | 137.4 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 30 | 26 | 24 | RAB04_QS1底 | | | 87.7 | 深井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 31 | 26 | 24 | RAB04_QS1底土下位 | | | 40.5 | 75井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 32 | 26 | 24 | RAB04底土下位 | | | 23.9 | 75井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 33 | 27 | 24 | RAB04_QS1底土下位 | | | 41.0 | 75井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 34 | 27 | 24 | RAB04_QS1底土下位 | | | 32.9 | 75井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 35 | 27 | 24 | RAB04_QS1底土下位 | | | 36.0 | 75井 | 口～脚部 | 直盤 | 横孔附 | 口～脚部、斜T字 | 口～脚部、斜T字 | III-2 |
| 36 | 27 | 25 | RAB04底17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-450-451-452-453-454-455-456-457-458-459-460-461-462-463-464-465-466-467-468-469-470-471-472-473-474-475-476-477-478-479-480-481-482-483-484-485-486-487-488-489-490-491-492-493-494-495-496-497-498-499-4910-4911-4912-4913-4914-4915-4916-4917-4918-4919-4920-4921-4922-4923-4924-4925-4926-4927-4928-4929-4930-4931-4932-4933-4934-4935-4936-4937-4938-4939-4940-4941-4942-4943-4944-4945-4946-4947-4948-4949-4950-4951-4952-4953-4954-4955-4956-4957-4958-4959-4960-4961-4962-4963-4964-4965-4966-4967-4968-4969-4970-4971-4972-4973-4974-4975-4976-4977-4978-4979-4980-4981-4982-4983-4984-4985-4986-4987-4988-4989-4990-4991-4992-4993-4994-4995-4996-4997-4998-4999-49100-49101-49102-49103-49104-49105-49106-49107-49108-49109-49110-49111-49112-49113-49114-49115-49116-49117-49118-49119-49120-49121-49122-49123-49124-49125-49126-49127-49128-49129-49130-49131-49132-49133-49134-49135-49136-49137-49138-49139-49140-49141-49142-49143-49144-49145-49146-49147-49148-49149-49150-49151-49152-49153-49154-49155-49156-49157-49158-49159-49160-49161-49162-49163-49164-49165-49166-49167-49168-49169-49170-49171-49172-49173-49174-49175-49176-49177-49178-49179-49180-49181-49182-49183-49184-49185-49186-49187-49188-49189-49190-49191-49192-49193-49194-49195-49196-49197-49198-49199-49200-49201-49202-49203-49204-49205-49206-49207-49208-49209-49210-49211-49212-49213-49214-49215-49216-49217-49218-49219-49220-49221-49222-49223-49224-49225-49226-49227-49228-49229-49230-49231-49232-49233-49234-49235-49236-49237-49238-49239-49240-49241-49242-49243-49244-49245-49246-49247-49248-49249-49250-49251-49252-49253-49254-49255-49256-49257-49258-49259-49260-49261-49262-49263-49264-49265-49266-49267-49268-49269-49270-49271-49272-49273-49274-49275-49276-49277-49278-49279-49280-49281-49282-49283-49284-49285-49286-49287-49288-49289-49290-49291-49292-49293-49294-49295-49296-49297-49298-49299-49300-49301-49302-49303-49304-49305-49306-49307-49308-49309-49310-49311-49312-49313-49314-49315-49316-49317-49318-49319-49320-49321-49322-49323-49324-49325-49326-49327-49328-49329-49330-49331-49332-49333-49334-49335-49336-49337-49338-49339-49340-49341-49342-49343-49344-49345-49346-49347-49348-49349-49350-49351-49352-49353-49354-49355-49356-49357-49358-49359-49360-49361-49362-49363-49364-49365-49366-49367-49368-49369-49370-49371-49372-49373-49374-49375-49376-49377-49378-49379-49380-49381-49382-49383-49384-49385-49386-49387-49388-49389-49390-49391-49392-49393-49394-49395-49396-49397-49398-49399-493100-493101-493102-493103-493104-493105-493106-493107-493108-493109-493110-493111-493112-493113-493114-493115-493116-493117-493118-493119-493120-493121-493122-493123-493124-493125-493126-493127-493128-493129-493130-493131-493132-493133-493134-493135-493136-493137-493138-493139-493140-493141-493142-493143-493144-493145-493146-493147-493148-493149-493150-493151-493152-493153-493154-493155-493156-493157-493158-493159-493160-493161-493162-493163-493164-493165-493166-493167-493168-493169-493170-493171-493172-493173-493174-493175-493176-493177-493178-493179-493180-493181-493182-493183-493184-493185-493186-493187-493188-493189-493190-493191-493192-493193-493194-493195-493196-493197-493198-493199-493200-493201-493202-493203-493204-493205-493206-493207-493208-493209-493210-493211-493212-493213-493214-493215-493216-493217-493218-493219-493220-493221-493222-493223-493224-493225-493226-493227-493228-493229-493230-493231-493232-493233-493234-493235-493236-493237-493238-493239-493240-493241-493242-493243-493244-493245-493246-493247-493248-493249-493250-493251-493252-493253-493254-493255-493256-493257-493258-493259-493260-493261-493262-493263-493264-493265-493266-493267-493268-493269-493270-493271-493272-493273-493274-493275-493276-493277-493278-493279-493280-493281-493282-493283-493284-493285-493286-493287-493288-493289-493290-493291-493292-493293-493294-493295-493296-493297-493298-493299-4932100-4932101-4932102-4932103-4932104-4932105-4932106-4932107-4932108-4932109-4932110-4932111-4932112-4932113-4932114-4932115-4932116-4932117-4932118-4932119-4932120-4932121-4932122-4932123-4932124-4932125-4932126-4932127-4932128-4932129-4932130-4932131-4932132-4932133-4932134-4932135-4932136-4932137-4932138-4932139-4932140-4932141-4932142-4932143-4932144-4932145-4932146-4932147-4932148-4932149-4932150-4932151-4932152-4932153-4932154-4932155-4932156-4932157-4932158-4932159-4932160-4932161-4932162-4932163-4932164-4932165-4932166-4932167-4932168-4932169-4932170-4932171-4932172-4932173-4932174-4932175-4932176-4932177-4932178-4932179-4932180-4932181-4932182-4932183-4932184-4932185-4932186-4932187-4932188-4932189-4932190-4932191-4932192-4932193-4932194-4932195-4932196-4932197-4932198-4932199-4932200-4932201-4932202-4932203-4932204-4932205-4932206-4932207-4932208-4932209-4932210-4932211-4932212-4932213-4932214-4932215-4932216-4932217-4932218-4932219-4932220-4932221-4932222-4932223-4932224-4932225-4932226-4932227-4932228-4932229-4932230-4932231-4932232-4932233-4932234-4932235-4932236-4932237-4932238-4932239-4932240-4932241-4932242-4932243-4932244-4932245-4932246-4932247-4932248-4932249-4932250-4932251-4932252-4932253-4932254-4932255-4932256-4932257-4932258-4932259-4932260-4932261-4932262-4932263-4932264-4932265-4932266-4932267-4932268-4932269-4932270-4932271-4932272-4932273-4932274-4932275-4932276-4932277-4932278-4932279-4932280-4932281-4932282-4932283-4932284-4932285-4932286-4932287-4932288-4932289-4932290-4932291-4932292-4932293-4932294-4932295-4932296-4932297-4932298-4932299-49322100-49322101-49322102-49322103-49322104-49322105-49322106-49322107-49322108-49322109-49322110-49322111-49322112-49322113-49322114-49322115-49322116-49322117-49322118-49322119-49322120-49322121-49322122-49322123-49322124-49322125-49322126-49322127-49322128-49322129-49322130-49322131-49322132-49322133-49322134-49322135-49322136-49322137-49322138-49322139-49322140-49322141-49322142-49322143-49322144-49322145-49322146-49322147-49322148-49322149-49322150-49322151-49322152-49322153-49322154-49322155-49322156-49322157-49322158-49322159-49322160-49322161-49322162-49322163-49322164-49322165-49322166-49322167-49322168-49322169-49322170-49322171-49322172-49322173-49322174-49322175-49322176-49322177-49322178-49322179-49322180-49322181-49322182-49322183-49322184-49322185-49322186-49322187-49322188-49322189-49322190-49322191-49322192-49322193-49322194-49322195-49322196-49322197-49322198-49322199-493221100-493221101-493221102-493221103-493221104-493221105-493221106-493221107-493221108-493221109-493221110-493221111-493221112-493221113-493221114-493221115-493221116-493221117-493221118-493221119-493221120-493221121-493221122-493221123-493221124-493221125-493221126-493221127-493221128-493221129-493221130-493221131-493221132-493221133-493221134-493221135-493221136-493221137-493221138-493221139-493221140-493221141-493221142-493221143-493221144-493221145-493221146-493221147-493221148-493221149-493221150-493221151-493221152-493221153-493221154-493221155-493221156-493221157-493221158-493221159-493221160-493221161-493221162-493221163-493221164-493221165-493221166-493221167-493221168-493221169-493221170-493221171-493221172-493221173-493221174-493221175-493221176-493221177-493221178-493221179-493221180-493221181-493221182-493221183-493221184-493221185-493221186-493221187-493221188-493221189-493221190-493221191-493221192-493221193- | | | | | | | | | | |

| No. | 地名 | 出土地点・層位 | 重複(e) | 密度 | 保存部位 | 口沿形態 | 支承窓(原体・焼成窓) | 内面調査 | 備考 | 分類 | |
|-----|----|------------------|--------|-----|------|--------|-------------|----------|-----|-----|----|
| | | | | | | | | | | 底・中 | 上 |
| 42 | 25 | RAD04 QW 1層上位 | 58.2 | 75件 | 底部 | 平縁 | 底・中・上 | ナダ | III | III | IV |
| 43 | 25 | RAD04 QW 1層上位 | 495.1 | 18件 | 口～頂部 | 平縁 | 口～頂部 | ナダ | III | III | IV |
| 44 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 385.6 | 1件 | 口～頂部 | 平縁 | 口～頂部 | ロ・糊上ホ・ナダ | III | III | IV |
| 45 | 28 | RAD04 QW 1層上位 | 211.0 | 1件 | 底部 | 口～頂部 | 底・糊上ホ・ナダ | ナダ | III | III | IV |
| 46 | 28 | RAD04 QW 1層上位 | 163.9 | 1件 | 底部 | 糊上ホ～底部 | 糊上ホ～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 47 | 28 | RAD04 QW 1層上位 | 125.2 | 1件 | 底部 | 糊上ホ～底部 | 糊上ホ～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 48 | 28 | RAD04 QW 1層上位 | 659.4 | 1件 | 底部 | 糊上ホ～底部 | 糊上ホ～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 49 | 28 | RAD04 QW 1層上位 | 57.1 | 1件 | 底部 | 糊上ホ～底部 | 糊上ホ～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 50 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 2066.2 | 1件 | 底部 | 糊上ホ～底部 | 糊上ホ～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 51 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 2066.2 | 1件 | 口～底部 | 平縁 | 口～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 52 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 111.4 | 1件 | 口～底部 | 平縁 | 口～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 53 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 82.3 | 1件 | 口～底部 | 平縁 | 口～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 54 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 39.6 | 1件 | 口～底部 | 平縁 | 口～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 55 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 53.7 | 1件 | 口～底部 | 平縁 | 口～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 56 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 160.1 | 1件 | 口～底部 | 平縁 | 口～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 57 | 29 | RAD04 QW 1層上位 | 122.4 | 1件 | 口～底部 | 平縁 | 口～底部 | ナダ | III | III | IV |
| 58 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 84.2 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 59 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 80.8 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 60 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 56.2 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 61 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 44.9 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 62 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 76.5 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 63 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 41.3 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 64 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 301.1 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 65 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 244.4 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 66 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 81.0 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 67 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 64.6 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 68 | 30 | RAD04 QW 1層上位 | 188.5 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 69 | 31 | RAD04 QW 1層上位 | 316.0 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 70 | 31 | RAD04 QW 1層上位 | 18.0 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 71 | 31 | RAD04 QW 1層上位 | 81.1 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 72 | 31 | RAD04 QW 1層上位 | 50.6 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 73 | 31 | RAD04 第3組腰壁取付部付近 | 154.0 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 74 | 31 | RAD05 丸口P1 | 240.3 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 75 | 31 | RAD05 丸口P2 | 88.1 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 76 | 31 | RAD05 丸口P3 | 34.5 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 77 | 32 | RAD06 丸口P1 | 196.7 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 78 | 32 | RAD06 丸口P2 | 164.4 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 79 | 32 | RAD06 QW 1層上位 | 96.6 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 80 | 32 | RAD06 QW 1層上位 | 463.3 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 81 | 32 | RAD06 QW 1層上位 | 23.0 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 82 | 32 | RAD06 QW 1層上位 | 42.7 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 83 | 32 | RAD06 QW 1層上位 | 29.3 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 84 | 32 | RAD06 QW 1層上位 | 25.9 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |
| 85 | 32 | RAD06 丸口P1 | 64.2 | 1件 | 糊上ホ | 糊上ホ | 糊上ホ | ナダ | III | III | IV |

参考文献

図版

図版

図版

図版

図版

図版

図版

図版

第5表 石器觀察表

| No. | 出土地点 | 器種 | 保存状態 | 石質 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 特記事項 |
|-----|------------------------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|-----------------------------------|
| 132 | 33 RA001 砕石1 | 石器 | 1/2欠 | チャート | (18.2) | (23.5) | (11.7) | 7200.0 | |
| 133 | 33 RA001 砕石2 | 石器 | 完形 | 閃緑岩 | 30.3 | 13.4 | 6.7 | 4500.0 | |
| 134 | 36 33 RA001 1層 | 磨製石斧 | 完形 | カルシフェルス | 5.0 | 3.0 | 1.0 | 20.1 | 小形 未製品 磨製石斧未製品の可能性有 |
| 135 | 36 33 RA001 1層 | 打製石斧 | 完形 | 頁岩 | 10.3 | 3.5 | 1.2 | 60.6 | |
| 136 | 36 33 RA002 伊前底部2 層土 | 次加工未尖削 | 完形 | 頁岩 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 0.9 | |
| 137 | 36 33 RA003 床面 | 石器 | 一部欠 | 頁岩 | (2.0) | (1.6) | 0.4 | 1.0 | [印]基無事 |
| 138 | 36 33 RA003 埋 壁上 | 石器 | 断尖形 | 頁岩 | 1.7 | (5.1) | 0.7 | 12.6 | 横造三角形 被熱・剥落 |
| 139 | 36 33 RA003 剥片集中 | 石器 | 一部欠 | 頁岩 | (2.0) | (1.3) | 0.4 | 0.8 | [印]基無事 |
| 140 | 36 33 RA003 剥片集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 4.3 | 4.0 | 1.2 | 20.5 | |
| 141 | 36 33 RA003 剥片集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 5.3 | 5.0 | 1.0 | 15.4 | |
| 142 | 37 33 RA003 剥片集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 4.7 | 4.2 | 0.7 | 12.6 | 接合資料 |
| 143 | 37 33 RA003 剥片集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 3.0 | 2.7 | 0.6 | 6.3 | 打面は1面 円錐面残存 |
| 144 | 37 33 RA003 剥片集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 4.7 | 2.3 | 1.0 | 6.9 | |
| 145 | 37 33 RA003 剥片集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 3.9 | 4.1 | 0.9 | 21.6 | |
| 146 | 37 34 RA003 鮎渕埋土 | 石器 | 完形 | 頁岩 | 2.2 | 1.4 | 0.3 | 0.5 | [印]基無事 |
| 147 | 37 34 RA003 鮎渕埋土 | 削器 | 完形 | 頁岩 | 6.5 | 4.9 | 0.9 | 18.0 | 内側面に浅い側溝 |
| 148 | 37 34 RA003 QS 鮎渕埋土上 | 次加工ある剥片 | 完形 | 頁岩 | 2.8 | 3.6 | 0.8 | 6.7 | |
| 149 | 37 34 RA003 QR 鮎渕埋土 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 3.5 | 5.3 | 0.5 | 11.3 | 円錐面残存 |
| 150 | 37 34 RA003 QS 岩塗埋土 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 3.0 | 1.9 | 0.5 | 2.9 | |
| 151 | 37 34 RA003 QB 岩塗埋土 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 2.9 | 2.5 | 0.7 | 4.6 | |
| 152 | 37 34 RA003 QE 岩塗埋土 | 剥片 | 断尖形 | 頁岩 | (5.1) | 3.6 | 1.1 | 16.3 | |
| 153 | 37 34 RA003 QV 鮎渕埋土 | 剥片 | 一部欠 | 頁岩 | (4.0) | (4.1) | 0.9 | 12.1 | 内側面残存 |
| 154 | 37 34 RA003 QF 鮎渕埋土 | 剥片 | 1/2欠 | 頁岩 | 2.2 | (2.7) | 0.5 | 1.6 | |
| 155 | 38 34 RA003 QS 塵拂検出面 | 次加工ある剥片 | 1/2欠 | 頁岩 | (2.0) | (2.8) | 1.0 | 5.8 | 両面打刃による剥片 |
| 156 | 38 34 RA003 QS 塘拂検出面 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 5.3 | 3.3 | 0.9 | 15.8 | 接合資料 縦長剥片 |
| 157 | 38 34 RA003 QS 塘拂検出面 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 6.8 | 3.2 | 0.9 | 15.0 | |
| 158 | 38 34 RA003 QS 草拂検出面 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 2.9 | 2.3 | 0.4 | 2.6 | |
| 159 | 38 34 RA003 QS 草拂検出面 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 3.1 | 2.1 | 1.0 | 5.8 | 両面打刃による剥片 |
| 160 | 38 34 RA003 P6 2号 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 6.8 | 4.5 | 1.6 | 56.3 | 円錐面残存 |
| 161 | 38 34 RA003 P6 1号 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 5.9 | 4.0 | 1.6 | 25.7 | |
| 162 | 38 34 RA003 QE 墓土下位 | 石器 | 完形 | 頁岩 | 2.4 | 1.1 | 0.5 | 1.1 | 未製品 |
| 163 | 38 34 RA003 QR 10層 | 尖頭状 | 完形 | 頁岩 | 4.3 | 2.9 | 1.2 | 11.1 | 深挖形 滑越大きい 横造形 つまみ端にアスペク ト付有 |
| 164 | 39 34 RA003 QR 10層 | 石器 | 完形 | 頁岩 | 3.2 | 8.2 | 1.1 | 14.5 | |
| 165 | 38 34 RA003 QS 10層 | 次加工ある剥片 | 1/3以下 | 頁岩 | (2.6) | (2.4) | (0.8) | 4.7 | 西面削削的 削離的 |
| 166 | 39 35 RA003 B-B'ベルト | 台石 | 完形 | 四稜岩 | 26.9 | 21.2 | 7.8 | 6400.0 | |
| 167 | 39 35 RA004 床面 S1 | 石器 | 破形 | 赤色頁岩 | 1.7 | 1.3 | 0.3 | 0.5 | [印]基無事 |
| 168 | 39 35 RA004 床面 石器集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 4.9 | 5.1 | 1.5 | 29.9 | 石核作業面剥片 |
| 169 | 40 35 RA004 床面 石器集中 | 剥片 | 完形 | 頁岩 | 3.8 | 5.7 | 1.5 | 26.7 | 石核作業面剥片 |
| 170 | 39 35 RA004 QS 塚面直上 | 削器 | 完形 | 頁岩 | 4.0 | 2.6 | 0.7 | 9.2 | 彫刻石錐? |
| 171 | 39 35 RA004 P1 底面 | 削器 | 1/2欠 | 頁岩 | (6.0) | (3.3) | 1.2 | 21.9 | 左側縁に刃部 |
| 172 | 37 RA004 伊石S1 | 台石 | 1/2欠 | アブライド | (55.2) | (31.3) | 10.4 | 19100.0 | 砾石配用時に打ち欠き |
| 173 | 39 35 RA004 伊前底部貼付面 | 磨製石斧? | 1/3欠 | 頁岩 | (3.9) | (4.0) | 0.8 | 15.0 | 扁平 |
| 174 | 40 35 RA004 伊北床面直上 | 磨製石斧 | 1/2欠 | 頁岩 | (6.8) | (4.3) | (2.0) | 86.8 | 板形 |
| 175 | 40 35 RA004 QE 1層上位 | 石器 | 完形 | めのう | 2.8 | 1.4 | 0.6 | 2.1 | 未製品 |
| 176 | 40 35 RA004 PG 墓土 | 削器 | 一部欠 | 頁岩 | 3.4 | (5.7) | 1.0 | 19.4 | 東面に刃部 |
| 177 | 40 35 RA004 QE 墓土下位 | 種器 | 完形 | 頁岩 | 4.2 | 3.5 | 0.8 | 11.7 | 西側縁から木棒に刀部 |
| 178 | 40 35 RA005 P9 壁上 | 使用痕あら剥片 | 1/2欠 | 頁岩 | (4.3) | 1.3 | 0.6 | 2.5 | 右側縁T下に微細剝離 |
| 179 | 35 RA004 P12 壁上 | 剥片 | 一部欠 | 頁岩 | 5.7 | (9.2) | 1.6 | 835.0 | 石核作業面剥片 |
| 180 | 36 36 RA004 QW 1層上位 | 石核 | 完形 | 頁岩 | 2.2 | 4.7 | 1.0 | 10.9 | 板形 作業面2面 |
| 181 | 40 36 RA004 QU 1層上位 | 石核 | 1/2欠 | 頁岩 | (4.5) | (4.0) | 1.6 | 25.1 | 作業面2面 |
| 182 | 41 36 RA004 QN 1層上位 | 打製石斧 | 完形 | 板状岩 | 8.1 | 3.9 | 2.3 | 78.9 | |
| 183 | 41 36 RA004 ~A-N~ 墓土下位 | 打製石斧 | 完形 | チャート | 10.1 | 5.5 | 2.5 | 211.5 | 被熱による付着物有 |
| 184 | 41 36 RA004 QE 墓土上位 | 四十鈴石 | 1/2欠 | 安山岩 | (7.5) | (9.5) | (4.7) | 232.9 | |
| 185 | 41 36 RA004 P2 壁上最上 | 麻石 | 完形 | 安山岩 | 12.0 | 8.4 | 6.7 | 867.1 | 4面 |
| 186 | 41 36 RA004 P9 1層 | 台石 | 1/2欠 | 珪岩 | (25.5) | 20.6 | (7.0) | 4500.0 | |
| 187 | 41 36 RA004 伊西壁面層上位 | 台石 | 2/3以上欠 | 花崗閃綠岩 | (17.6) | (13.6) | 6.1 | 2051.2 | 平面に磨面形成 |
| 188 | 36 RA004 QE 墓土下位 | 台石 | 完形 | 花崗閃綠岩 | 21.9 | 16.2 | 4.5 | 2950.1 | |
| 189 | 36 RA004 QW 1層上位 | 台石 | 1/2欠 | 花崗閃綠岩 | (31.8) | (20.4) | 9.9 | 10500.0 | |
| 190 | 42 37 RA005 MPS3 | 台石 | 1/2欠 | 花崗岩 | (25.5) | (15.2) | (10.7) | 4500.0 | 1面平坦化 |
| 191 | 42 37 RA005 1層下位(伊下位) | 敲石 | 完形 | 蛇紋岩 | 9.8 | 6.4 | 3.6 | 389.2 | |
| 192 | 37 RA006 伊石76 | 石器 | 完形 | アブライド | 25.2 | 16.7 | 5.6 | 4100.0 | |
| 193 | 37 RA006 伊石10 | 台石 | 1/2欠 | 花崗閃綠岩 | 24.7 | (26.2) | (10.8) | 19400.0 | |
| 194 | 38 RA006 伊石11 | 台石 | 完形 | 花崗閃綠岩 | 17.1 | 34.4 | 8.8 | 6800.0 | |

| No. | 年号 | 出土地点 | 器種 | 残存状態 | 石質 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 特記事項 |
|-----|----|----------------|-----------|------|-------|--------|--------|--------|---------|-------------------|
| 195 | 38 | RA006 伊右14 | 台石 | 2/3欠 | 花崗閃映岩 | (13.6) | (14.4) | (3.1) | 1120.0 | |
| 196 | 39 | RA007 伊右S1 | 台石 | 完形 | 頁岩 | 35.4 | 37.0 | 9.1 | 17700.0 | |
| 197 | 39 | RA007 石塚53 | 台石 | 完形 | 蛇紋岩 | 39.6 | 55.0 | 11.4 | 31300.0 | |
| 198 | 42 | RA007 P2埋土 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 3.6 | 2.2 | 0.5 | 2.7 | 平基無蓋 |
| 199 | 42 | RA007 伊 埋土最上位 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 4.9 | 3.8 | 0.6 | 7.0 | 圓形 |
| 200 | 42 | RA007 伊 埋土最上位 | 削器 | 完形 | 珪質頁岩 | 3.8 | 3.2 | 0.9 | 12.9 | 両側縁に刃部 |
| 201 | 38 | RA008 床面S3 | 台石 | 完形 | アーバイト | 19.7 | 26.3 | 6.4 | 3600.0 | |
| 202 | 38 | RA008 砂石2 | 台石 | 完形 | 頁岩 | 27.6 | 33.2 | 8.4 | 12000.0 | 被熱・変色 |
| 203 | 38 | RA008 伊 G3 | 台石 | 略光形 | アーバイト | 18.7 | 28.5 | 6.0 | 5100.0 | |
| 204 | 38 | RA008 伊右4 | 台石 | 完形 | アーバイト | 21.6 | 28.4 | 6.3 | 6100.0 | |
| 205 | 40 | RA008 伊右5 | 台石 | 1/2欠 | 頁岩 | (17.6) | (29.6) | 9.4 | 6700.0 | |
| 206 | 40 | RA008 QS 床面直上 | 台石 | | | | | | | |
| 207 | 42 | RF013 1層 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 3.1 | 2.8 | 1.1 | 7.2 | 刃部調整は背面側のみ 摩耗純化 |
| 208 | 42 | RF013 1層 | 削器 | 一部欠 | 頁岩 | 3.6 | 3.6 | 0.8 | 9.8 | 左側縁と末端に刃部 |
| 209 | 49 | RD033 埋土 | 羽片 | 完形 | 頁岩 | 3.7 | 2.8 | 1.5 | 16.2 | 分厚い |
| 210 | 49 | RD033 埋土 | 羽石 | 1/2欠 | 安山岩 | (12.2) | (9.8) | 4.2 | 317.4 | |
| 211 | 42 | RF037 1層 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 4.2 | 2.8 | 1.0 | 11.4 | アスファルト微量付着 |
| 212 | 42 | RF012 底面S1 | 内面鏡器 | 完形 | 頁岩 | 15.8 | 13.2 | 3.2 | 1145.5 | |
| 213 | 43 | RH011 S3 | 砂石? | 砂片 | 安山岩 | (5.8) | (5.5) | (3.2) | 65.3 | |
| 214 | 49 | RH011 S1 | 台石 | 砂片 | 花崗閃映岩 | (12.7) | (11.2) | (6.7) | 1309.6 | |
| 215 | 41 | RH011 S3 | 台石 | 一部欠 | アーバイト | 17.6 | (22.1) | 7.8 | 4800.0 | |
| 216 | 41 | RH011 S4 | 台石 | 一部欠 | 花崗閃映岩 | (18.4) | (21.6) | 3.9 | 1900.0 | |
| 217 | 41 | RH011 S3 | 台石 | 完形 | 蛇紋岩 | 20.2 | 19.7 | 5.1 | 3500.0 | |
| 218 | 41 | RH011 S8 | 台石 | 一部欠 | 四角柱 | 21.9 | (41.3) | 7.9 | 11500.0 | |
| 219 | 41 | RH011 S9 | 台石 | 完形 | アーバイト | 11.5 | 26.4 | 4.3 | 1930.0 | |
| 220 | 41 | RH011 S11 | 配石構成繩 | 完形 | 花崗閃映岩 | 9.4 | 15.3 | 3.9 | 980.0 | |
| 221 | 41 | RH011 S12 | 配石構成繩 | 完形 | 頁岩 | 21.6 | 42.8 | 6.4 | 9500.0 | |
| 222 | 42 | RH011 S15 | 配石構成繩 | 完形 | 蛇紋岩 | 24.7 | 39.3 | 7.9 | 11900.0 | |
| 223 | 41 | RH011 S16 | 配石構成繩 | 完形 | チャート | 13.7 | 18.4 | 7.6 | 3150.0 | |
| 224 | 43 | RH012 | 台石 | 1/2欠 | 安山岩 | (22.6) | (13.8) | (7.2) | 1420.0 | 2面削れてむき 抵石の用途 |
| 225 | 42 | RH012 S2 | 台石 | 一部欠 | アーバイト | (21.8) | 22.2 | (7.1) | 6500.0 | 被熱・変色 |
| 226 | 42 | RH012 S5 | 台石 | 完形 | アーバイト | 23.4 | 31.0 | 6.2 | 7100.0 | |
| 227 | 43 | RC001 黒褐色砂層 | 磨製石斧 | 一部欠 | 閃映岩 | (10.2) | (4.3) | 2.8 | 221.3 | 擬形 |
| 228 | 43 | RC001 黒褐色砂層 | 磨石 | 完形 | 花崗閃映岩 | 9.7 | 5.2 | 3.7 | 320.8 | 扁平 2面 |
| 229 | 43 | RE4u III層 | 石礫 | 完形 | 紅斑頁岩 | 2.2 | 1.5 | 0.7 | 1.8 | 平素有平 |
| 230 | 43 | RE下段 III相当黒褐色 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 2.9 | 3.0 | 1.1 | 8.9 | 平素無蓋 |
| 231 | 43 | RE下段 黒褐色砂層 | 尖頭器 | 完形 | めのう | 4.0 | 2.8 | 1.2 | 11.6 | 頭鈎形 |
| 232 | 43 | VEF20e-21w IV層 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 3.3 | 2.8 | 0.7 | 6.3 | 刃部調整は背面側のみ |
| 233 | 43 | VEF23r IV層 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 3.4 | 1.9 | 0.8 | 3.4 | 刃部調整は背面側のみ |
| 234 | 43 | VEF2c 亂層 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 3.1 | 3.5 | 0.9 | 9.3 | 木製品 模型三角形 |
| 235 | 43 | VEF5c 亂層 | 石礫 | 完形 | 頁岩 | 3.7 | 4.0 | 0.9 | 12.1 | 木製品 模型三角形 |
| 236 | 44 | VEF上段 -IVb層 | 削器 | 完形 | 頁岩 | 5.7 | 2.6 | 1.0 | 14.3 | 両側縁に刃部 |
| 237 | 44 | VEF3r 亂層 | 削器 | 完形 | 頁岩 | 5.9 | 6.6 | 1.9 | 58.4 | 左側縁に刃部 |
| 238 | 44 | VEF上段 黒褐色砂層 | 削器 | 一部欠 | 頁岩 | (6.6) | 3.5 | 0.6 | 19.2 | 両側縁に刃部 |
| 239 | 44 | VEF1g II層 | 削器 | 完形 | 頁岩 | 5.3 | 2.7 | 1.0 | 8.4 | 両側縁と末端に刃部 |
| 240 | 44 | VEFs III層 | 削器 | 一部欠 | 頁岩 | 3.1 | (3.2) | 1.0 | 6.0 | 太端に急斜度直面 左側縁に浅い調整 |
| 241 | 44 | VEF20y III層 | 石礫? | 1/2欠 | めのう | (1.7) | 1.1 | 0.4 | 1.2 | |
| 242 | 44 | VEF4w III層 | ビニール・スクール | 完形 | 頁岩 | 1.9 | 2.4 | 0.6 | 3.0 | 一封 右側縁に直線調整窪 |
| 243 | 44 | VEF24x IV層 | 石礫 | 完形 | めのう | 3.2 | 3.7 | 2.3 | 29.2 | サイコロ形 作業用4面 |
| 244 | 44 | VEE24o II層 | 石核 | 完形 | 頁岩 | 2.6 | 2.5 | 1.8 | 9.9 | 両側打抜 サイコロ形 被熱・白堊 |
| 245 | 45 | VEE25p III層 | 打製石斧 | 完形 | 頁岩 | 7.3 | 7.1 | 1.7 | 95.3 | 内盤状 |
| 246 | 45 | VEE1x III層 | 磨製石斧 | 完形 | 蛇紋岩 | 5.2 | 2.6 | 1.1 | 24.8 | 小形 刃部調整直後 |
| 247 | 45 | VEE9t III層 | 磨製石斧 | 削欠 | 閃映岩 | (11.2) | (5.3) | 2.8 | 281.9 | 根形 |
| 248 | 45 | VEF23w I層 | 磨製石斧 | 完形 | 蛇紋岩 | 15.7 | 6.1 | 2.3 | 306.4 | 扁平 刃部調整直後 |
| 249 | 45 | VEF-I段 黒褐色砂層 | 片面鏡器 | 完形 | 蛇紋岩 | 9.4 | 9.4 | 4.4 | 487.5 | 両端に刃部 |
| 250 | 45 | VEE3g III層 | 両面鏡器 | 完形 | 蛇紋岩 | 9.0 | 9.9 | 3.3 | 393.3 | |
| 251 | 45 | VEE4v II層 | 研石 | 完形 | 砂岩 | 8.3 | 10.0 | 5.8 | 495.8 | 溝状の底窓 |
| 252 | 46 | VEE5g III層 | 台石 | 完形 | 頁岩 | (22.8) | (18.4) | (8.5) | 2170.0 | 1面削れてむき 壁石的用途 |

第6表 土製品観察表

| No | 出土地点・層位 | 器種 | 残存部位 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|-----------|------------------------------------|-------|------|--------|-------|--------|--------|---------------------------------------|
| 掲載 図 空回 | RA004 洗面・Q1層上位 RA007 伊前庭部東盤跡 墓土 | 各式土製品 | 瓶欠 | 14.5 | 5.55 | 1.65 | 123.40 | 頂部に凹み、両面にLR縫・沈窓、両面の基部と側面に削欠、側面に貫通孔あり。 |
| 126 35 32 | RA001 1層上位 | 土器片円板 | 完形 | 3.9 | 3.6 | 1.1 | 16.90 | 打ち欠き、斜山(太さの異なる1段の縁Rを乗り重ねている)、内面ナデ |
| 128 35 32 | RA004 QB 1層上位 | 土器片円板 | 1/2欠 | (2.4) | 3.9 | 1.0 | 9.90 | スクローブ(全周)、斜山、内面ナデ |
| 129 35 32 | VB(B下端部分)黒褐色砂層 | 土器片円板 | 完形 | 3.8 | 3.6 | 0.8 | 13.60 | スクローブ(底部分)、斜山、内面ナデ |
| 130 35 32 | VB(B下端部分)黒褐色砂層 | 土器片円板 | 完形 | 3.2 | 3.5 | 0.9 | 11.60 | 打ち欠き、斜山、内面ナデ? |
| 131 35 32 | VB(B下端部分)黒褐色砂層 | 土例? | 脚? | (2.8) | (1.6) | (1.5) | 6.20 | づつ中央、残存部位脚?? |

第7表 石製品観察表

| No | 出土地点 | 器種 | 残存状態 | 石質 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 特記事項 |
|-----------------|-----------------------|-----|------|-------|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 253 46 45 | RA003 S1 | 石棒 | 1/2欠 | 安山岩 | (34.1) | (13.2) | (11.3) | 5600.0 | 横状の近底有 |
| 254 46 45 | RA003 F11 | 石棒 | 1/2欠 | アブライト | (25.4) | (8.2) | (8.8) | 3070.0 | |
| 255 47 44 | RA003 伊前庭上位 | 石鉢 | 口縁部 | 輝岩 | (7.9) | (6.7) | 1.9 | 103.6 | 口唇外反、口縁に溝2条 |
| 256 45 43 | RA001 1層S2 | 棒状鉢 | 光形 | 花崗閃緑岩 | 27.8 | 12.0 | 11.1 | 6500.0 | 石棒の可能性有 |
| 257 47 44 | RA004 5-1層 | 穿孔環 | 完形 | 輝石 | 6.0 | 3.7 | 2.1 | 8.0 | 側位に穿孔 |
| 258 47 44 | RA004 伊前庭部北東隅 埋土下位 | 石棒 | 砂片 | 輝岩 | (3.2) | (3.0) | (2.2) | 18.6 | 被熱、黒色化 |
| 259 45 45 | RA006 伊右1 | 棒状鉢 | 完形 | アブライト | 30.8 | 8.8 | 7.0 | 240.0 | 石棒の可能性有 |
| 260 47 45 | RF012 底面S1 | 石棒 | 船形光形 | 花崗閃緑岩 | 49.0 | 11.2 | 8.9 | 8000.0 | 剥離後彌り調整、被熱、黒色 |
| 261 45 RH011 S7 | | 棒状鉢 | 一部欠 | 閃緑岩 | (24.4) | 9.8 | 6.7 | 2792.0 | 石棒の可能性有 |

第8表 須恵器観察表

| No | 出土地点 | 器種 | 部位 | 調査 | 重量 | 特記事項 |
|-----------|--------|----|-----|------|------|------|
| 掲載 | 図 | 空回 | 外側 | 内面 | (g) | |
| 262 47 46 | VEE 捣乱 | 壺類 | 口縁部 | ロクナダ | 15.3 | |

第9表 陶器観察表

| No | 出土地点 | 器種 | 部位 | 調査 | 重量 | 特記事項 |
|-----------|-------------|-------|----|----|-----|--------|
| 掲載 | 図 | 空回 | 外側 | 内面 | (g) | |
| 263 47 46 | VEE下段 黒褐色砂層 | 灰釉折線皿 | 口縁 | ソギ | 3.6 | 英濃系と推定 |

第10表 銭貨観察表

| No | 出土地点 | 種別 | 残存状態 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 特記事項 |
|-----------|-----------|------|--------|--------|-------|--------|-------|------|
| 264 47 46 | RG001 最上層 | 至道元寶 | 完形(折損) | 24.40 | 24.72 | 1.03 | 1.91 | |

VI 総括

今回の調査で検出された遺構・遺物についてまとめ、それぞれに対し若干の考察を行う。

1 遺構

今回の調査では、調査区上段部分から縄文時代の堅穴住居8棟、土坑6基、陥し穴状遺構19基、焼土遺構4基、配石遺構2基、集石遺構1基、埋設土器遺構1基、柱穴状土坑7基、調査区下段部分から近世以降の溝1条を検出した。

ここでは、縄文時代の堅穴住居、陥し穴状遺構の特徴についてまとめる。

(1) 堅穴住居

時期

各住居の帰属時期をまとめてみると、中期後葉（大木9式期）3棟（RA001・002・006）、中期末葉（大木10式期）3棟（RA004・007・008）、中期後葉～末葉2棟（RA003・005）となる。

平面形・規模

今回の調査で検出した8棟のうち、平面形や規模がわかるものは、RA004・006・007堅穴住居の3棟のみである。RA004・007堅穴住居は長軸6.92mを測る大形の住居、RA006堅穴住居は長軸3.18mを測る小形の住居である。平面形は橢円形を呈するものが多い。全体としては、おおむね直径3～7mほどの円形もしくは橢円形を呈するものが多いと考えられる。

炉

8棟のうち6棟が複式炉を伴い、複式炉には次の3つの形態が見られる。

- ① 石門部+前庭部（RA002）
- ② 石門部+石闌部+前庭部（RA005・006・007・008）
- ③ 掘込部+石門部+前庭部（RA004）

特徴として埋設土器を伴わないことが挙げられよう。石闌部を採用する頻度が強いことが窺える。

堅穴住居内における複式炉の位置は、5棟（RA002・004・005・006・007）が南～西南壁に位置し、前庭部が斜面下方側に向いている。しかし、RA008堅穴住居だけが北東壁に位置し、前庭部は斜面上方側に向く。

重複関係

RA004・007堅穴住居は、炉の作り替えに伴い、少なくともRA004堅穴住居旧炉段階→RA004堅穴住居新炉段階→RA007堅穴住居の3期にわたる変遷があることを看取できた。また、RA003堅穴住居は、主柱穴と考えられるピットに重複して焼土が広がっていることから、堅穴住居の建て替えが行われた可能性が考えられる。これらの住居は、今回の調査で検出した住居のなかでは大形の部類である。これに対し、それ以外の3～4mほどの規模をもつと考えられる住居では、このような建て替え行為はみられない。

剥片集中遺構（デボ）

RA003堅穴住居の南側の壁溝の埋土から、北上山地産の頁岩を石材とする剥片と石礫がまとまっ

て出土した。岩手県における縄文時代の剥片集中遺構については阿部勝則氏により詳しくまとめられており（阿部2003）、竪穴住居からの出土事例は縄文時代中期末葉及びその前後の時期に多いことが知られている。本事象については後述する。

（2）陥し穴状遺構

平面形は溝形を呈し、底部施設は見られない。検出した19基のうち17基が、長軸方向を北東～南西に向けて列状に構築されており、長軸方向はおおむね等高線に直交する。遺跡南側にある巻川とも直交する方向である。

構築時期について、出土遺物からの推定は不可能であるが（出土遺物があったのはR D 033陥し穴状遺構のみ）、R D 029～031・034～036陥し穴状遺構が竪穴住居に切られることから、縄文時代中期後葉以前の遺構群であることが考えられる。

2 遺 物

今回の調査では、縄文土器、土製品、石器、石製品、須恵器、陶器、錢貨、植物遺存体、動物遺存体が出土した。

ここでは、縄文土器、土製品、石器について若干の検討を行う。

（1）縄 文 土 器

縄文土器は早期中葉から晩期中葉までのものが断続的に出土しているが、主体を占めるのは、中期後葉～末葉のものである。ここでは、Ⅲ・Ⅳ群土器とした中・後期の縄文土器の特徴についてまとめる。

中期後葉

Ⅲ群1類が相当する。小破片が多く、全体の器形が窺える資料は少ないが、文様の特徴から大木9式に比定されると考えられる。器形や文様の特徴が窺える資料として、次のものが挙げられる。1は頸部がやくびれる壺に近い器形の深鉢で、胴部に降沈線による小渦巻文や区画文が描かれる。3・6・98は逆U字状文や区画文を主文様とする。降沈線による逆U字状文が描かれ、磨消により無文部が突出されているもの（3）、沈線による逆U字状文が描かれるもの（6・98）がある。さらに、77・99は沈線による逆U字状文が描かれた後、文様区画内に地文が充填施文されるようになる。これらの土器は、盛岡市柿ノ木平遺跡出土のV～Ⅳ群上器（神原2008）に相当すると考えられる。地文は、L R、R L Rが多用される。

中期末葉

Ⅲ群2類が相当する。27や79にみられるように、沈線による曲線的なモチーフが描かれ、文様区画内に縄文が充填施文されることから、大木10式に比定されると考えられる。小破片が多く、器形を窺える資料は非常に少ないが、27は平線を呈する深鉢で、胴部下半に膨らみをもち、口縁がやや外反しながら開く器形と考えられる。地文はR LとL Rが多用される。これらの土器は、花巻市大迫町観音堂遺跡出土の第Ⅲ群土器（中村1986）に類似すると考えられる。

Ⅲ群3類土器

中期後葉～末葉に伴うと考えられるもののうち、地文のみのもの、もしくは無文のものを一括してⅢ群3類とした。掲載した土器でⅢ群とした99点のうち、Ⅲ群3類に該当するものは50点あり、約5

割を占める。なかには、より細かい縄文原体を用いて施文しているものがあり、それらは後期に属する可能性も考えられるが、今回の分類ではすべて一括した。Ⅲ群土器で用いられている縄文原体には、L、R L、L R、R L R、単離絡条体第1類があるが、L R、R L Rが圧倒的に多く用いられている。縄文以外の地文では、櫛目文を用いるものが1点ある。Ⅲ群1・2類と3類の共伴例についてみてみると、RA001堅穴住居の床面からは大木9式に比定される2とともにR L Rが施文される1が出土している。また、RA006堅穴住居の床面からは、大木9式に比定される77とともに78が出土している。ほかに、RA005堅穴住居の炉の底面からは73が、床面からは75と74が出土している。

後期初頭

IV群が相当し、RA004堅穴住居の1層上位からの出土が多い。器形や文様の特徴を窺える資料として、37や64が挙げられる。37は、口縁に山形状の突起が付き、波状口縁の頂下からは連鎖状隆線が垂下する。地文には沈線による網目状の文様が施文された後、沈線による幾何学的なモチーフが描かれる。64はR Lを縦方向に施文した後、沈線による渦巻や幾何学的なモチーフが描かれる。これらの土器は、盛岡市川日A遺跡（岩文埋2008）や柿ノ木平遺跡（前掲）、滝沢村卯遠坂遺跡（石川1979）出土土器などに類似する。

（2）土 製 品

今回の調査で出土した土製品では、RA004・007堅穴住居から出土した斧状土製品（126）が特筆されよう。筆者が管見した限りでは、盛岡市内の斧状土製品の出土事例として、8遺跡・63点（川目A遺跡6次調査・2点、小山遺跡・1点、柿ノ木平遺跡・28点、上米内遺跡・14点、向館遺跡・1点、大館町遺跡・10点、繁V遺跡・5点、繁Ⅲ遺跡・2点）を確認している。いずれも縄文時代中期中葉～末葉を主体とする遺跡からの出土である。堅穴住居や土坑、掘立柱建物を構成する柱穴の埋土、遺物包含層などから、ほとんどが破損した状態で出土している。完形での出土は柿ノ木平遺跡出土の5点のみである。このほかに、岩手町秋浦I遺跡では、堅穴住居の床上から出土した2点が接合後に完形となった例が見られる。また、今回出土した斧状土製品は、頂部に凹みがあり二股状に分かれような形態をしているが、これに類似するものは柿ノ木平遺跡などで出土している。

（3）石 器

製作時期の帰属が可能な住居内床面等出土の剥片石器に限ってその石材種と形態的・技術的特徴をまとめる。

石器材

すべて北上山地産の頁岩が用いられている。

石器の形態的特徴

RA003および004堅穴住居で床面から1点ずつ（137・167）、RA003堅穴住居内のデボから1点（139）出土している。いずれも凹基無基である。長さ：幅比は16～12：1で、基部抉りの深さは長さの1/5以下と浅い。3点だけではあるが、その形態は近似しており、縄文時代中期後葉～末葉の石器の特徴を示す資料といえる。

接合資料と石核作業面剥片から看取される剥離方法

RA003堅穴住居内のデボから接合資料が（140～145）、RA004堅穴住居の床面石器集中から石核作業面剥片2点（168・169）が出土している。これらの形態は、例えば147・171の削器や177の搔器と大きさや厚さの面で大差なく、いずれもトゥールの素材剥片とみてよいだろう。石核は出土してい

ないものの、これらの存在はそれぞれの場所で素材剥片剥離作業が行われていた可能性を強く示唆するものである。逆に、石核の不在からは、素材剥片剥離後の外部への持ち出しが推測される。

これら資料から看取される剥片剥離方法の共通性として、次の2点が挙げられる。一つは、すべて通常剥離であること。もう一つは、169が打面2箇所（約90°転移）である以外、すべて打面が単一であることである。当該期における北上山地産の頁岩に対する剥離方法の一傾向として、指摘しておきたい。

デボの性格

R A003堅穴住居南壁際で確認された。炉の東側にあたる地点である。レベル的には床面ではなく埋土中にあたるため、R A003堅穴住居機能時のものか、廃棄以後のものか断言できないが、縄文時代中期後葉～末葉と言って差し支えない。また、本遺構の性格は、前述のように石器トゥール素材剥片を複数含むことからその貯蔵が目的であったと見てよい。当該期に同様の現象が多いことは以前から指摘されているところである（阿部2003）。その性格については様々な見解があるが、本遺構については石器トゥール素材剥片貯蔵施設といえる。

3 選地について—今後の課題も含めて—

これまでの第1～3次調査成果から、遺跡全体における縄文時代中～晩期の時期ごとの選地の違いについて、簡単にまとめてみたい。

推定される戸仲遺跡の範囲は、戸中山から流れる2つの沢と篠川によって形成された小規模な低位段丘上の、篠川右岸からその北東側の丘陵麓までの東西約500m、南北約300mの範囲と考えられる。

今回調査を行った第3次調査区は遺跡の南東側にあたり、戸中山の南東から流れくる沢と篠川の合流地点付近に位置する。南北向きの緩斜面である調査区上段部分からは縄文時代中期後葉～末葉の堅穴住居が複数検出され、この付近には当該期に集落が存在していたことが明らかとなった。同付近の標高は189.8～190.5m前後である。なお、第3次調査区の北東側、国道106号北側の道路のそばには小さな祠が立っているが、「盛岡市史」によると、かつて、岩手大学の草間俊一教授が、この祠付近の畠地で大木9式に比定される深鉢や石皿を表採したとされている（草間1958）。よって、中期後葉～末葉の遺構は、第3次調査区のさらに北東側に広がっていると考えられる。

第1・2次調査区は、遺跡の北西側にある。戸中山の南西から流れる小さな沢が、ちょうど第1次調査A区と第2次調査区の間を通り、篠川に合流する。この沢を挟んで、第1次調査A区のある西側（篠川下流域）と第2次調査区のある東側（篠川上流域）では地形が異なる。

第1次調査B区・第2次調査区は、第1次調査A区側より一段高い段丘となっており、標高189.2～189.7m前後をはかる。この段丘面からは、後期後葉～晩期中葉を主体とした遺物が出土するとともに、配石遺構、土坑、柱穴状土坑などが検出されている。また、第1次調査B区の東側では、大木9式に比定されるし器が少量出土しているとともに、この時期と考えられる焼土遺構が検出されていることから、この時期の集落の縁辺部であった可能性が考えられる。

第1次調査A区側（篠川下流域）は一段低い段丘となっており、標高は188.6m前後である。近年まで洪水の影響を大きく受けた箇所で、昭和40年代以降に実施された国道の改良工事に伴って盛土造成が行われ、現在のような地形になったという。第1次調査A区では、これを裏付けるように、厚く盛られた土砂や、縄文時代後期以前の洪水堆積層と考えられる、にぶい黄褐色火山灰層（十和田中振テフラ）が確認されている。この一段低い段丘の切れ目にあたるA区東端では、廃棄されたと考えら

れる多量の晩期中葉の遺物が出土している。

以上の調査結果からは、以下の事が指摘できる。

- ① 標高値からみた場合、中期から晩期へ時代が下るにつれて、低位部への進出があったことが窺える。ただし、段丘レベルでの大きな動きではなく、あくまで微地形レベルでの事象である。
- ② 俯瞰的な位置関係でみた場合、次の2点が指摘できる。

A：中期後～末葉集落範囲の縁辺は築川に極めて近接しており、それは第1次調査B区・第2次調査区の後期後葉～晩期中葉遺構群よりも際立っている。

B：中期後～末葉遺構群と後期後葉～晩期中葉遺構群との重複範囲は極めて少なく、その選地に差異が看取される。これには、戸伸山南西から流下する沢が関係しているものと考えられる。

以上のように、本遺跡では時期による選地の特徴が複数の視点で確認された。これが何を示すものなのか、少し考えてみたい。

まず、①に関して、段丘レベルでの大きな変遷についてはごく一般的に指摘されるところであるが、微地形レベルでの話はその形成過程で受けた様々な要因の影響比率が極めて大きく、より慎重に考えなくてはならない。同列には扱えない問題であり、よって、両者が同傾向を示すとは必ずしもいえない。

本遺跡のように水平方向への開析が弱く、段丘面の発達に乏しい中・小河川流域に立地する遺跡のばあい、基本的に選地変遷を追うことは難しい。すなわち、このような地形に立地する遺跡にあっては、選地の選択肢の乏しさから各時代の遺構が重複する傾向が多いためである。しかしながら、②に指摘したとおり、本遺跡においては、遺跡範囲の一部ではあるものの、時期ごとに明瞭な選地の違いが確認された。①の事象だけを取り上げれば、偶然の結果という可能性も否定できないが、②からそれは払拭されよう。①の事象は、②の事象と組み合わせたとき初めて具体的・現実的な可能性を帯びるのである。つまり、本遺跡に関しては、明らかに中期と後～晩期で選地場所が異なっており、そこには標高差が関係していると見て取ることが可能である。単純に②-Aをみれば、古→新の順に河川際へ近づく=標高値高位→低位へ進出するという「実理」から外れているようであるが、事はそれほど単純ではない。中期後～末葉集落範囲は確かに河川間際であるが、標高値は逆に高いのである。発掘調査前、同区域が河川間際にあることから、ここに当該期の集落が形成されていようとは、調査担当者も含め、誰も思っていないかったようである。結果的に、この事象も選地における標高値の重要性を示す結果と捉えられる。

なお、このような微地形をめぐる事象は、本遺跡のような立地条件であるからこそ検討可能となるのではないか、とも考えられる。

以上のように、本遺跡のような段丘発達の弱い（細かい）中・小河川流域に立地する遺跡における選地行為に関しては、様々な微細要因が複雑に絡み合い、各時期における選地行為がなされたものと推定される説であるが、その1つに標高値が関係しているという基本的な要因をこのような立地環境においても確認することができた。この手の課題は、対象が「ミクロ」であるからこそ、基本的かつ具体的な要因を抽出できるのではないかと考える。今後の野外調査時における視点として、微地形の観察と検討がさらに重要なよう。

引用・参考文献

- 相原淳一 1999 「仙台湾周辺（早期～中期）」『縄文時代』第10号第1分Ⅲ 縄文時代文化研究会
- 相原淳一 2005 「宮城県における板式炉と集落の様相」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料』
日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会
- 阿部勝則 2003 「岩手県における縄文時代中期の調査片集中遺物について」『紀要XII』
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 新井達哉 2005 「福島県における板式炉と集落の様相～中通り地方の集落について～」
『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料』 日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会
- 石川長喜ほか 1979 「刈込坂遺跡」『東北縦貫自動車道開通埋蔵文化財調査報告書—1—』 岩手県文化財調査報告書第31集
岩手県教育委員会
- 今村啓爾 1973 「霧ヶ丘遺跡の土壤群に関する考察」『霧ヶ丘』 霧ヶ丘遺跡調査団
- 今村啓爾 2004 「箱根南西山麓先土器時代陥穴の使用方法」『考古学研究』第51巻第1号 考古学研究会
- 岩手県埋蔵文化財センター 1980 「御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書〔つなぎⅢ、つなぎⅣ、上野、南の又、堂ヶ沢Ⅰ・II遺跡〕」 岩手県埋蔵文化センター文化財調査報告書第13集
- 岩手県埋蔵文化財センター 1982 「御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書（昭和48年度・49年度）」
岩手県埋蔵文化センター文化財調査報告書第30集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 「向館遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第206集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 「上米内遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第220集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 「長谷貝塚発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第434集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 「上野場3遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第477集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 「黒古屋遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第499集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 「平成18年度発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第505集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 「戸仲遺跡第1次・宇曾沢遺跡第2次発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第519集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 「袋帯遺跡発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第522集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 「平成19年度発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009 「川日A遺跡第6次発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第525集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009 「平成20年度発掘調査報告書」
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第546集
- 大追町教育委員会 1986 「鏡音堂遺跡—第1次～6次発掘調査報告書—」 大追町埋蔵文化財報告第11集
- 小保内裕之 2008 「陸奥人木系土器（楕円式・最花式・大木10式併行土器）」『絶観 縄文土器』 (株)アム・プロモーション

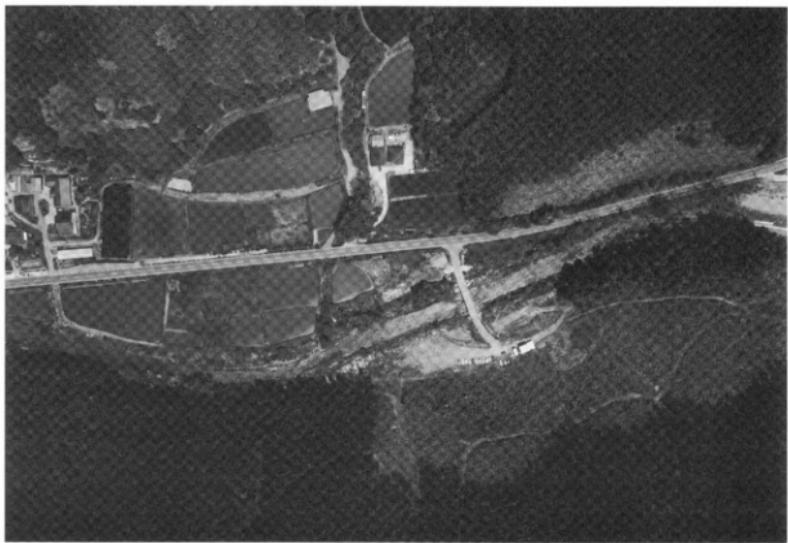
- 菅野智則 2006 「北上川流域における中期後半集落の研究—炉構造における住居跡形態の差異—」
『宮城考古学』第8号 宮城考古学会
- 菅野智則 2007a 「北上川流域における縄文集落の構造—複式炉と構成単位—」『日中交流の考古学』 同成社
- 菅野智則 2007b 「東北地方縄文時代中期後半土器の研究—器形変化に属する属性分析—」『考古学叢書』 六一書房
- 菅野智則 2007c 「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性」『博古研究』第34号 博古研究会
- 菅野智則 2008 「北上川流域の縄文社会—立地と分布からみた集落の変化—」『東北縄文社会の歴史動態の研究—河川流域における縄文集落の考古学的研究—』 東北芸術工科大学東北文化研究センター
- 北上市教育委員会 1988・1989 「南部工業団地内遺跡1」 北上市埋蔵文化財調査報告書第9集
- 奥野義一 1968 「大木式土器理解のために(Ⅱ)」『考古学ジャーナル』 No.16
- 奥野義一 1996 「山内清男先生供与の大木式土器写真セットについて」『御宿点詠』 山内先生没後25年記念論集刊行会
- 草間俊一 1954 「岩手県川田遺跡調査報告」『岩手大学学芸学部研究年報』第7巻 岩手大学学芸学部学年
- 草間俊一 1955 「岩手県川田遺跡調査報告(第二報)」『岩手大学学芸学部研究年報』第9巻 岩手大学学芸学部学年
- 草間俊一 1978 「先史期『盛岡市史』復刻版第一巻 盛岡市
- 椎谷常正 1986 「門前式土器の検討」『岩手県立博物館研究報告』第4号 岩手県立博物館
- 駒木野竹寛 2005 「複式炉の地域的諸様相 岩手」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料』
- 日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会
- 杉山武 1989 「白座遺跡」「白座遺跡・町場遺跡(3)発掘調査報告書」青森県南上市教育委員会
- 村田壯一 1987 「陥し穴状遺構の形態と時期について」『紀要』VII (附)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集
- 瀧澤二郎 2008 「戸仲遺跡 第2次調査」『平成19年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集
- 茅野嘉雄 2008 「円筒下隔式土器」『絶観 縄文土器』(株)アム・プロモーション
- 千葉孝雄 1995 「上八木田I 遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団文化財調査報告書第227集
- 津崎知弘 1996 「盛岡市川田C遺跡」「第16回岩手考古学会研究大会発表資料」岩手考古学会
- 谷口康治ほか 2007 「下野原遺跡 奥多摩町海沢チャート原産地における縄文時代集落の発掘調査」下野原遺跡調査会
- 中村真幸 1982 「「複式炉」について—岩手県を中心として—」『考古風土記』第7号
- 丹羽茂 1981 「大木式土器」「縄文文化の研究」第4巻 雄山閣出版
- 丹羽茂 1989 「中期大木式土器様式」「縄文土器大観」 小学館
- 平瀬亮介・菅野智則・須藤隆 2006 「東北大学文学研究科 考古学講義室所蔵大木開貝塚出土基準資料—山内清男攝年基準資料一」『東北大学総合学術博物館紀要』第6号 東北大学総合博物館
- 早瀬亮介 2008 「前期大木式土器」「絶観 縄文土器」(株)アム・プロモーション
- 平野祐 2007 「東北地方南部における縄文時代陥し穴の形態と特色」『紀要』XXVI (附)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 星雅之・李野崇雄 2006 「十和田中振テフラからみた円筒下層a式土器成立期の土器様相」「三内丸山遺跡の生態系史」植生史研究特別第2号 日本植生史学会
- 宮城県教育委員会 1978 「上深沢遺跡 東北自動車道遺跡発掘調査報告書！」宮城県文化財調査報告書第52集
- 宮城県教育委員会 1987 「七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書III 小梁川遺跡」宮城県文化財調査報告書第122集
- 宮城県教育委員会 1988 「大梁川遺跡」「七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書IV」宮城県文化財調査報告書第126集
- 盛岡市教育委員会 1983 「大館遺跡群 大新町遺跡 一帯昭和57年度発掘調査報告一」
- 盛岡市教育委員会 1983 「柿ノ木平遺跡—昭和59年度発掘調査報告一」
- 盛岡市教育委員会 1984 「繁遺跡—昭和58年度発掘調査報告一」
- 盛岡市教育委員会 1989 「小山遺跡群—昭和63年度発掘調査報告書一」
- 盛岡市教育委員会 1995 「小屋塚遺跡—第1～27次発掘調査報告書一」

- 盛岡市教育委員会 1995 「大葛遺跡 第1次発掘調査報告書」
- 盛岡市教育委員会 1997 「大館遺跡群 大館町遺跡—平成6・7年度発掘調査概報—」
- 盛岡市教育委員会 2000 「盛岡市内遺跡群—平成11年度発掘調査概報—」
- 盛岡市教育委員会 2003 「盛岡市内遺跡群—平成14年度発掘調査概報—」
- 盛岡市教育委員会 2008 「薬師社脇遺跡」
- 盛岡市教育委員会 2008 「柿ノ木平遺跡・堀根遺跡」第1～5分冊
- 盛岡市教育委員会 2009 「川日A遺跡」
- 盛岡市教育委員会 2009 「盛岡市遺跡地図（2008年版）」
- 森 幸彦 2008 「大木9・10式土器」「絶対 繩文土器」(株)アム・プロモーション
- 八木勝枝 2002 「5-D土器片門板」「元屋敷遺跡Ⅱ（上段）奥三面ダム周辺遺跡発掘調査報告書XIV」
朝日村文化財報告書第22集 新潟県朝日村教育委員会
- 八木勝枝ほか 2006 「大株遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団文化財調査報告書第481集
- 山内清男 1937 「繩紋土器型式の大別と細別」『先史考古学』第1巻第1号
- 山内清男 1979 「日本先史土器の繩紋」 先史考古学会

写 真 図 版



調査区遠景と周辺の地形（東から）



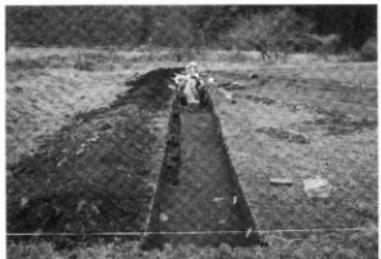
調査区遠景（南西から）



調査前風景（南から）



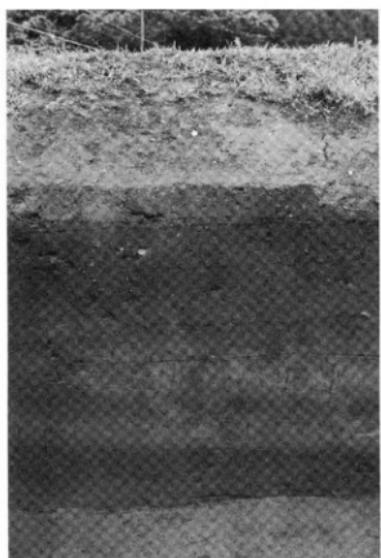
調査前風景（南西から）



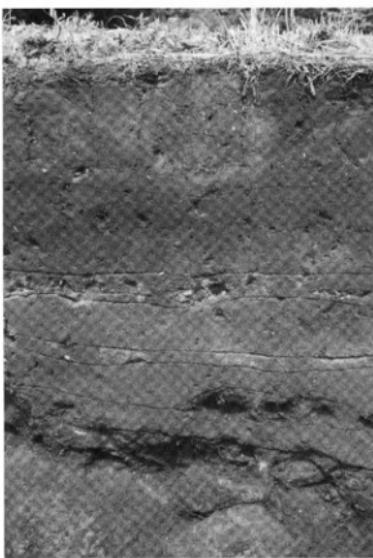
試掘風景（北東から）



試掘風景（南から）



基本層序上段（南東から）

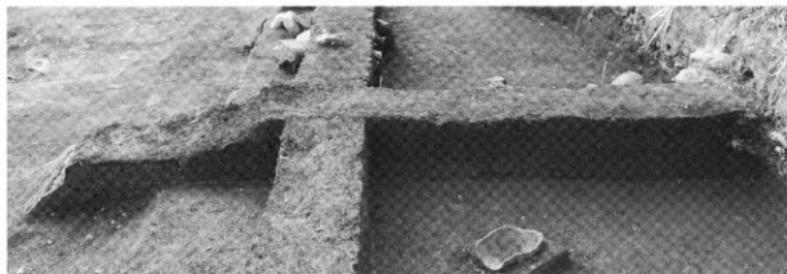


基本層序下段（南東から）

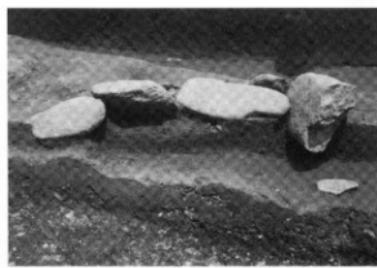
写真図版2 調査前風景、試掘風景、基本層序



平面（西から）



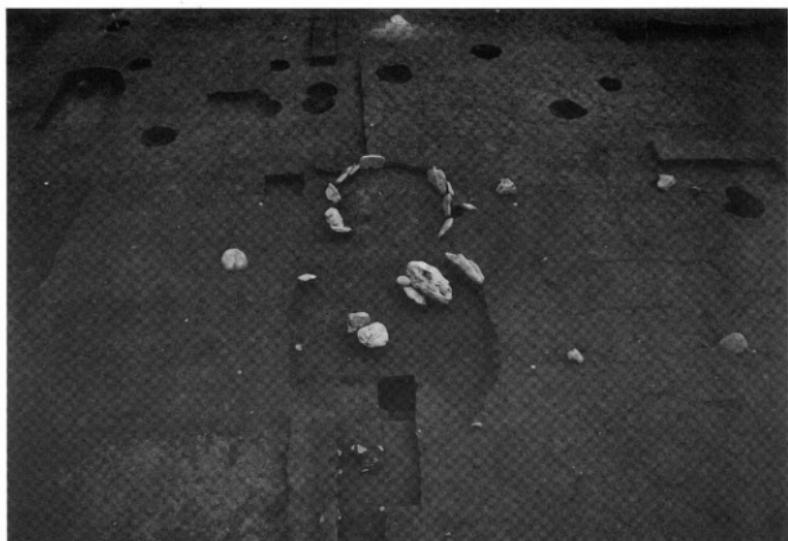
断面（南東から）



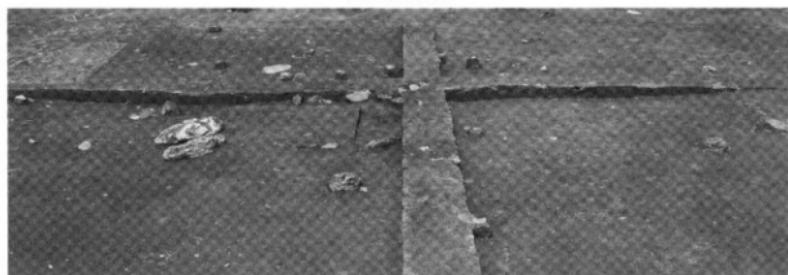
炉断面（南西から）



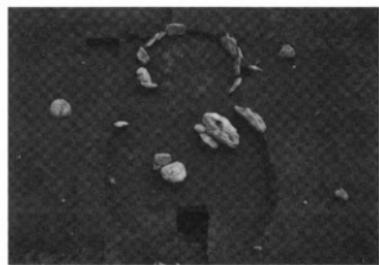
2層出土遺物（3）（南から）



平面（南西から）



断面（北東から）



炉平面（南西から）



炉断面（北東から）

写真図版 4 RA002竪穴住居



平面（南東から）



断面（南西から）



断面（東から）



断面（北東から）

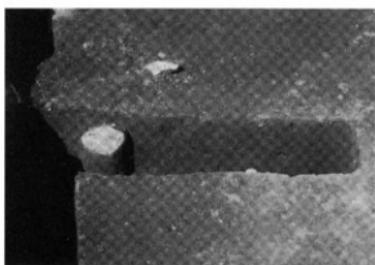
写真図版5 RA003竪穴住居（1）



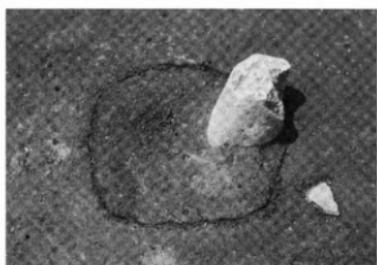
遺物出土状況（南から）



焼土断面（南東から）



焼土断面（南西から）

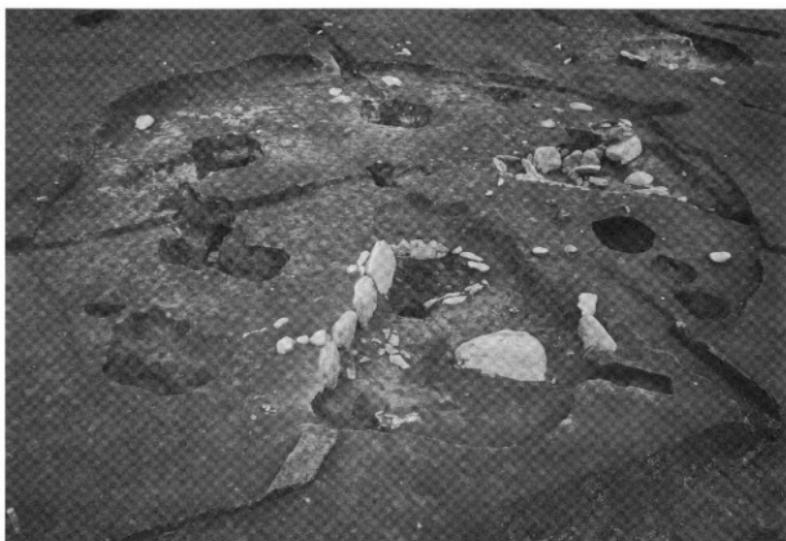


石棒254検出状況（東から）



剥片集中遺構（北から）

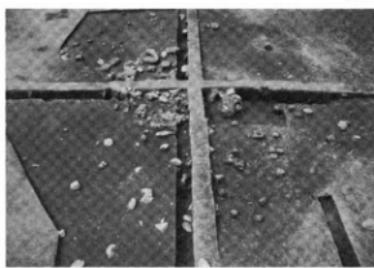
写真図版6 RA003竪穴住居（2）



平面（西から）



断面（南東から）



遺物出土状況埋土上半（南東から）

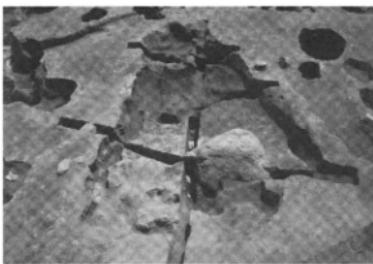


QS埋土上半（南東から）

写真図版7 RA004竪穴住居（1）



炉平面（西から）



炉掘り方平面（西から）



炉断面a-a'（西から）



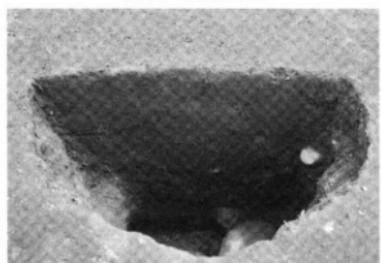
炉断面c-c'（西から）



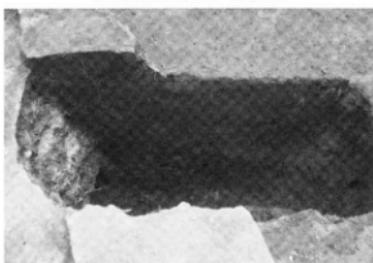
炉（古）平面（西から）



炉（古）掘り方平面（西から）



P7断面（南西から）

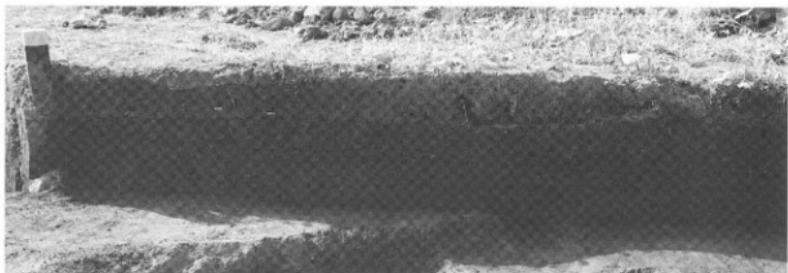


P9断面（南西から）

写真図版 8 RA004竪穴住居（2）



平面（南西から）



断面（南から）



炉平面（南西から）

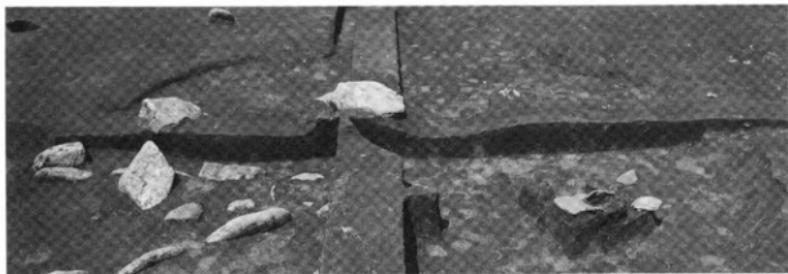


炉b-b'断面（南西から）

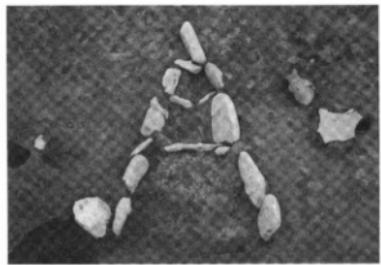
写真図版9 RA005竪穴住居



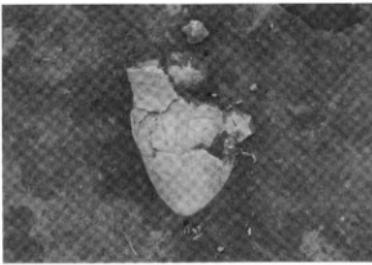
平面（南西から）



断面（南東から）



炉平面（南西から）



床面出土遺物77（南西から）

写真図版10 RA006竪穴住居



平面（南から）



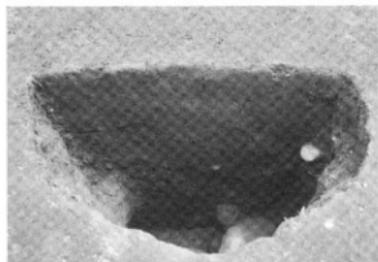
炉平面（南から）



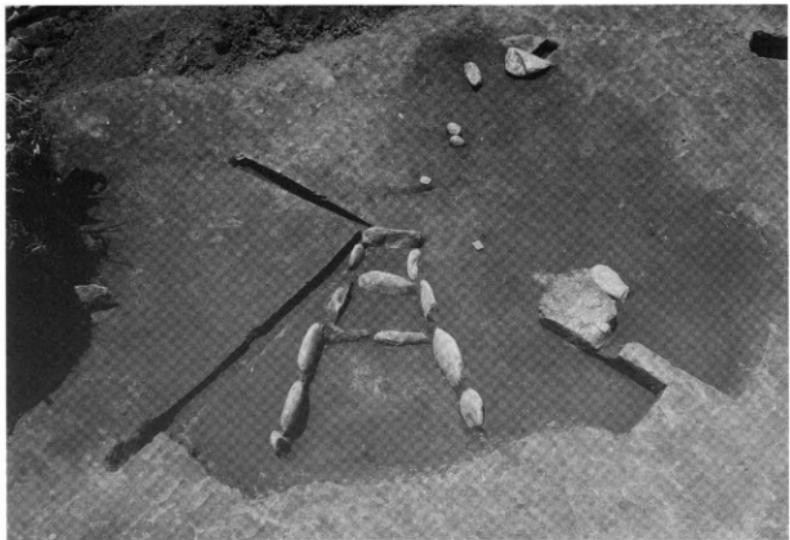
炉第2石組部断面（西から）



炉掘り方断面（南から）



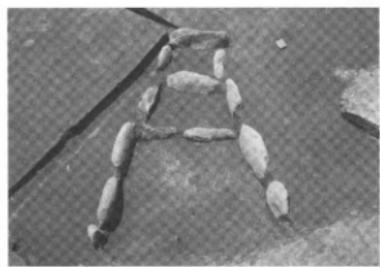
P7断面（南西から）



平面（東から）



断面（東から）

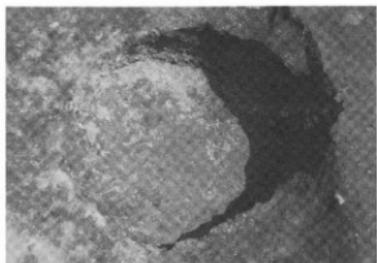


炉平面（東から）

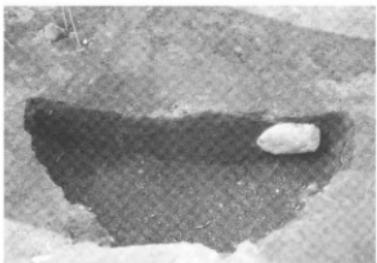


炉第1石組部断面（南から）

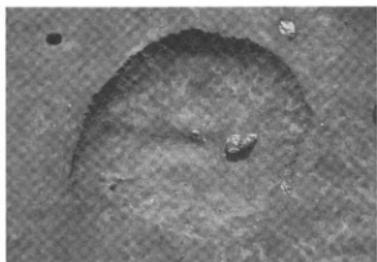
写真図版12 RA008竪穴住居



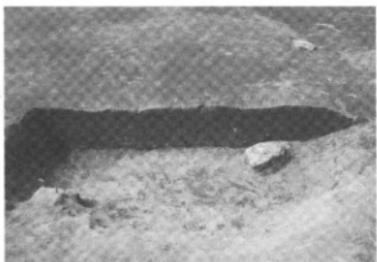
RD013平面（南西から）



RD013断面（南東から）



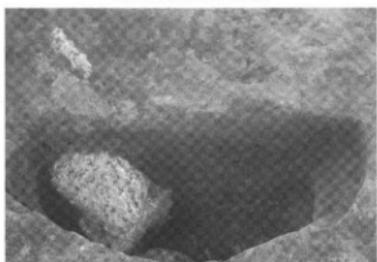
RD014平面（北東から）



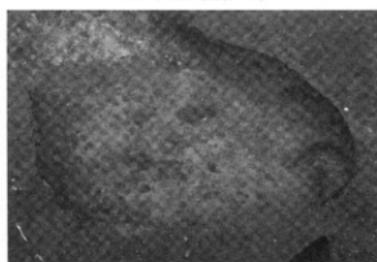
RD014断面（北東から）



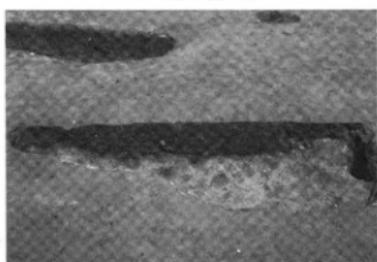
RD015平面（南東から）



RD015断面（南から）

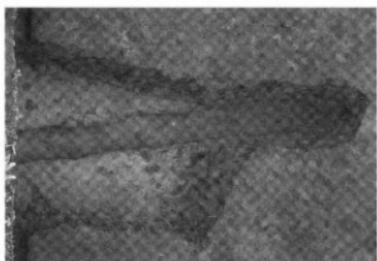


RD016平面（南西から）

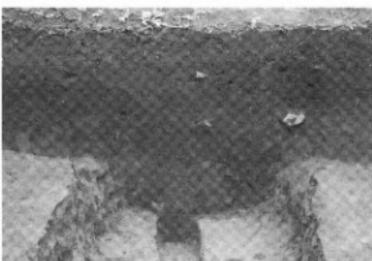


RD016断面（南西から）

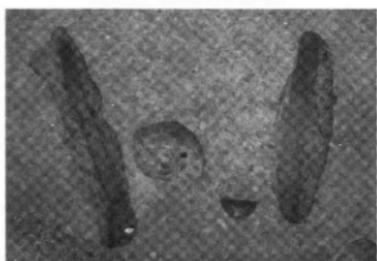
写真図版13 RD013～016土坑



RD017・025平面（南東から）



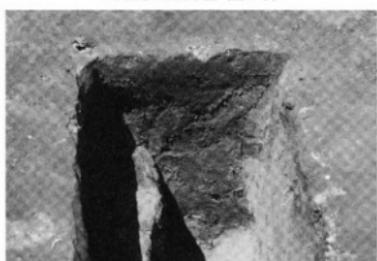
RD017・025断面（北東から）



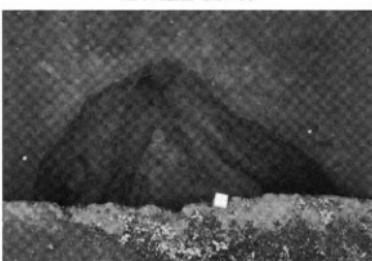
RD018・019平面（南から）



RD018断面（南から）



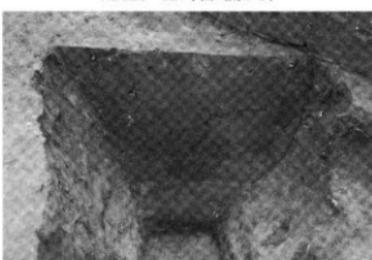
RD019断面（南東から）



RD020・021平面（南から）

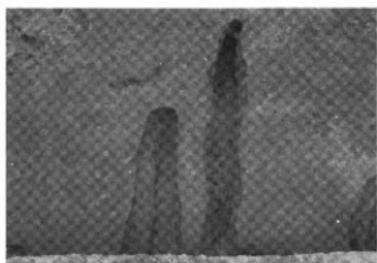


RD020断面（北西から）

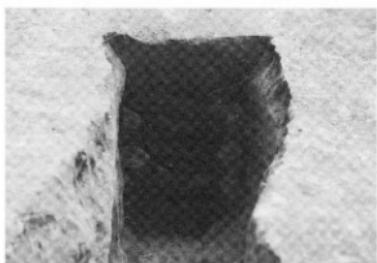


RD021断面（北東から）

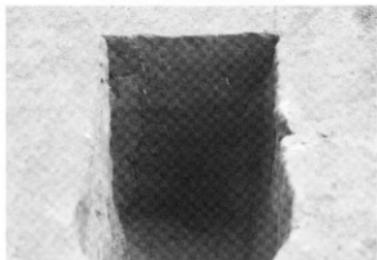
写真図版14 RD017土坑、RD018～021・025陥し穴状遺構



RD022・023平面（南西から）



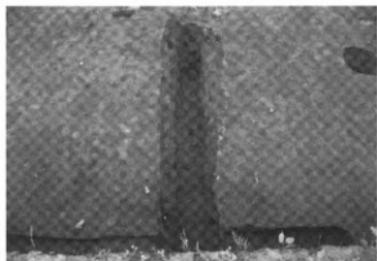
RD022断面（南西から）



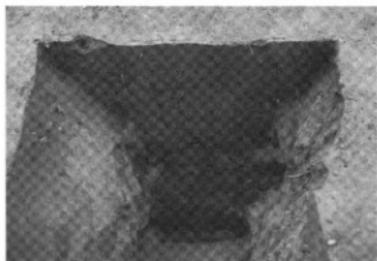
RD023断面（南西から）



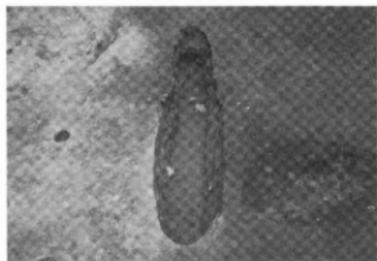
現地公開風景



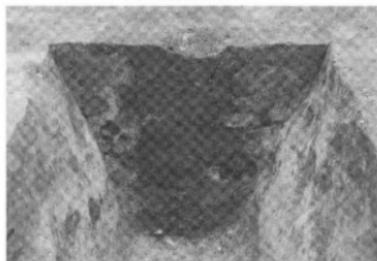
RD024平面（南西から）



RD024断面（北から）

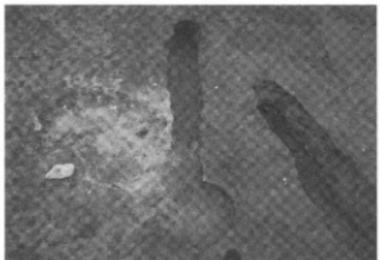


RD026平面（南東から）

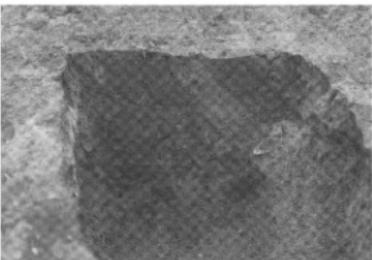


RD026断面（南西から）

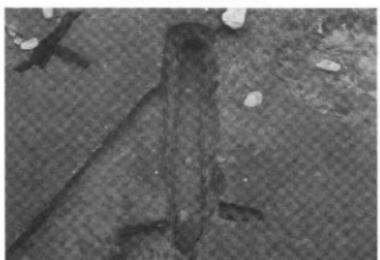
写真図版15 RD022～024・026陥し穴状遺構



RD027平面（南西から）



RD027断面（南西から）



RD028平面（南西から）



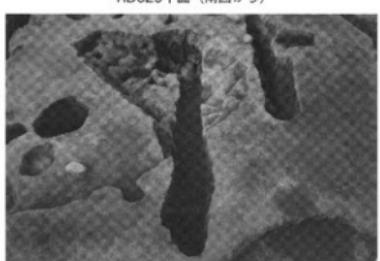
RD028断面（南西から）



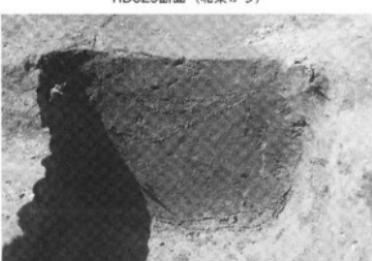
RD029平面（南西から）



RD029断面（北東から）

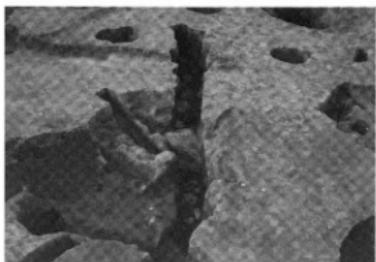


RD030平面（南西から）

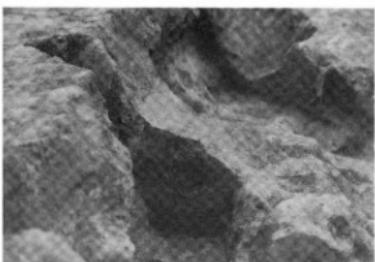


RD030断面（南西から）

写真図版16 RD027～030陥し穴状遺構



RD031平面（南西から）



RD031断面（北東から）



RD032平面（南西から）



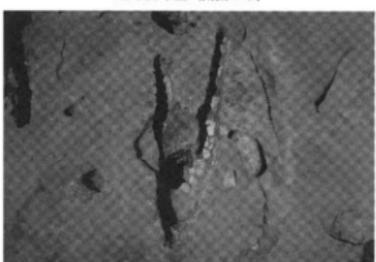
RD032断面（南西から）



RD033平面（南西から）



RD033断面（南西から）



RD034・035平面（南から）



RD034断面（北東から）

写真図版17 RD031～035陥し穴状遺構



RD035断面（北から）



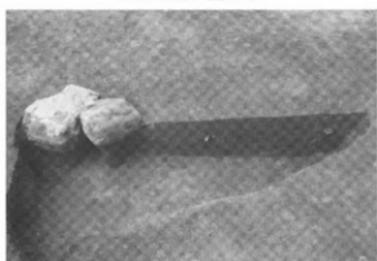
RD036平面（南から）



RD036断面（南から）



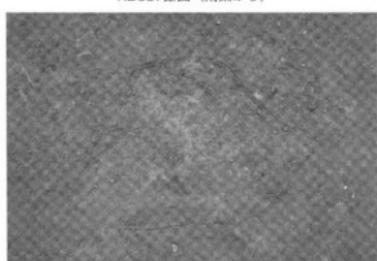
RD037検出状況（南東から）



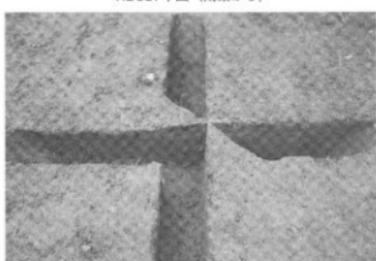
RD037断面（南東から）



RD037平面（南東から）

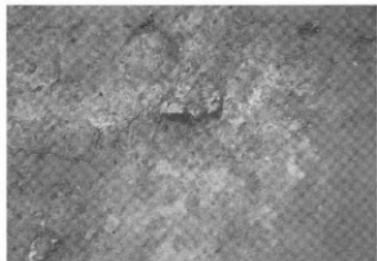


RF009検出状況（北東から）

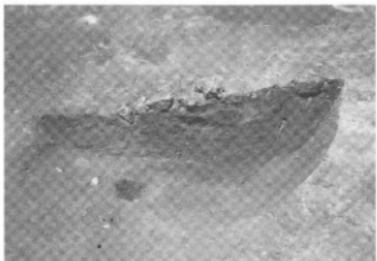


RF009断面（南東から）

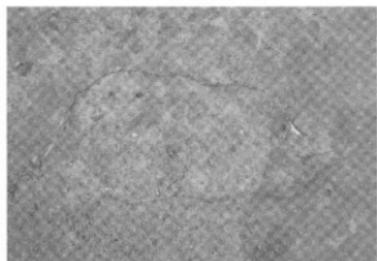
写真図版18 RD035・036陥し穴状遺構、RD037土坑、RF009焼土遺構



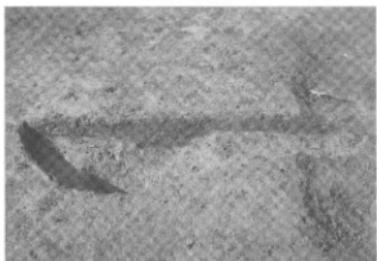
RF010平面（南西から）



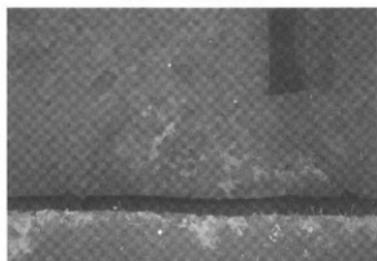
RF010断面（南西から）



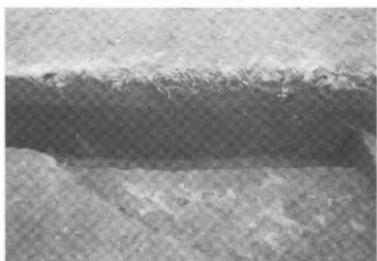
RF011平面（南西から）



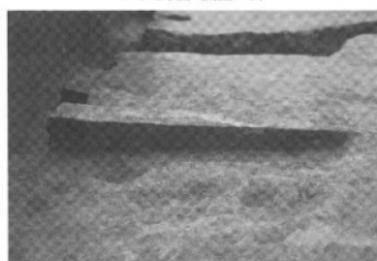
RF011断面（南西から）



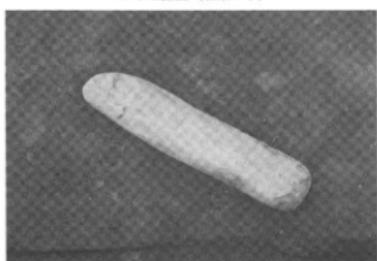
RF012平面（南西から）



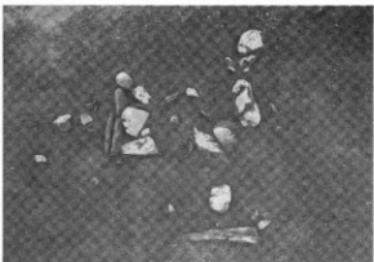
RF012断面（北東から）



RF012断面（南東から）



RF012石棒260出土状況（南西から）



RH011検出状況 (南から)



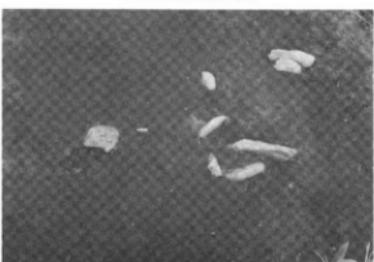
RH011断面 (南から)



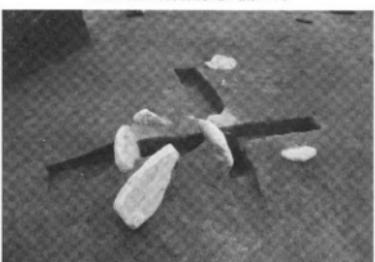
RH011断面 (西から)



RH011掘り方完掘状態 (南から)



RH012検出状況 (北西から)



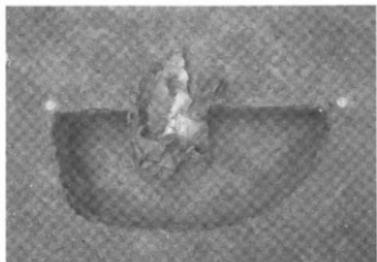
RH012断面 (南から)



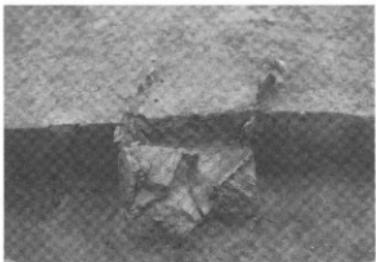
RH012断面 (東から)



RH013平面 (南から)



RP002平面（東から）



RP002断面（東から）



RG001平面（南東から）



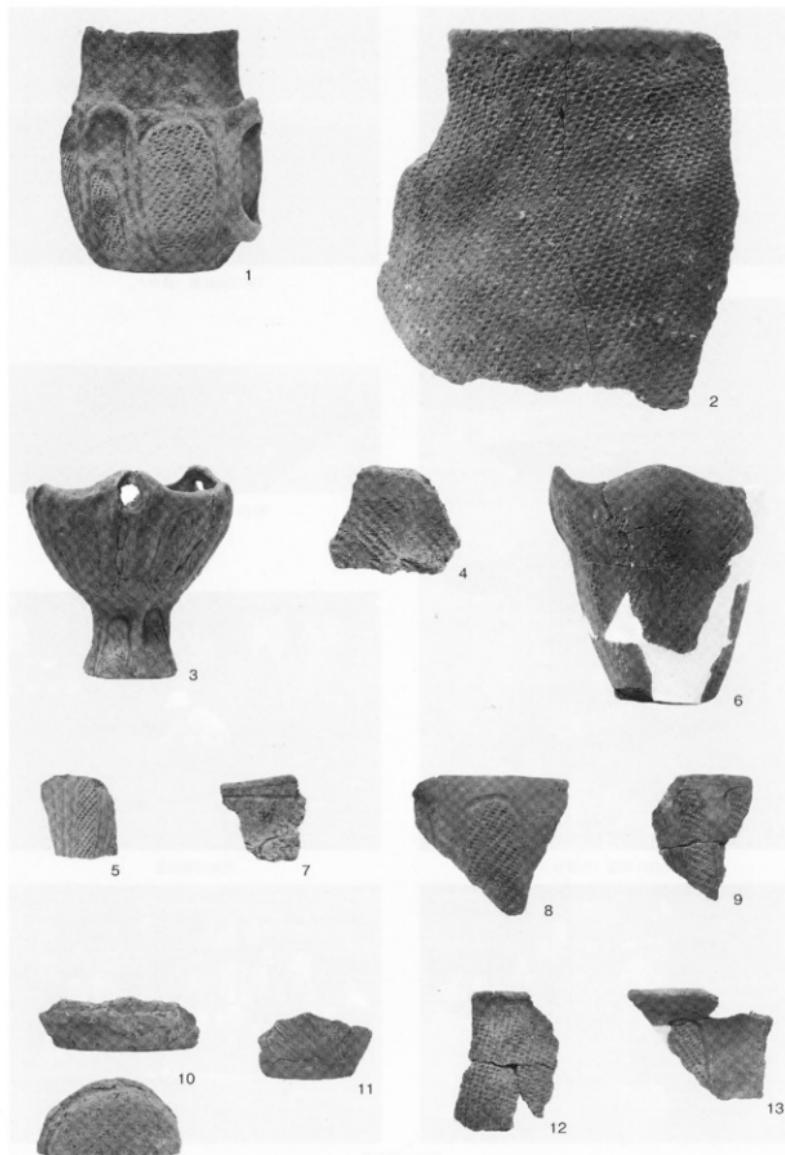
RG001断面（北西から）



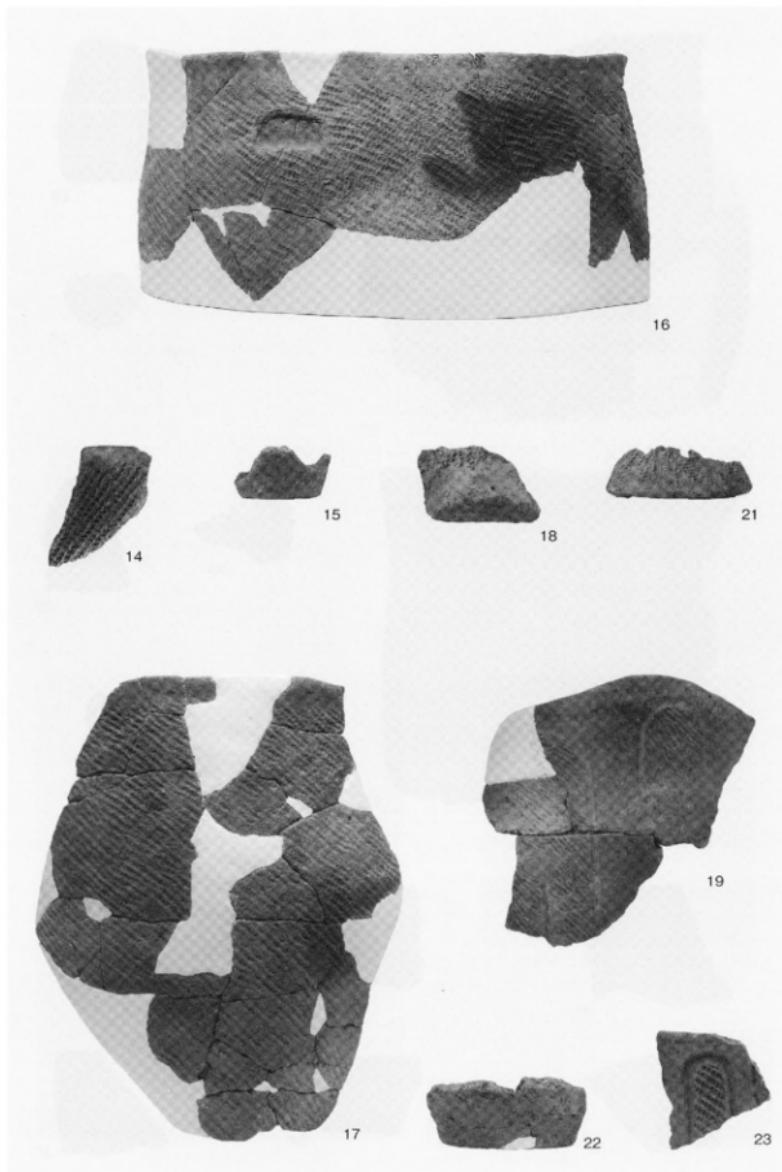
現地公開風景



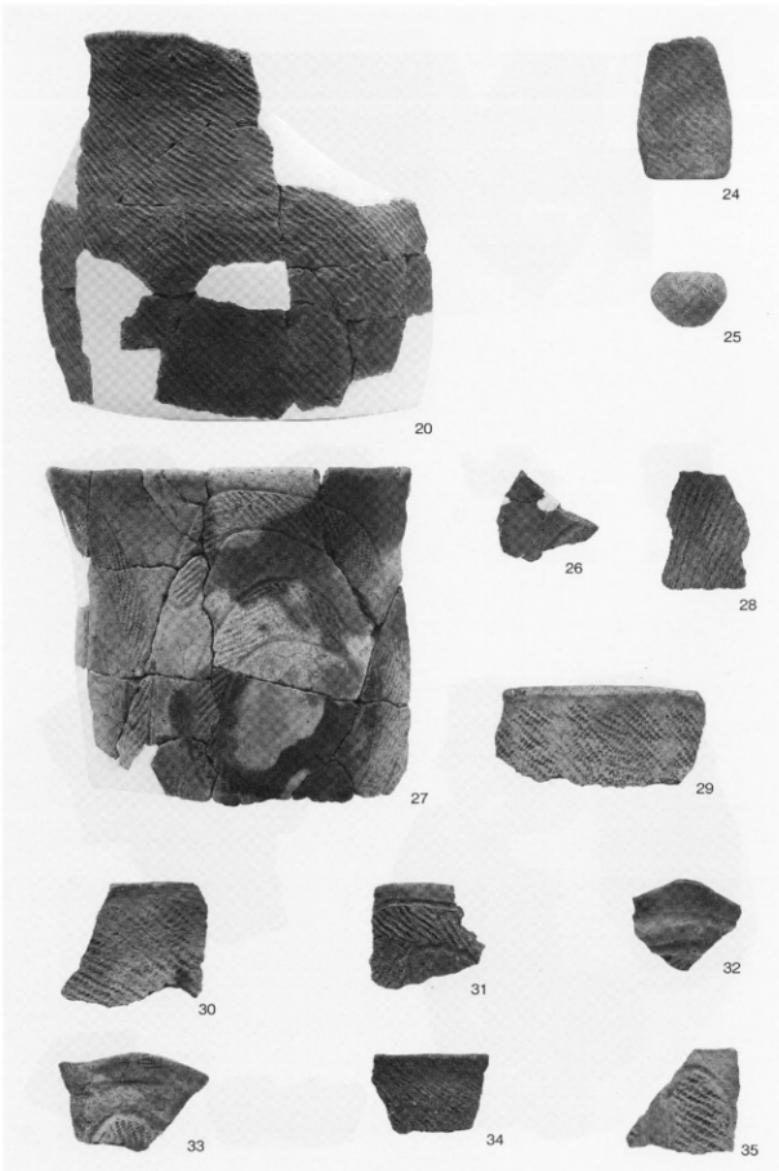
写真図版21 RP002埋設土器遺構、RG001溝、現地公開風景



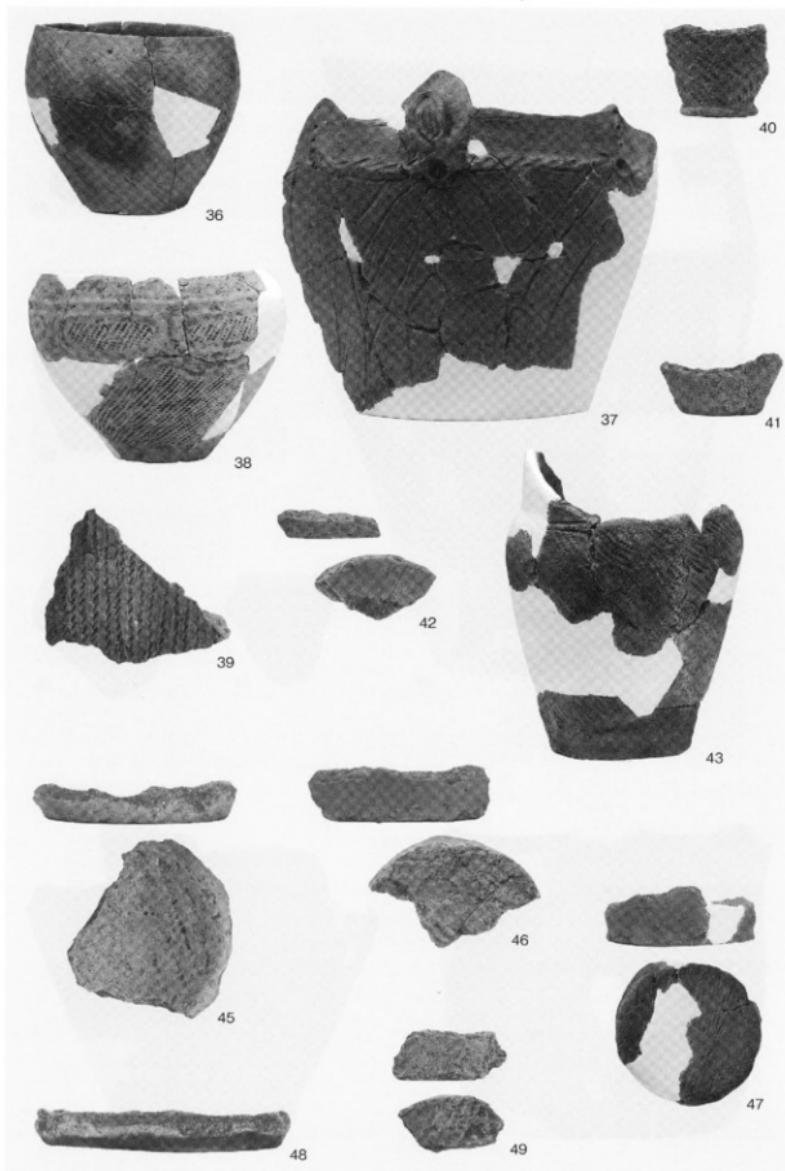
写真図版22 遺構内出土土器 (1)



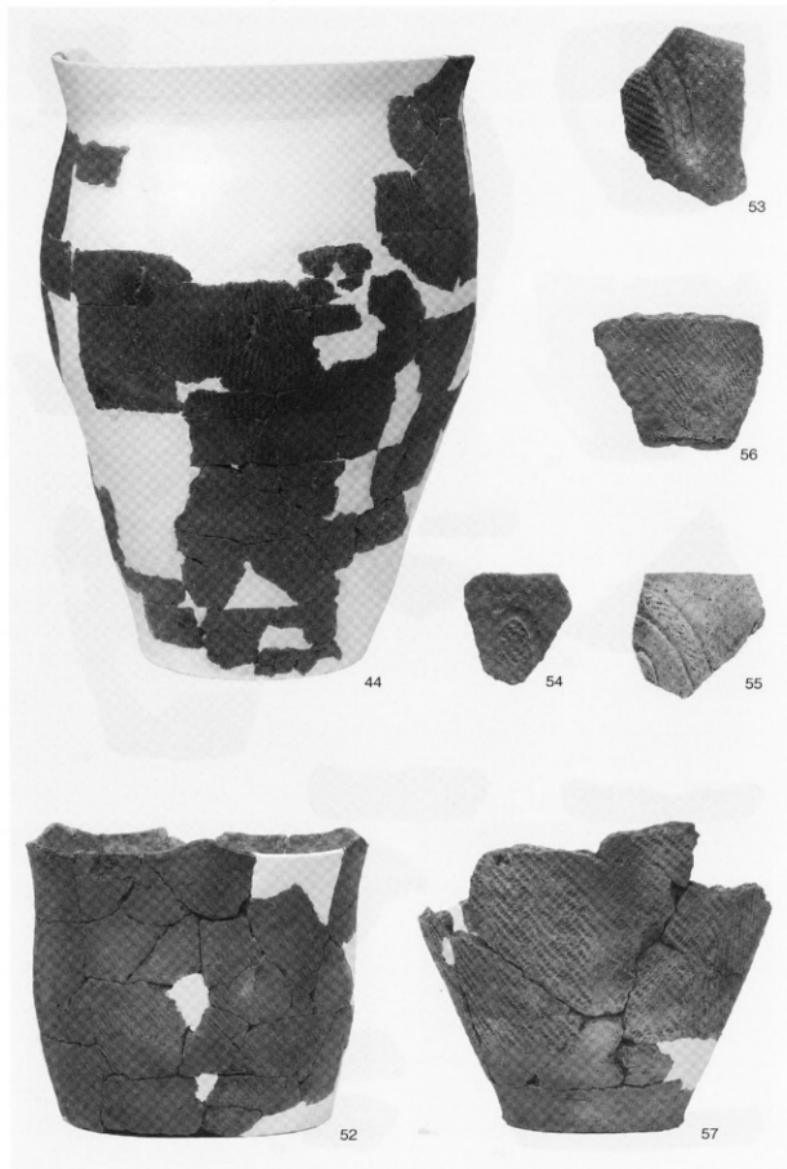
写真図版23 遺構内出土土器 (2)



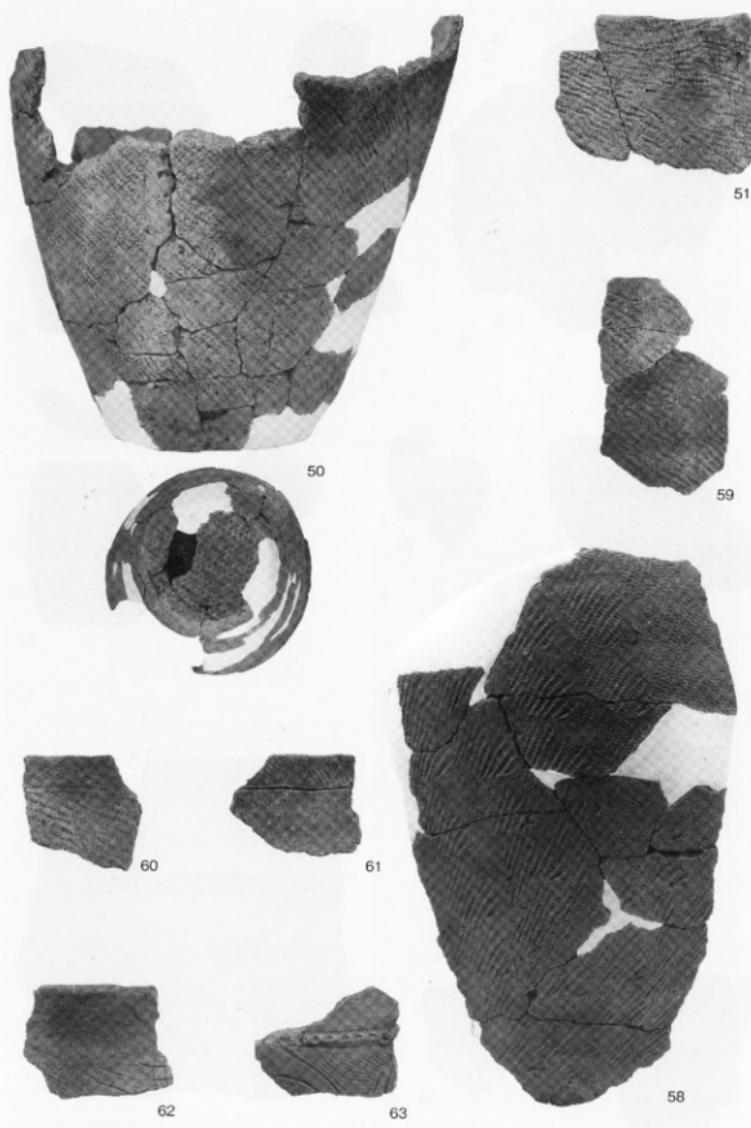
写真図版24 遺構内出土土器 (3)



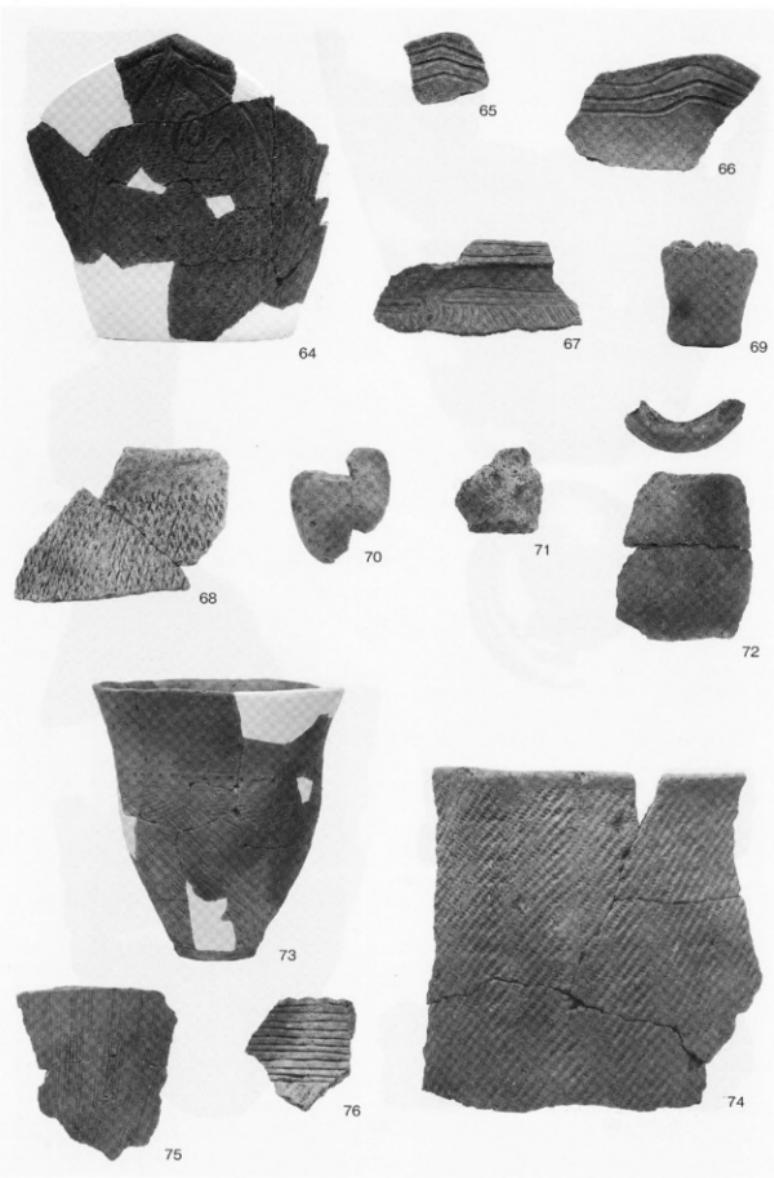
写真図版25 遺構内出土土器 (4)



写真図版26 遺構内出土土器（5）



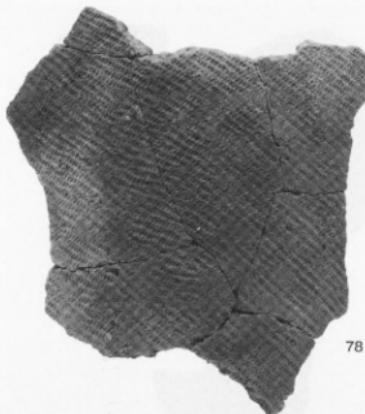
写真図版27 遺構内出土土器 (6)



写真図版28 遺構内出土土器 (7)



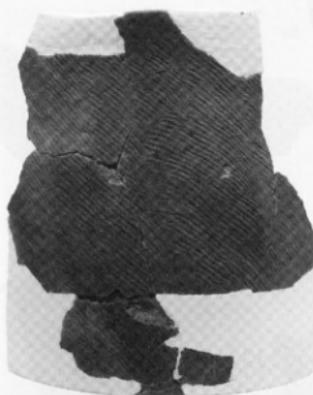
77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88

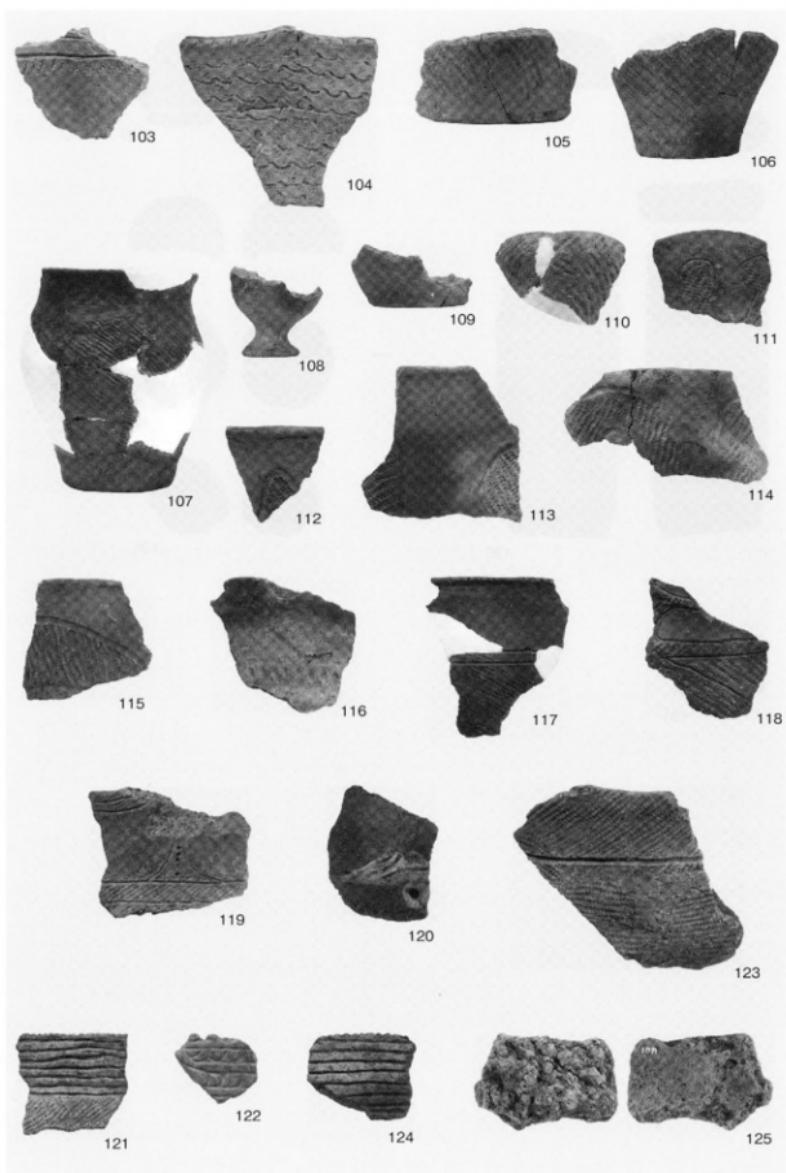


89

写真図版29 遺構内出土土器 (8)



写真図版30 遺構内出土土器 (9)



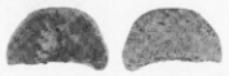
写真図版31 遺構外出土土器



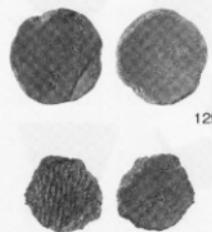
126



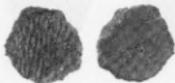
127



128



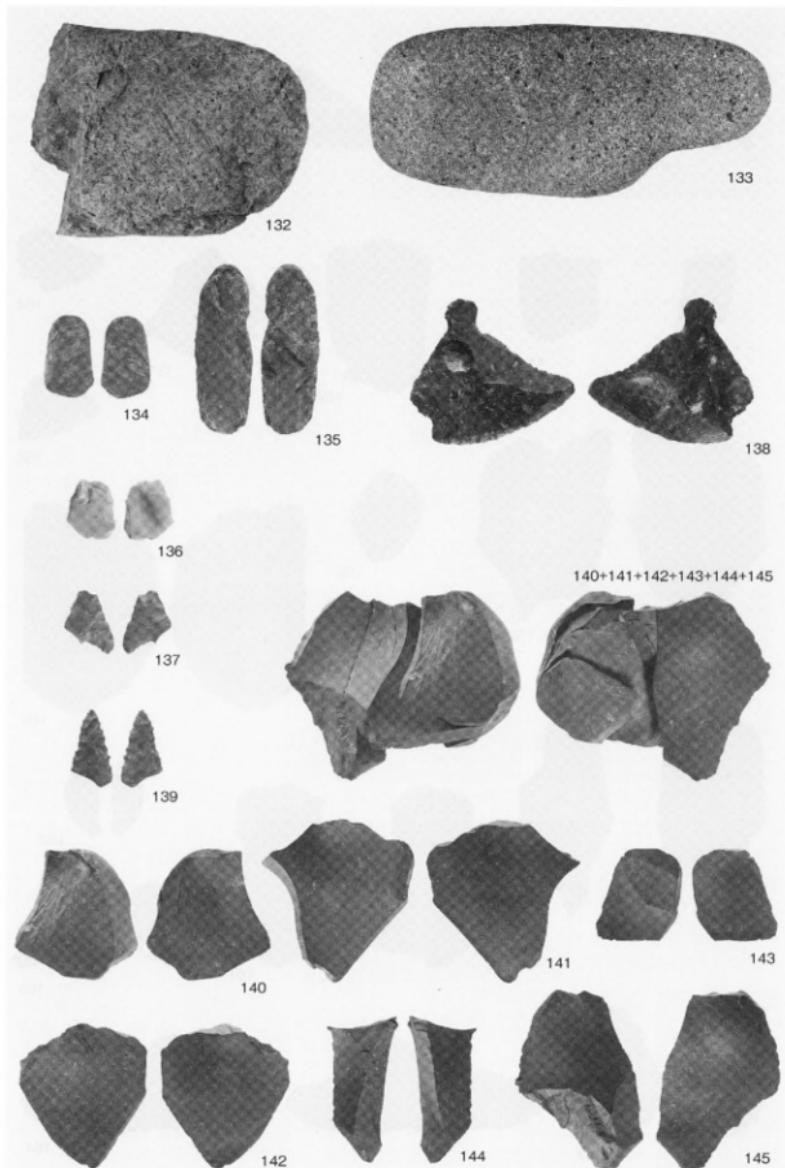
129



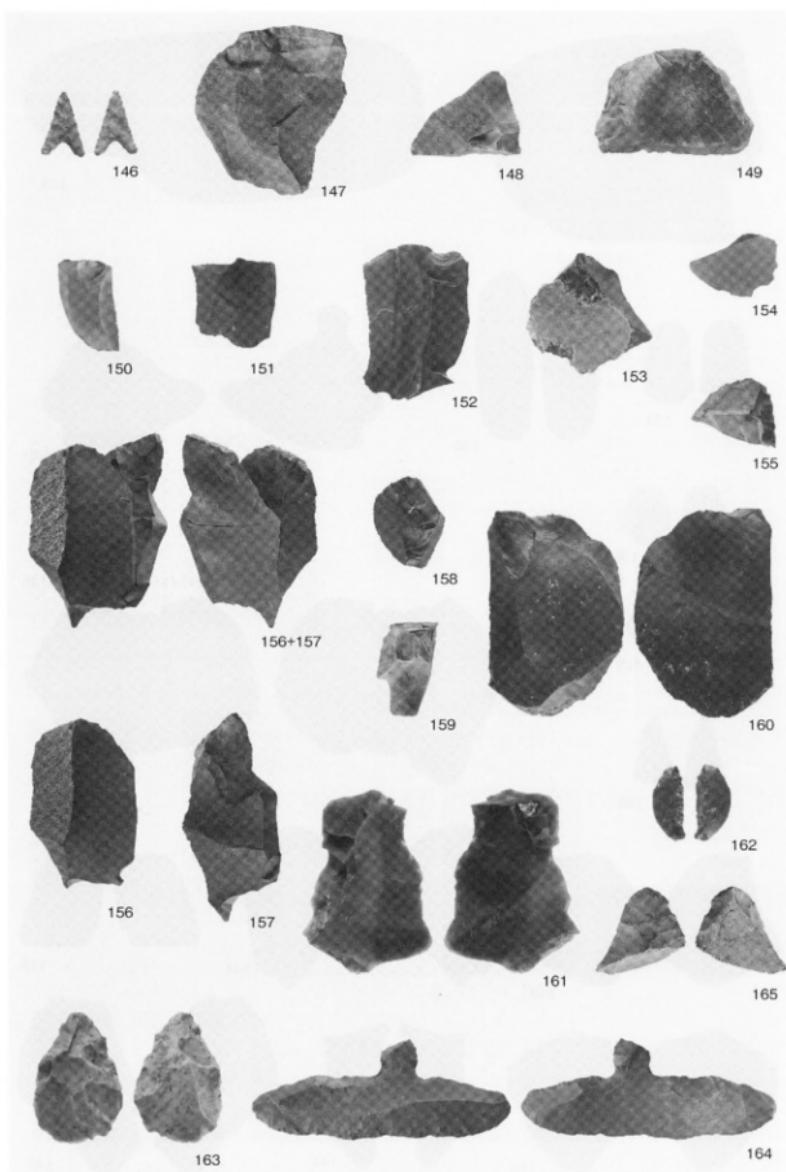
130



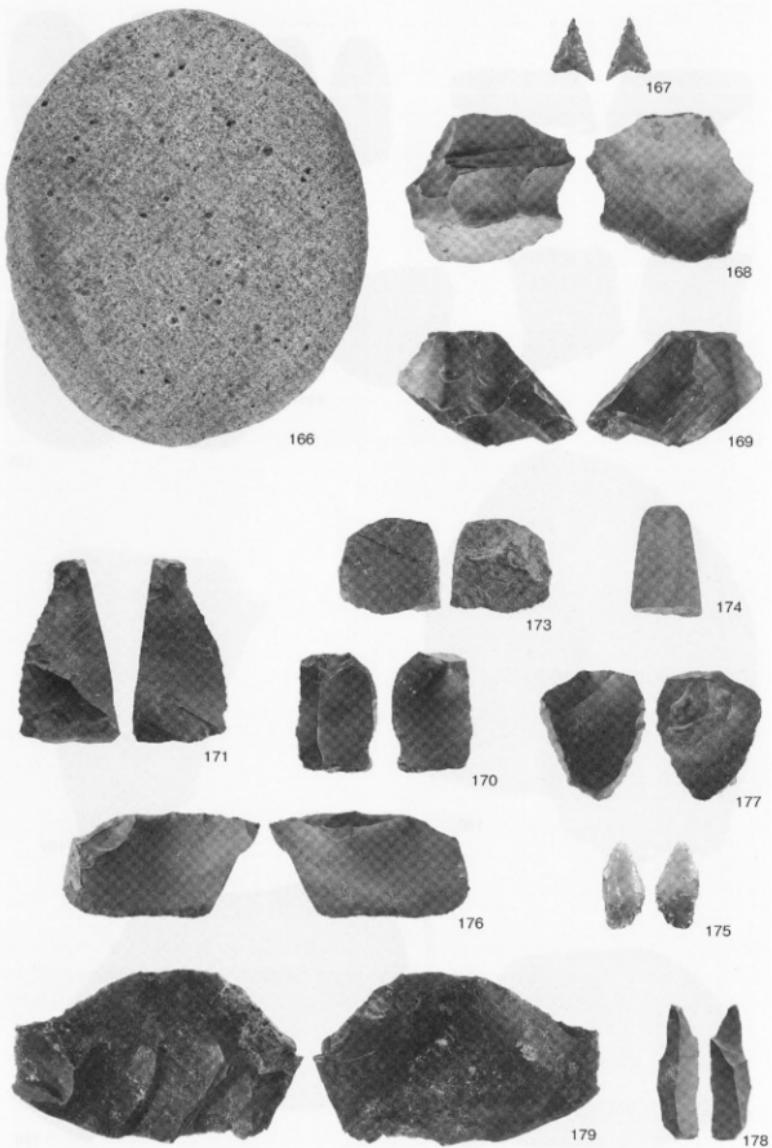
131



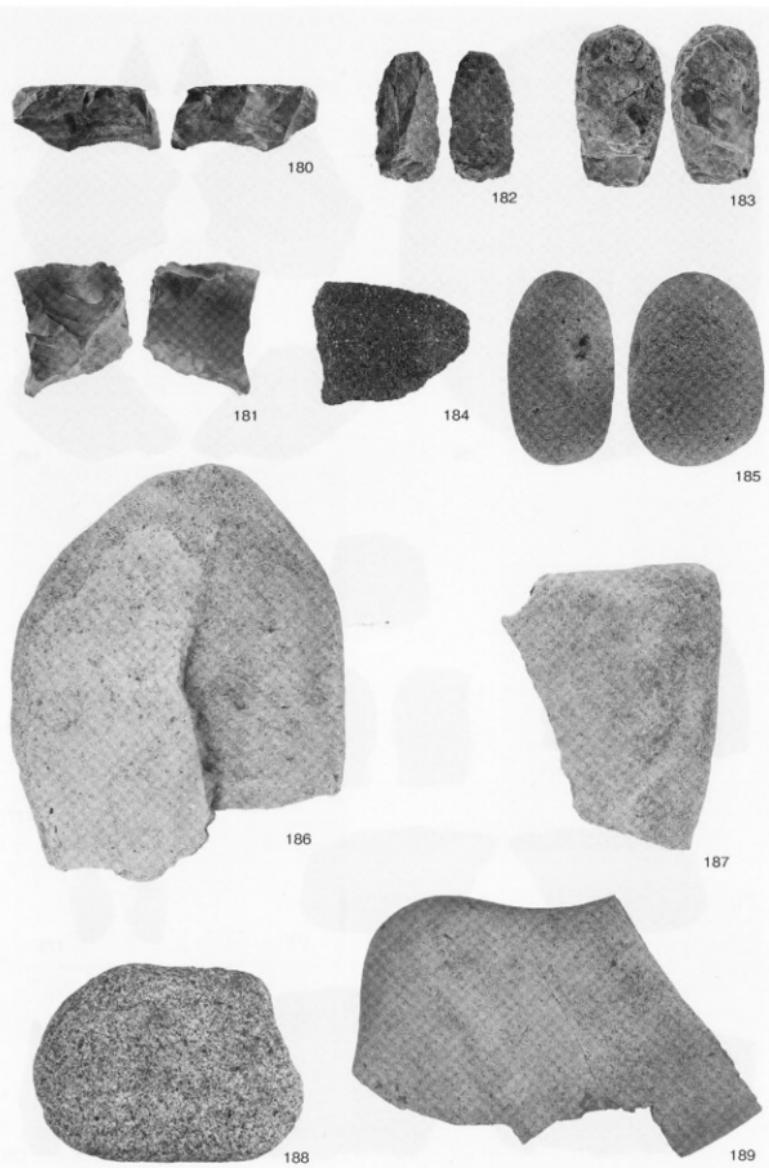
写真図版33 遺構内出土石器 (1)



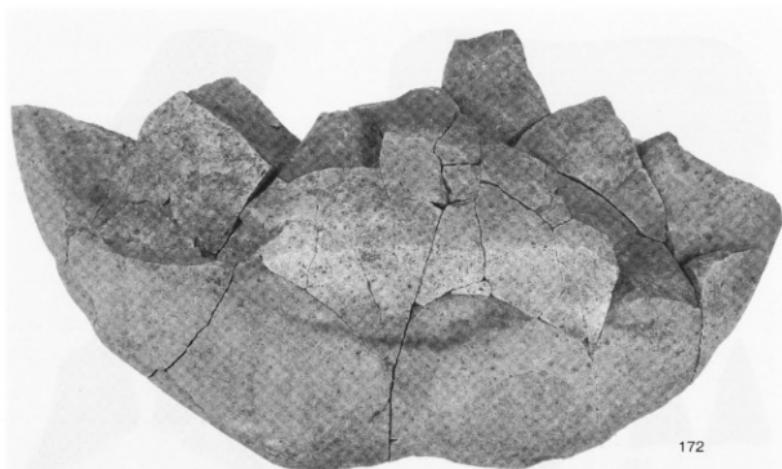
写真図版34 遺構内出土石器（2）



写真図版35 遺構内出土石器（3）



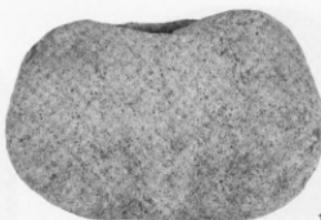
写真図版36 遺構内出土石器 (4)



172



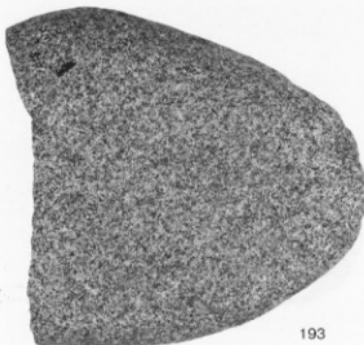
190



192

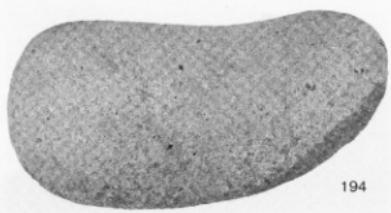


191



193

写真図版37 遺構内出土石器 (5)



194



195



198



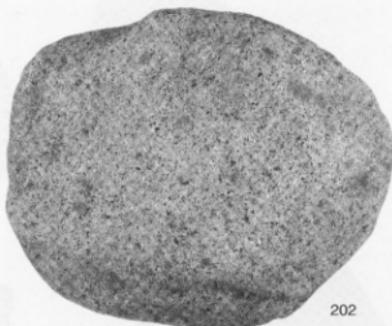
199



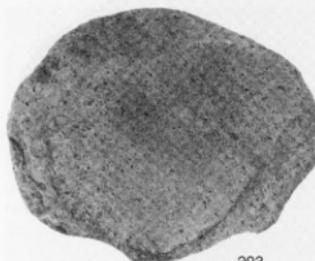
200



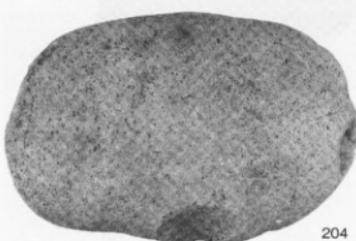
201



202

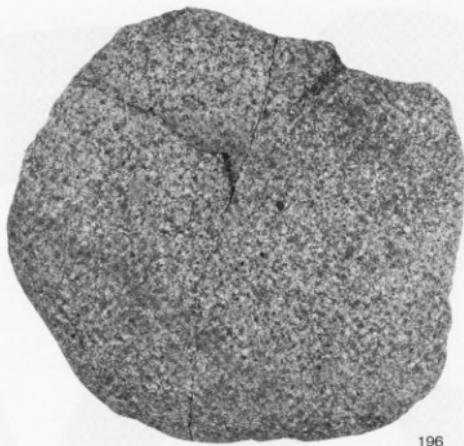


203

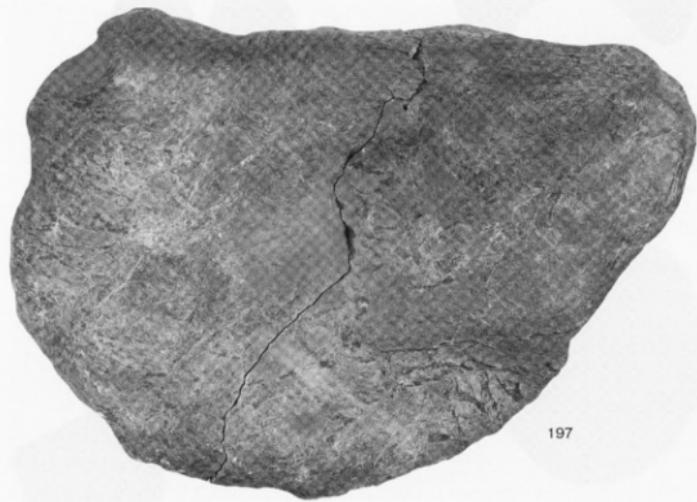


204

写真図版38 遺構内出土石器（6）



196



197

写真図版39 遺構内出土石器 (7)



205

206



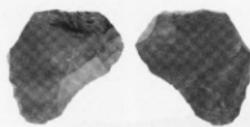
207



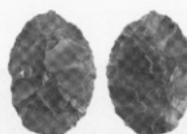
209



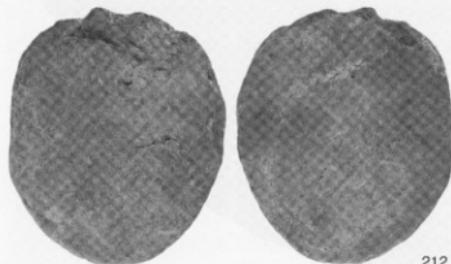
210



208



211



212

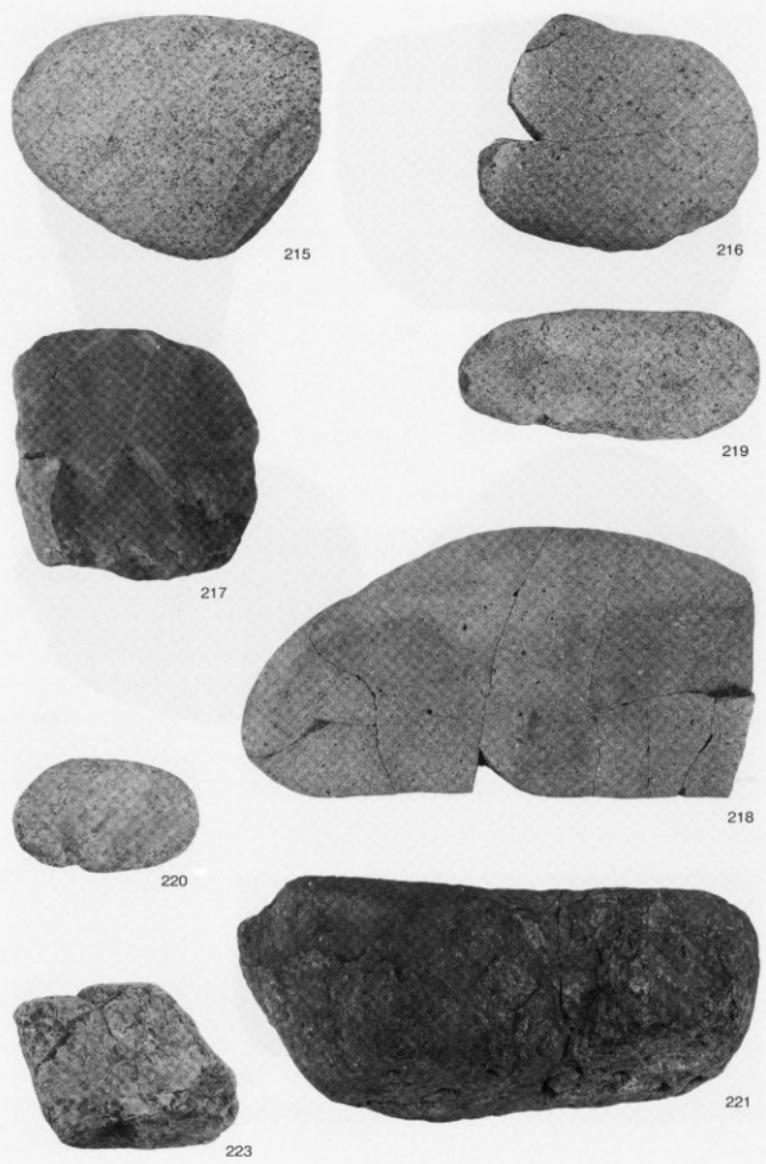


213

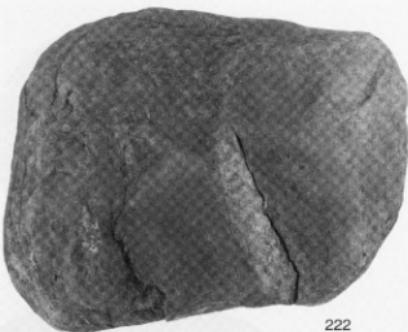


214

写真図版40 遺構内出土石器（8）



写真図版41 遺構内出土石器 (9)



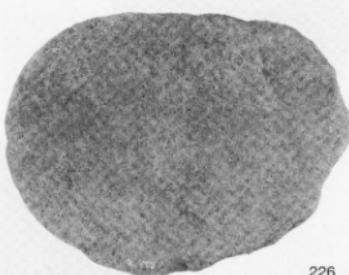
222



224



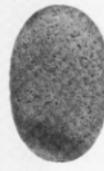
225



226

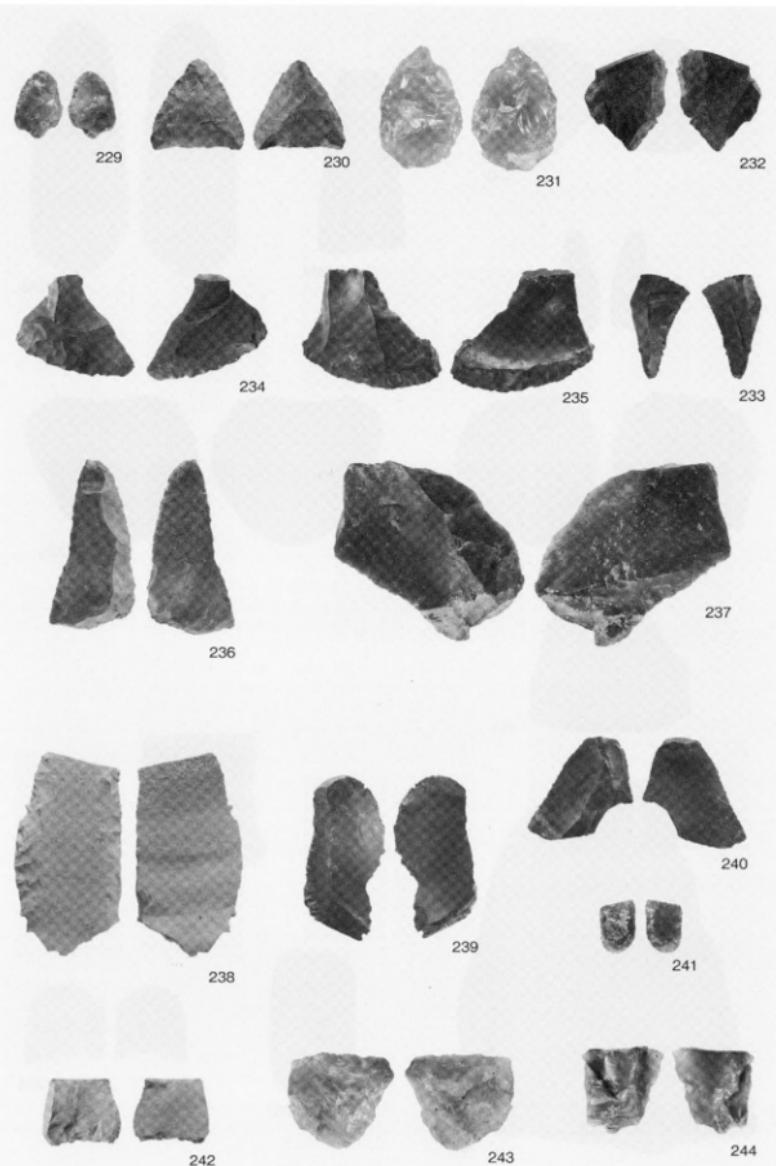


227



228

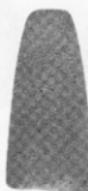
写真図版42 遺構内出土石器 (10)



写真図版43 遺構外出土石器（1）



245



247



248



246



249



250

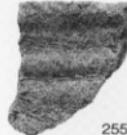
250



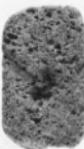
251



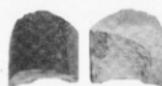
252



255

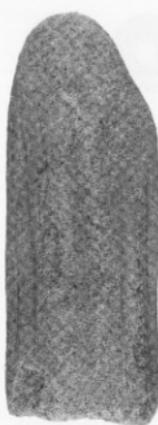


257

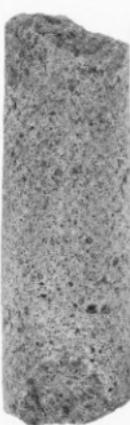


258

写真図版44 遺構外出土石器 (2)、石製品 (1)



253



254



260



256

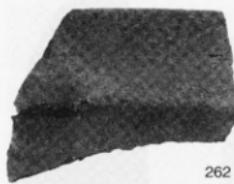


259



261

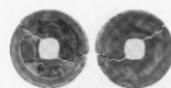
写真図版45 石製品（2）



262



263



264



265

写真図版46 須恵器、陶器、錢貨、植物遺存体

報告書抄録

| | | | | | | | |
|---------------|--|--------------------|---|---|---|---------------------------|------------------------------|
| ふりがな | とちゅういせきだいさんじはつくつちょうさほうこくしょ | | | | | | |
| 書名 | 戸仲遺跡第3次発掘調査報告書 | | | | | | |
| 副書名 | 一般国道106号篠川道路起点部改良工事関連遺跡発掘調査 | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第559集 | | | | | | |
| 編著者名 | 丸山浩治・菅野紀子 | | | | | | |
| 編集機関 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | | | | | | |
| 所在地 | 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL(019)638-9001 | | | | | | |
| 発行年月日 | 2009年12月24日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | 北緯 ○○○ | 東経 ○○○ | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 戸仲遺跡第3次 | 岩手県盛岡市 川目第4地割 51-3ほか | 03201 LE28-0232 | 39度 40分 25秒 | 141度 13分 45秒 | 2008.04.11 ～ 2008.06.17 | 1,500m ² | 一般国道106号篠川道路起点部改良工事に係る緊急発掘調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 戸仲遺跡第3次 | 集落跡 | 縄文時代 近世以降 | 堅穴住居 土坑 陥し穴状遺構 焼土遺構 配石遺構 集石遺構 埋設土器遺構 溝 | 8棟 6基 19基 4基 2基 1基 1基 1条 | 縄文土器・大コンテナ7箱 縄文土器・中コンテナ15箱 石製品9点 土製品6点 須恵器1点 陶器1点 錢 貨1点 | 埋設土器の伴わない石組のみの複式炉を有する堅穴住居 | |
| 要約 | <p>戸仲遺跡は、JR東北本線盛岡駅の南東約8.7km、北上川支流の篠川によって形成された河岸段丘上に立地する。標高は190m前後で、現況は水田、畑地、原野である。本遺跡第1・2次調査区は、今次調査区の北西側に位置する。</p> <p>今次調査区は、国道106号南側の法面下から篠川右岸にあたり、最低位の河岸段丘端部（上段）と旧河道（下段）に分けられる。上段部分では、縄文時代中期後葉～末葉の堅穴住居8棟と、重複関係から堅穴住居より古期の構築と判断される陥し穴状遺構が規則的な配置をもって19基検出された。堅穴住居は当該期特有の複式が有するもので、埋設土器の伴わないすべて石組の形態である。</p> <p>調査結果から、篠川に極めて近い地点に縄文時代中期後葉～末葉の集落が存在することが明らかとなつたが、第1・2次調査区において当該期の遺構はほとんど検出されていない。時期による遺地の違いを示す事象と考えられる。</p> | | | | | | |

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 559 集

戸仲遺跡第3次発掘調査報告書

一般国道 106 号築川道路起点部改良工事関連遺跡発掘調査

印 刷 平成 21 年 12 月 21 日

発 行 平成 21 年 12 月 24 日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地

電話 (019) 638 - 9001

発 行 岩手県盛岡地方振興局土木部築川ダム建設事務所

〒 020-0817 岩手県盛岡市東中野字沢田 94 - 1

電話 (019) 652 - 8822

(財)岩手県文化振興事業団

〒 020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番地 1 号

電話 (019) 654 - 2235

印 刷 (株)橋本印刷

〒 020-0015 岩手県盛岡市本町通 1 丁目 15 番 29 号

電話 (019) 652 - 1354

|